

PowerChute[®] Business Edition v.7.0.4

ULM1057-202

インストールガイド

ごあいさつ

このたびは『PowerChute[®] Business Edition v.7.0.4』をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本ガイドは、PowerChute[®] Business Edition v.7.0.4、および関連製品やインストール方法について説明しています。『PowerChute[®] Business Edition v.7.0.4』をご使用になる前に必ずお読みください。

また、本製品のインストール CD-ROM 内に関連するドキュメントを PDF ファイル形式で格納しておりますので、必要に応じて参照してください。

PDF ファイルを読むためには、Adobe[®] Acrobat Reader がインストールされている必要があります。必要に応じて CD-ROM 媒体の「Acrobat」フォルダに格納している Acrobat Reader インストールモジュール(AdbeRdr705_jpn_full.exe)を起動し、Acrobat Reader をインストールしてください。

Windows[®]は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Smart-UPS[®]、PowerChute[®]は American Power Conversion Corporation の登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat、および Adobe Acrobat ロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

インストールガイド : ULM1057-202

PowerChute[®] Business Edition v.7.0.4

American Power Conversion Corporation -- ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェア使用許諾契約書の翻訳は、ユーザの便宜のみを目的として提供されています。詳細は、下記のセクション 11 を参照してください。

本ソフトウェア使用許諾契約書（以後「契約書」）は、「ライセンサー」である American Power Conversion Corporation（以後「APC」）およびユーザ（以後「お客様」）の間で結ばれた法律上の契約であり、本契約書が付属している APC ソフトウェアに関するものです。

注釈 :本ソフトウェア製品のボタンラベルが「同意します」と異なる場合（「はい」など）、「同意します」に読み替えてください :

「I agree（同意します）」ボタンをクリックする、またはダウンロード、インストール、ロード、コピー等の方法でソフトウェアを使用することにより、ユーザは次のいずれかの意思表示をしたことになります。

* ユーザは、お客様（ユーザが代表となることを許可された法人）の代表としてこれらの条件を承諾する権限を得ている。

* ユーザは、お客様として本契約書の条件に従い個人的に契約する意思がある。

ユーザが代表となることを許可された法人の代表者としてこれらの条件を承諾した場合、ユーザはその法人の代表としてのみ本ソフトウェアを使用できます。個人的に契約した場合、本ソフトウェアの使用はユーザ個人での使用に限られます。

注釈 :本ソフトウェア製品のボタンラベルが「同意しません」と異なる場合（「いいえ」など）、「同意しません」と読み替えてください :

ユーザが企業またはその他の法人の代表としてこれらの条件を承諾する権限を得ていない、もしくは個人的に契約する意思がない場合、APC は本ソフトウェアをライセンスいたしませんので、「同意しません」ボタンをクリックしてください。

本契約書の条件に違反して本ソフトウェアをインストールまたは使用すると、米国著作権法および国際条約に違反することになります。

APC ソフトウェアにサードパーティ製ソフトウェアが付属している場合、当該サードパーティ製ソフトウェアは本ライセンス契約条件の対象外となります。当該サードパーティ製ソフトウェアのライセンス契約が、当該ソフトウェアに関するお客様およびライセンサーの責任を規定します。

1. ライセンスの許可

これにより、APC は本契約書の条件に従って本ソフトウェアの使用に関する非独占的、譲渡不可能なライセンスを許可し、お客様はそのライセンスを受諾することに同意します。本ソフトウェアは、APC またはそのサプライヤが所有し、著作権を保有しています。お客様のライセンスはソフトウェアの所有権または権限を付与するものではなく、本ソフトウェアにおける権利を販売するものでもありません。

APC は、本ソフトウェアおよびすべての修正に関する所有権および権限をすべて保持しています。

お客様が貸与、リース、先取特権の付与、またはその他の方法で本ソフトウェアに対する権利を譲渡することは禁止されています。また、お客様がソフトウェア内の商標、ロゴ、著作権等の所有権表示、銘板、シンボル、またはラベルを除去し、改変することも禁止されています。

2. 使用权

本ソフトウェアは、本契約書の本「使用权」セクション、または関連した送り状に記載された人数のユーザによる使用、または記載された台数のサーバまたはワークステーション上での使用（あるいはその両方）に関してのみライセンスされます。

お客様は、本ソフトウェアを次のいずれかの方法で使用できます。

* APC UPSを電源とする単一のファイルサーバ上で、その単一のファイルサーバに接続されたコンピュータおよび関連周辺装置にサービスを提供する目的での使用

* 同一APC UPSを電源とする1台または複数台のコンピュータ上での使用

* Webサーバをサポートする目的での使用（Webサーバは、1つまたは複数のネットワーク上に存在する不定台数のワークステーションまたはコンピュータに制限なく接続できます）

3. 複製権

お客様は、次の目的に限り、本ソフトウェアのコピーを作成できます。

* お客様は、保存またはバックアップの目的で本ソフトウェアのコピーを1部作成できます。

* お客様は、本契約書、または本ソフトウェアに付属のドキュメンテーション（あるいはその両方）の記述に従って、認可および意図された方法で本ソフトウェアを使用するために必要な場合に限り、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションの追加コピーを作成できます。

お客様は、次の目的に限り、本ソフトウェアのコピーを作成できます。

すべてのコピー（保存用コピーを含む）には、APC著作権表示、およびライセンスされたソフトウェアに付属しているその他の所有権表示が含まれている必要があり、また本契約書の条件に完全に従っている必要があります。

インストールガイド : PowerChute Business Edition v.7.0.4

ULM1057-202
856-125767-030-A

お客様は、本ソフトウェアを再配布してはならず、また再配布の目的でコピーを作成してはなりません。

4. 制限事項

お客様は、次のことを行ってはなりません。

- * 逆アセンブル、逆コンパイル、またはその他の方法で本ソフトウェアからソースコードの生成を試みること。
- * 本ソフトウェア、または本ソフトウェアの任意の部分をもとに、模倣物を作成すること。
- * 事前の書面によるAPCの承諾なしに、本ソフトウェアまたはそのドキュメンテーションをローカライズまたは翻訳すること。
- * 事前の書面によるAPCの承諾なしに、本ソフトウェアに対して実行したベンチマークテストの結果を第三者に公開または提供すること。

5. 本契約の期間および終了

本ライセンスは、お客様が本契約に従って本ソフトウェアを使用する限り継続するものとします。お客様が義務のいずれかに違反した場合、本ライセンスは終了するものとし、APCによる通告および要求に応じて、お客様は本ソフトウェアのコピーすべてと、本ソフトウェア用に提供された、または本ソフトウェアに付属していた資料すべてを破棄または返却することに同意するものとします。お客様は、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションのコピーすべてをAPCに返却することによって、本契約を終了できます。

6. 限定保証

APC限定保証は、お客様が本ソフトウェアを受け取った時点から90日間適用されます。

APCは、限定保証期間中に、本ソフトウェアが付属のソフトウェアユーザドキュメンテーションに記載されているとおりに機能すること、および通常の適切かつ意図された使用条件では、本ソフトウェアが収録されている媒体の材料および品質に欠陥がないことを保証します。

本保証は、次の場合には適用されません。

- * 本ソフトウェアが、ドキュメンテーションに指定されたもの以外のマシン、または指定されたバージョン以外のオペレーティングシステム上で使用された場合。
- * 本ソフトウェアが、誤用、過失、事故、またはドキュメンテーションに指定された条件を超える環境条件にさらされたことにより、損傷を受けた場合。
- * APCが提供する修正プログラムの一部を適用していないバージョンのソフトウェアを使用した場合。
- * ソフトウェアが改造された場合。

APCは、ソフトウェアが中断またはエラーなしに使用できること、およびプログラムエラーが修正されることを保証しません。

本保証においてAPCが負う義務、およびお客様が受けられる補償は、APCの判断に基づく、ソフトウェア全体または一部の修理または交換、または支払われたライセンス料金の払い戻しのみです。本限定保証は、APCが90日の保証期間中に書面による通告を受け取った場合にのみ有効です。

7. 保証および義務の制限

本契約書のセクション6「限定保証」に明示的に規定されたものを除き、以下の制限があります。(i) APCは本ソフトウェアに関し、お客様または第三者に対して、過失に関する義務を含むいかなる義務も負いません。(ii) 明示的なもの、暗黙的なもの、法律上のもの、本契約書のその他の規定にあるもの、もしくはその他の連絡手段にあるものを問わず、APCは一切の保証を行わず、お客様は一切の保証を受けません。(iii) APCは、商品性、特定目的に対する適合性、権限、特許権無侵害を含む、いかなる保証も行いません。

APCは、いかなる場合においても、派生的損害、間接的損害、特別損害、複合損害、または付随的損害に関して一切責任を負わないものとします。たとえAPCがかかる損害の可能性に関して知らされていた場合でも同様です。

国または地域によっては、暗黙的保証の除外、または付随的あるいは派生的な損害の制限が許可されていないため、前述の制限または除外が適用されない場合があります。ただし、該当する法律によって許可されたすべての範囲で、法律上必須の保証（存在する場合）の有効期間は、90日の保証期間に制限されます。

APCのディーラ、代理店、従業員、お客様は、本限定保証を変更、拡張、追加することを許可されていません。本ソフトウェアに関連した請求に対する、お客様へのAPCの累積負担は、お客様が本ソフトウェアに対してAPCに支払ったライセンス料金すべての合計額を超えないものとし、またライセンス料金が不要であった場合は、ソフトウェアの交換を超えないものとします。

8. 危険な状況、リスクの高い状況、または人命に関わる状況における無保証

本ソフトウェアはフォールトトレラントではなく、安全の保証された動作を必要とする危険な環境（ソフトウェアの障害が、死亡、けが、または重大な物理的損害、環境汚染に直接つながる原子力施設、航空機のナビゲーションシステムまたは通信システム、航空交通管制、直接生命維持装置、兵器システム等の操作）での制御機器として使用または再販売するために設計または製造されておらず、そのような目的のものではありません。したがって、APCおよびそのサプライヤは、このような危険な活動、リスクの高い活動、または人命に関わる活動に対する明示または暗黙の適合性の保証を一切行いません。

9. カスタマサポートに関連した技術情報の使用

お客様は、技術/カスタマサポートサービスを受けている間にお客様が提供した技術情報を、APCが使用することに同意するものとします。APCは、かかる情報を自社の業務上の目的（製品のサポートや開発等）に利用できますが、お客様の身元が分かるような形態でかかる情報を使用しないことに同意します。

10. 譲渡に関する制限

本契約書、本契約書のもとで許可されるライセンス、本ソフトウェア、および本ソフトウェアに対するすべての修正は、事前の書面によるAPCの承諾がなければ、譲り受けることも、いかなる方法で譲渡することもできません。

11. 契約書の言語および地域

本契約書の原典は英語で書かれています。本書の関係者は、別の法律または裁判所を規定する可能性のある規則、法律、または規制の適用、または英語以外で書かれた本契約書を所持することを要求しないものとします。本契約書を英語以外の言語に翻訳したものは、お客様の便宜のみを目的として提供されるものであり、本契約書の法的拘束力を持つ版ではありません。

本契約書の条件は、米国マサチューセッツ州の法律に準拠して解釈され、当州の法の抵触に関する原則、または法律の選択には効力を及ぼしません。APCとお客様は、物品の国際売買契約に関する国連協定(United Nations Convention on Contracts for the International Sale of Goods)を本契約書に適用しないものとします。

12. 米国政府の制限された権利の説明

本ソフトウェアおよびドキュメンテーションは、「商業用品目」（48 C.F.R. 2.101（1995年10月）で定義されている用語に従う）であり、「商業用コンピュータソフトウェア」および「商業用コンピュータソフトウェアドキュメンテーション」（48 C.F.R. 227.7202-1、227.7202-3、および227.7202-4（1995年6月）で使用されている用語に従う）で構成されます。お客様が米国政府、またはその機関または省である場合、本ソフトウェアおよびドキュメンテーションは商業用品目としてのみライセンスされ、本契約書の条件に準ずる他のすべてのエンドユーザに対して許可される権利だけが与えられます。ライセンサーは、American Power Conversion Corporation, P.O. Box 278, 132 Fairgrounds Rd., West Kingston, RI 02892, U.S.A.です。

13. 輸出規制

本ソフトウェア、またはその基礎となる情報または技術は、次のいずれに対しても、ダウンロード等の方法により再輸出することはできません。

- * 米国が通商禁止品目を指定している対象国（あるいは国民または在住者）
- * 米国財務省の特別指定国民（Specially Designated Nationals）リストに記載されている者
- * 米国商務省の発注拒絶表（Table of Denial Orders）に記載されている者

本ソフトウェアのダウンロードまたは使用により、お客様は前述のことに同意したものとし、お客様がかかる国に所在しないこと、かかる国の管理下にないこと、かかる国の国民または在住者でないこと、かかるリストに記載されていないことを保証するものとします。

お客様は、本ソフトウェアの輸出入または使用に影響する可能性のある、地域の法律を遵守する義務があり、本ライセンスを実施可能にするために当該法律が要求する規制や登録手順を遵守していることを意思表示したものとします。

ライセンスおよび商標

APC のロゴ、APC、Back-UPS、Back-UPS Pro、FlexEvent、Matrix-UPS、Measure-UPS、Power Array、PowerChute、PowerStack、PowerXtend、Share-UPS、SmartBoost、SmartCell、SmartTrim、Smart-UPS、およびSymmetra は、American Power Conversion Corporation の商標または登録商標です。

他の商標、製品、および企業名は、それぞれの企業が保有し、ここでは参照用としてのみ用いられています。

AMERICAN POWER CONVERSION CORPORATION

本社

132 Fairgrounds Road
P.O. Box 278
West Kingston, RI 02892
United States of America
Telephone: 401-789-5735
Toll Free (US and Canada): 800 800 4272

日本

〒141-0031
東京都品川区西五反田 2-30-4
BR 五反田7 階
電話: 03-5434-2021
Fax: 03-5434-2022.

目次

1	PowerChute Business Edition 製品の内容	2
2	ハードウェア要件	3
3	ソフトウェア要件	6
4	PowerChute Business Edition概要	7
4.1	はじめに	7
4.2	PowerChute Business Editionのコンポーネント	8
4.3	システム構成例とインストールコンポーネント	8
4.3.1	UPSを接続した管理対象サーバが25台以下の場合	8
4.3.2	UPSを接続した管理対象サーバが26台以上の場合	13
5	PowerChute Business Edition v.7.0.4 インストール	17
5.1	PowerChute Business Editionエージェントのインストール	19
5.2	PowerChute Business Editionサーバのインストール	23
5.2.1	サーバのインストール	23
5.2.2	設定プロファイル変更時のエラーおよびステータスメッセージ	31
5.3	PowerChute Business Editionコンソールのインストール	33
6	PowerChute Business Edition v.7.0.4 アンインストール	36
7	コンソールの操作	37
7.1	サーバへの接続	37
7.2	エージェントの登録	38
7.3	エージェントの削除	42
7.4	サーバが自動検出されない場合の対処方法	43
7.5	エージェント登録時のエラーおよびステータスメッセージ	46
8	WebUIでの操作	49
8.1	Java Runtime Environment の確認	49
8.2	エージェントへの接続	50
8.3	エージェントの設定	51
8.4	イベントアクションの設定	54
9	シャットダウンプロセスについて	58
9.1	シャットダウンシーケンスの設定	58
9.2	シャットダウンタイプの設定	64
9.2.1	「シャットダウン」を選択した場合	65
9.2.2	「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合	65
9.2.3	「休止する」を選択した場合	66
9.3	スケジュールによるシャットダウンプロセス	67
9.4	電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「安全性を重視」の場合）	68
9.5	電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「ランタイム重視」の場合）	70
10	スケジュールシャットダウンの設定	73
11	UPSとの通信設定について	77
11.1	シグナリングタイプの変更	78
11.1.1	スマートシグナリングからシンプルシグナリングへの変更	80
11.1.2	シンプルシグナリングからスマートシグナリングへの変更	84
11.2	通信ポートの変更	88
12	ユーザ名、パスワードの変更	91
12.1	ユーザ名、パスワードの変更手順	91
12.2	確認方法	92

1 3	IPアドレス、コンピュータ名の変更.....	94
1 3. 1	IPアドレスを変更する場合.....	94
1 3. 2	コンピュータ名を変更する場合.....	96
1 3. 3	IPアドレス、コンピュータ名を変更する場合.....	97
1 4	コンソールとWebUIにおける機能差分.....	99
1 5	障害発生時の資料採取方法.....	101
1 5. 1	障害時の資料採取.....	101
1 5. 1. 1	PowerChute Business Editionのログ.....	101
1 5. 1. 2	OSのイベントログの採取.....	102
1 5. 1. 3	システム情報ファイル.....	103
1 5. 1. 4	CollectログとIPMIログ.....	103
1 5. 1. 5	確認事項.....	104
1 5. 2	障害調査依頼票.....	111

インストールガイド : ULM1057-202

PowerChute Business Edition v.7.0.4

本インストールガイドは次の項目で構成されています。

- PowerChute Business Edition 製品の内容
- ハードウェア要件
- ソフトウェア要件
- PowerChute Business Edition概要
- PowerChute Business Edition v.7.0.4インストール
- PowerChute Business Edition v.7.0.4アンインストール
- コンソールの操作
- WebUIでの操作
- シャットダウンプロセスについて
- スケジュールシャットダウンの設定
- UPSとの通信設定について
- ユーザ名、パスワードの変更
- IPアドレス、コンピュータ名の変更
- コンソールとWebUIにおける機能差分
- 障害発生時の資料採取方法

1 PowerChute Business Edition 製品の内容

PowerChute Business Edition の製品内容は次の通りです。添付品が全てそろっているかどうか、確認してください。

- PowerChute Business Edition v.7.0.4 (CD-ROM 媒体)
- インストールガイド (本書)
- リリースノート
- インタフェースケーブル (940-0024C)

注意 : PowerChute Business Edition v.7.0.4 CD-ROM 媒体内の、Windows¥bin (フォルダ) 直下の relnotes_jp.chm (relnotes.chm) および getstart_jp.chm (getstart.chm) は、本製品 (ULM1057-202) に添付のインストールガイド (本書) およびリリースノートとは製品条件および使用時の注意等、一部内容が異なりますので参照しないでください。

注意 : インストール CD-ROM 媒体内には「Linux」・「Solaris」用のインストールモジュールも含まれていますが、「Linux」・「Solaris」の機能はサポートしていません。

※ユーザーズガイド : HTML 形式のオンラインヘルプ (コンパイル済み HTML ファイル) が用意されています。HTML 形式のオンラインヘルプを参照するには、以下のいずれかの方法にて参照してください。

- PowerChute Business Edition の各 GUI 上の [ヘルプ] ボタンをクリックする。
- PowerChute Business Edition コンソール画面の [ヘルプ] → [目次] および [現トピックのヘルプ] を選択する。
- [スタート] → [プログラム] → [APC PowerChute Business Edition] → [コンソールのヘルプ] を選択する。

2 ハードウェア要件

本製品を使用するには以下の環境が必要です。

① PowerChute Business Edition エージェントの要件

要件	最低	推奨
プロセッサ	Pentium III 500MHz	Pentium III 600MHz
RAM	128 MB	128 MB

② PowerChute Business Edition サーバの要件

要件	最低	推奨
プロセッサ	Pentium III 600MHz	Pentium III 700MHz
RAM	256 MB	256MB

③ PowerChute Business Edition コンソールの要件

要件	最低	推奨
プロセッサ	Pentium III 500MHz	Pentium III 600MHz
RAM	128MB	128MB
解像度	800 x 600	1024 x 768 (以上)
表示色数	16 ビットカラー	24 ビットカラー
Internet Explorer のバージョンは 6 以降		

※ PowerChute Business Edition サーバコンポーネントに含まれる「デバイスリストウィザード」、「設定プロファイルウィザード」についても上記要件を満たす必要があります。

空きディスク容量

- ・ エージェント : 56.5MB以上 (うちJRE約38.5MB)
- ・ サーバ : 96.5 MB以上 (うちJRE約38.5MB)
- ・ コンソール : 42.5 MB以上

また、TCP/IP ネットワークに接続されており、以下の条件も満たしていなければなりません。

無停電電源装置

MN型番で販売されているSmart-UPS

※ MN型番の付かないUPSでの本製品の使用は、サポート対象外になります。

接続ケーブル

PowerChute Business Edition エージェントは、シリアルケーブルを介して UPS との通信を行います。シリアルケーブルは、PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバのシリアルポートと UPS 間に接続されます。使用するシリアルケーブルは次の表を参照してください。

UPS 関連装置		接続するシリアルケーブルの MN 型番	補足
Smart-UPS		(本製品に添付)	・ 黒いケーブル (940-0024C)
UPS インタフェース拡張ボード (MN8180-14)		MN8580-04	・ 灰色のケーブル (940-0020B)
マルチサーバ接続 BOX (Share UPS) (N8180-41)	Advanced Port に接続	(本製品に添付)	・ 黒いケーブル (940-0024C)
	Basic Port に接続	MN8580-04	・ 灰色のケーブル (940-0020B)

《注意事項》 USB ケーブル接続について

USB 接続は未サポートであるため、USB インタフェースは使用できません。

BIOSの設定

■シリアルポート（COMポート）の設定

BIOS の設定で保守コンソール用に割り当てられている COM ポートを、UPS 用に使用した場合に UPS が誤作動することがあるため、保守コンソール用に割り当てられている COM ポートを UPS 用として使用しないでください。

また、UPS に使用している COM ポートを BIOS の設定で保守コンソール用として割り当てると、UPS が誤作動することがあるため、UPS に使用している COM ポートを保守コンソール用に使用しないでください。

注意：使用しているサーバ装置によっては、使用可能なシリアルポートが COM2 のみと限定されている場合があります。サーバ装置に添付のユーザズガイドを参照し、使用可能なシリアルポートを確認してください。

■AC-LINK の設定

サーバ装置における BIOS の設定により、UPS からの電力供給が開始されても、サーバが起動しない場合があります。BIOS の設定を確認してください。

== UPS を使って自動運転を行う場合の注意 ==

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK（AC 連動モード）を「Power ON」にさせていただく必要があります。BIOS の設定方法については、サーバにより異なります。サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。

注意：AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」と記載されている場合があります。

3 ソフトウェア要件

本製品を使用するには、次のいずれかのOSが必要です。

PowerChute Business Editionをインストールする前に、OSには必要なService Packを適用しておいてください。

- Windows 2000 Professional/Server/Advanced Server (Service Pack 4以降)
- Windows XP Professional (Service Pack 2以降)
- Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server (32bit版のみ)
- Windows Server 2003 Standard x64 Edition/Enterprise x64 Edition (EM64Tのみ)

— PowerChute Business Editionでは、TCP/IPによるネットワーク接続されていることが必要です。

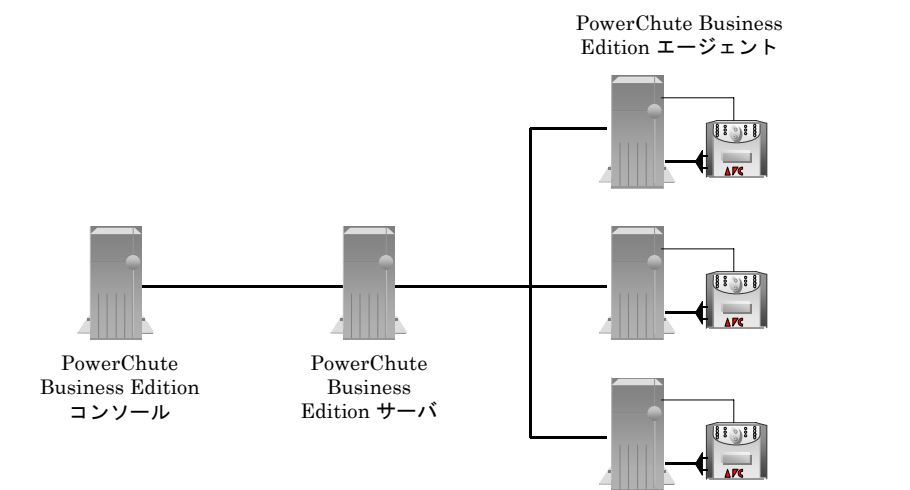
— 旧バージョンのPowerChute Business Editionが既にインストールされている場合は、旧バージョンのPowerChute Business Editionをアンインストールした後、本バージョンのPowerChute Business Editionをインストールしてください。

— WebUI機能を使用する際には、「8 WebUIでの操作」を参照してください。

4 PowerChute Business Edition 概要

4.1 はじめに

PowerChute Business Edition ソフトウェアは、図のように PowerChute Business Edition エージェント、PowerChute Business Edition サーバ、および PowerChute Business Edition コンソールの 3 種類の独立したコンポーネントから成り立っています。各サーバにインストールされるコンポーネントの組み合わせは、特に制限がありません。例えば、1 つのサーバに全てのコンポーネントをインストールすることも可能です。



これらのコンポーネントの詳細については「4.2 PowerChute Business Editionのコンポーネント」を参照してください。各コンポーネントのインストールの概要は、「5 PowerChute Business Edition v.7.0.4 インストール」を参照してください。

4.2 PowerChute Business Edition のコンポーネント

■ PowerChute Business Edition エージェント

UPS ステータス監視機能、および長時間の停電時に UPS が保護するコンピュータのシステムシャットダウン機能を提供しています。このソフトウェアは、UPS に直接接続されている各サーバ上にインストールする必要があります。

PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために、PowerChute Business Edition サーバおよび PowerChute Business Edition コンソールが必要となります。

■ PowerChute Business Edition サーバ

PowerChute Business Edition エージェントの設定と監視を行うために用いられます。PowerChute Business Edition サーバは PowerChute Business Edition エージェントから情報を収集して、イベントの追跡や通知、PowerChute Business Edition コンソールと通信を行います。

1 台の PowerChute Business Edition サーバで管理できる PowerChute Business Edition エージェントの最大数は 25 台です。25 台を超える PowerChute Business Edition エージェントを管理する場合には、PowerChute Business Edition サーバは 2 台以上必要となります。

■ PowerChute Business Edition コンソール

PowerChute Business Edition サーバに接続して、UPS で保護されているシステムの管理と設定を行います。

注意： PowerChute Business Edition で自動運転を行う場合、スケジュールシャットダウンの設定は PowerChute Business Edition コンソールでのみ行うことができます。

4.3 システム構成例とインストールコンポーネント

4.3.1 UPS を接続した管理対象サーバが 25 台以下の場合

UPS を接続した管理対象となるサーバマシンの管理をどこから行うかによって、インストール方法は以下の選択肢があります。各マシンの OS がサポート対象の Windows であれば(1),(2)のいずれの構成も可能です。ただし、ターミナルサービスクライアントを使用してサーバを管理する場合は(2)の構成となります。

- (1) UPS に接続するサーバ本体のみで管理する構成
- (2) ターミナルサービス経由で管理する構成
- (3) UPS に接続するサーバをリモートのマネージャから管理する構成

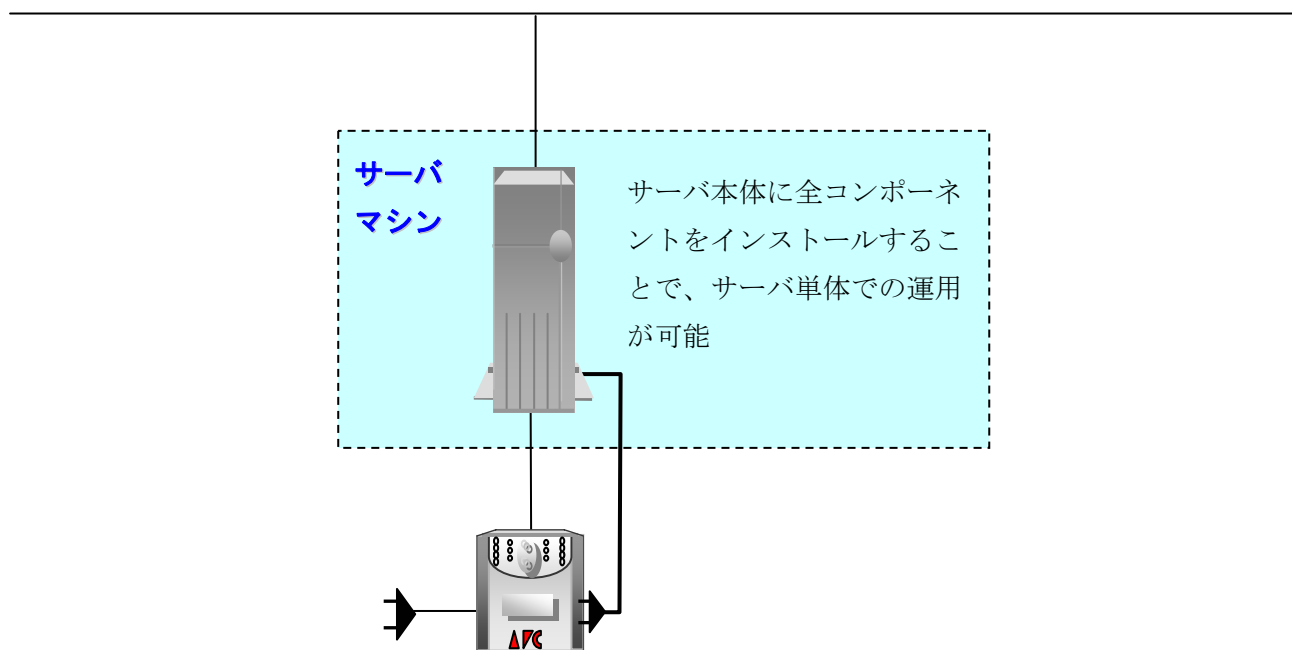
(1) UPS に接続するサーバ本体のみで管理する構成

サーバ OS が Windows であれば、サーバ本体に全コンポーネントをインストールして UPS の制御／管理を行うことが可能です。

※単体構成の場合でも TCP/IP によるネットワーク接続が行えることが必要になります。

サーバ	インストールするコンポーネント	備考
サーバマシン	PowerChute Business Edition コンソール PowerChute Business Edition サーバ PowerChute Business Edition エージェント	■ Windows サーバを使用 エージェントのインストール時に 「Smart-UPS」を選択

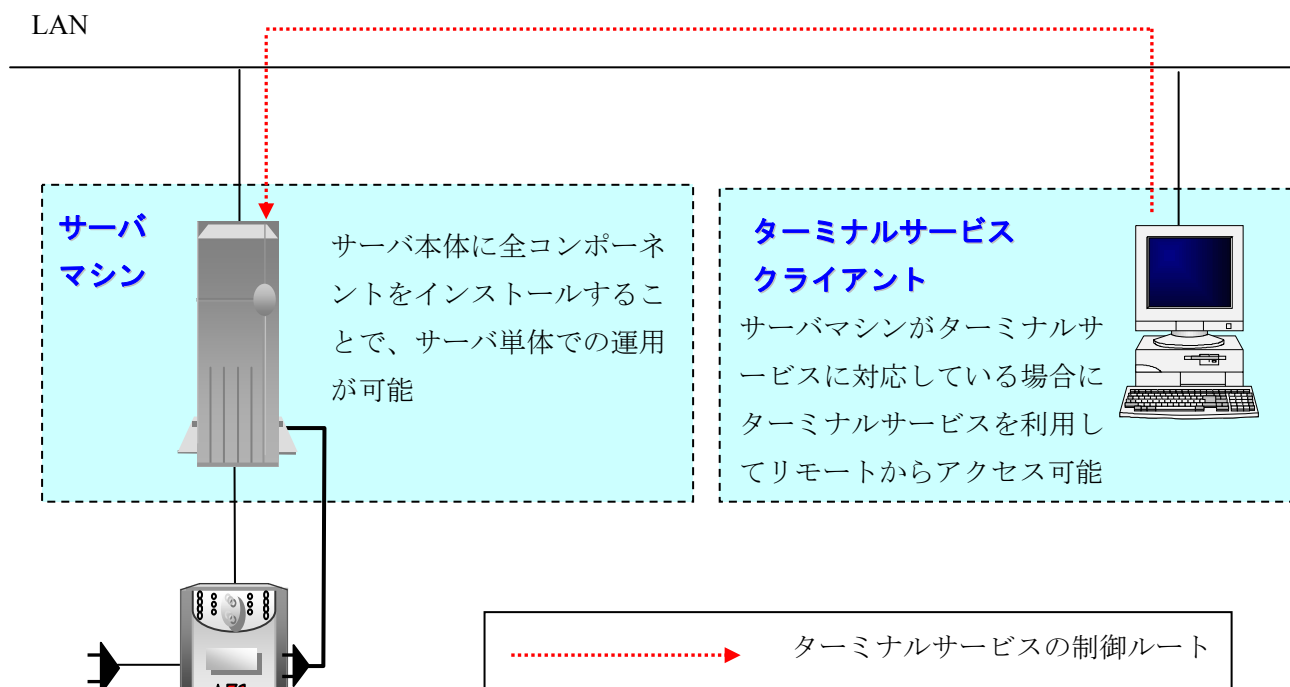
LAN



(2) ターミナルサービス経由で管理する構成

ターミナルサービスクライアントを経由してサーバ管理を行うようなシステムの場合、使用するターミナルサービス接続用のクライアントアプリケーションが Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」であるか「リモートデスクトップ接続」であるかにより、ターミナルサーバマシンへインストールする PowerChute Business Edition コンポーネントが異なります。

サーバ/マネージャ	インストールするコンポーネント	備考
サーバマシン	PowerChute Business Edition コンソール PowerChute Business Edition サーバ PowerChute Business Edition エージェント	■ Windows サーバを使用 エージェントのインストール時に 「Smart-UPS」を選択
ターミナルサービス クライアント	なし	



(3) UPS に接続するサーバをリモートのマネージャから管理する構成

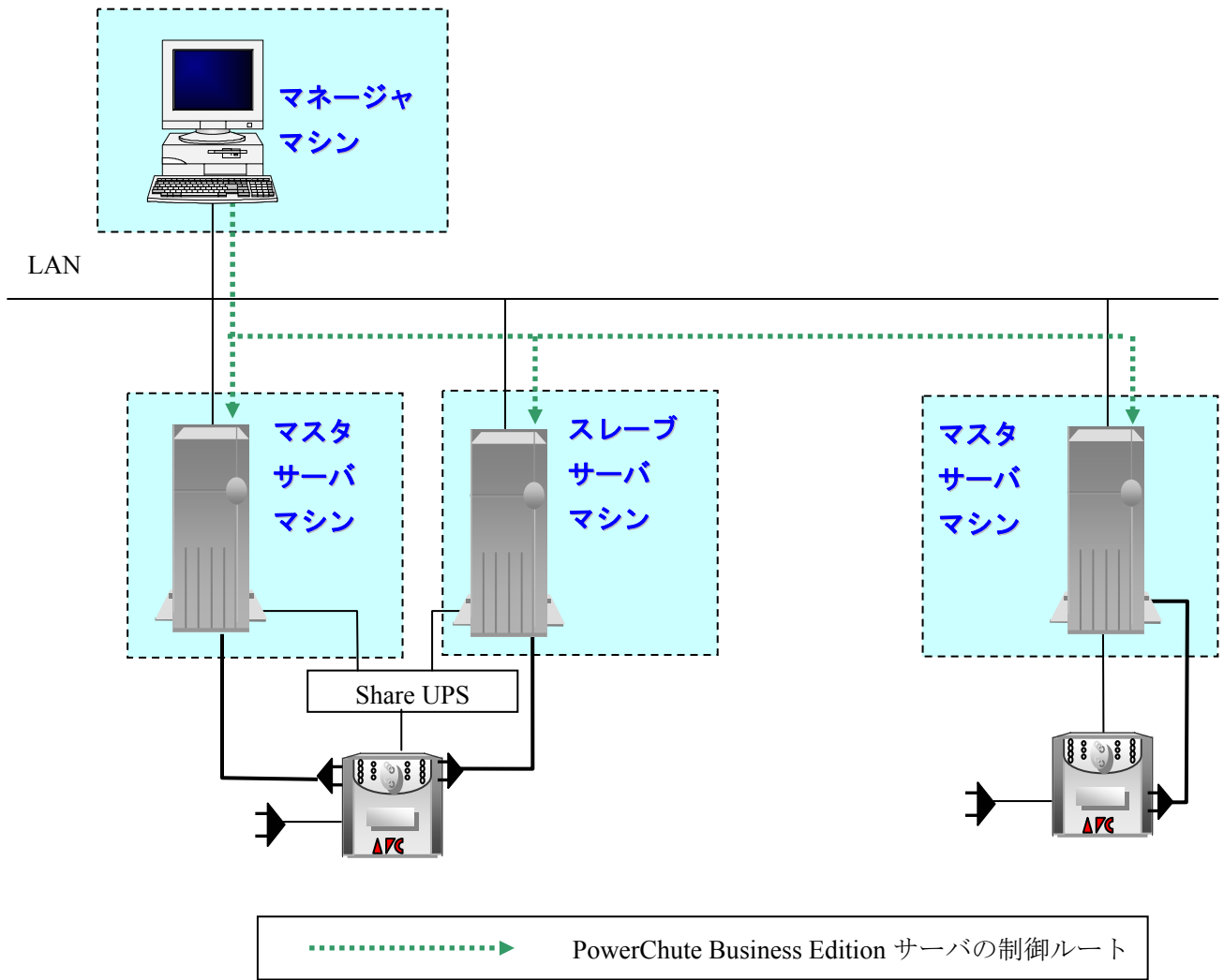
管理対象となる UPS を接続したサーバマシンの台数が 25 台以下であるシステムにおいて、マネージャマシンで各サーバを管理する場合、以下の図のようなシステム構成としてください。それぞれのマシンに各コンポーネントをインストールしてください。

Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」を使用してサーバ管理を行うようなシステムの場合も、ターミナルサーバマシンをマスタサーバマシン（あるいはスレーブサーバマシン）として、ターミナルサービスクライアントマシンをマネージャマシンとして、各コンポーネントをインストールしてください。

サーバ/マネージャ	インストールするコンポーネント	備考
マスタサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェント	■Windows サーバを使用する場合 エージェントのインストール時に 「Smart-UPS」を選択
スレーブサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェント	■Windows サーバを使用する場合 エージェントのインストール時に 「Interface Expander のベーシックポート」 または 「Share-UPS のベーシックポート」を選択
マネージャマシン	PowerChute Business Edition コンソール PowerChute Business Edition サーバ ※	

マルチサーバ接続 BOX (Share UPS) や UPS インタフェース拡張ボードを使用しない構成で導入する場合には、必ず『マスタサーバ』としてセットアップしてください。

※ 2 台以上のマネージャマシンで運用する場合、1 台のマネージャマシンのみに PowerChute Business Edition サーバをインストールしてください。



4.3.2 UPS を接続した管理対象サーバが 26 台以上の場合

サーバの台数が 26 台以上の環境において、PowerChute Business Edition を使用したサーバの電源制御を行う場合には構成上の注意が必要です。

管理対象となる UPS を接続したサーバマシンの台数 25 台（以内）毎に、PowerChute Business Edition サーバをインストールしたマシンが 1 台ずつ必要となります。

PowerChute Business Edition の各コンポーネントのシステム構成は、特に PowerChute Business Edition サーバをどのマシンにインストールするか観点で、以下の 2 パターンから選択可能です。

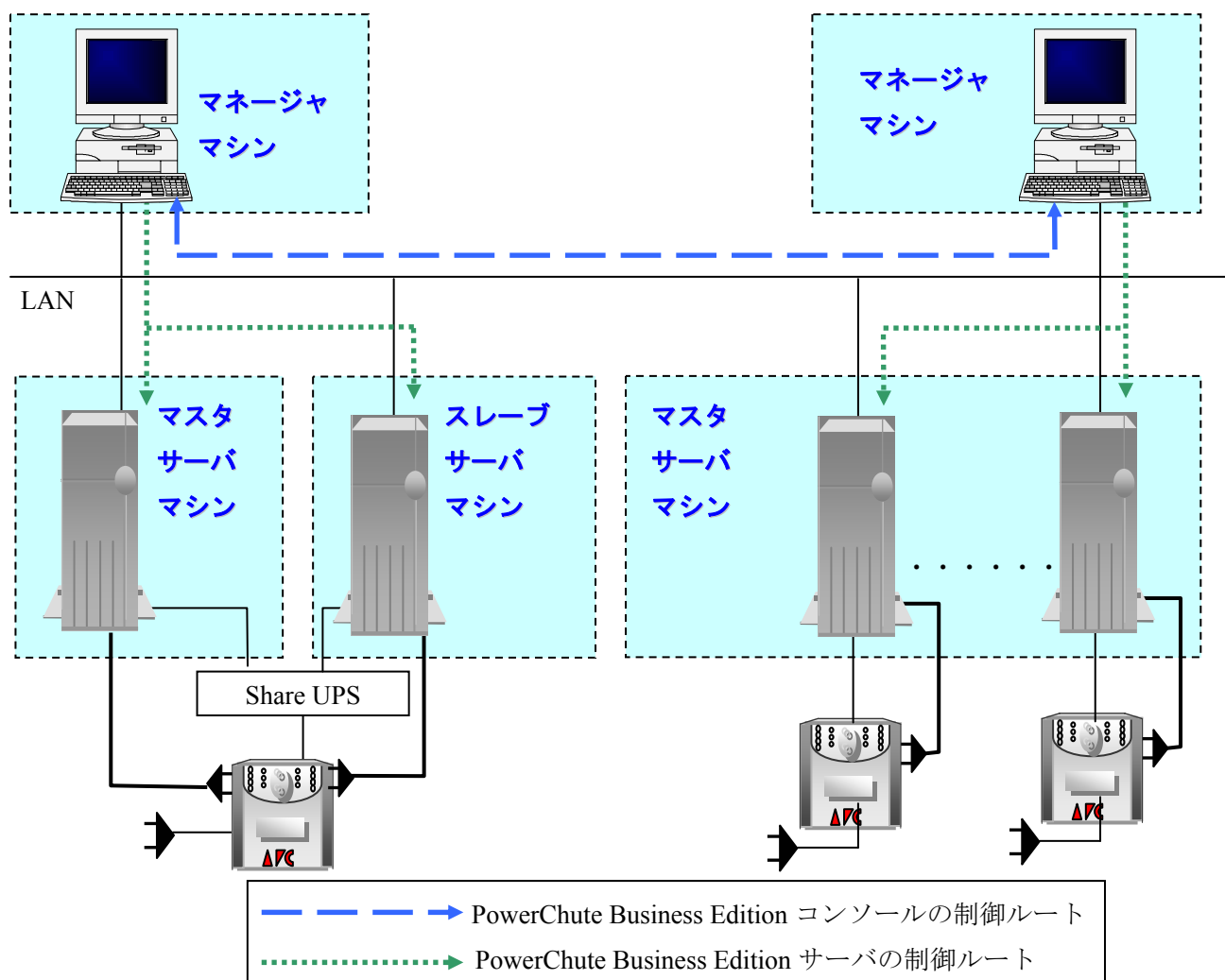
- (1) 複数台のマネージャマシンで管理する構成
- (2) 一台のマネージャマシンで管理する構成

(1) 複数台のマネージャマシンで管理する構成

- PowerChute Business Edition サーバの必要台数分について、マネージャマシン上に、PowerChute Business Edition コンソールと共に PowerChute Business Edition サーバをインストールします。
- PowerChute Business Edition サーバをインストールしたマネージャマシンのそれぞれが 25 台以内のエージェントを管理します。

サーバ/マネージャ	インストールするコンポーネント	備考
マスタサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェント	■Windows サーバを使用する場合 エージェントのインストール時に 「Smart-UPS」を選択
スレーブサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェント	■Windows サーバを使用する場合 エージェントのインストール時に 「Interface Expander のベーシックポート」 または 「Share-UPS のベーシックポート」を選択
マネージャマシン	PowerChute Business Edition コンソール PowerChute Business Edition サーバ	

マルチサーバ接続 BOX（Share UPS）や UPS インタフェース拡張ボードを使用しない構成で導入する場合には、各サーバは『マスタサーバ』としてセットアップしてください。

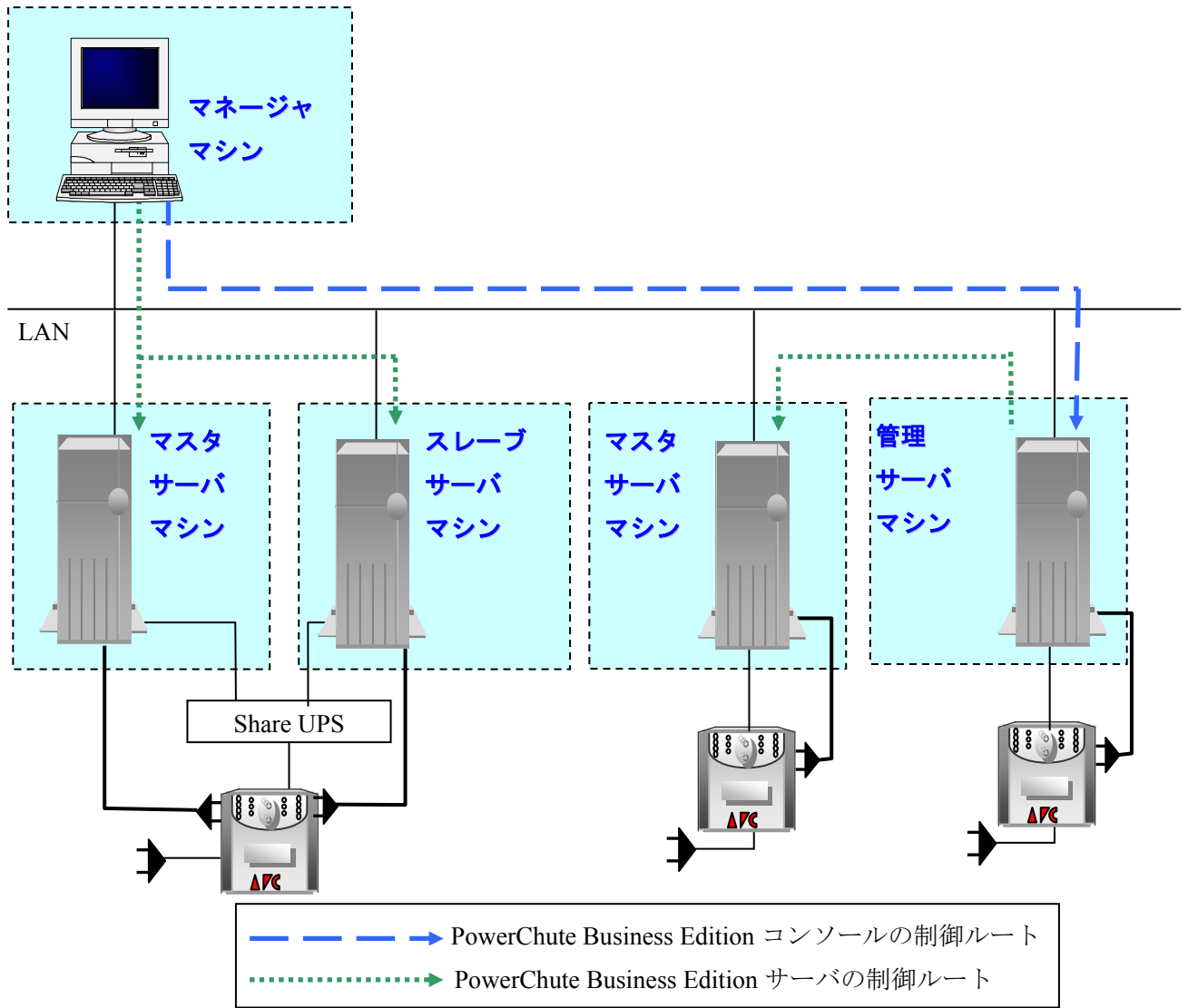


(2) 一台のマネージャマシンで管理する構成

- 一台のマネージャマシン上に、PowerChute Business Edition コンソールと共に PowerChute Business Edition サーバをインストールします。このマネージャマシン（PowerChute Business Edition サーバ）で、25 台のエージェントを管理します。
- 残りの PowerChute Business Edition サーバの必要台数分は、UPS 装置を接続した Windows サーバマシン上に、PowerChute Business Edition エージェントと共に PowerChute Business Edition サーバをインストールします。（図中の管理サーバ）

サーバ/マネージャ	インストールするコンポーネント	備考
マスタサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェント	■Windows サーバを使用する場合 エージェントのインストール時に 「Smart-UPS」を選択
スレーブサーバマシン	PowerChute Business Edition エージェント	■Windows サーバを使用する場合 エージェントのインストール時に 「Interface Expander のベーシックポート」 または 「Share-UPS のベーシックポート」を選択
管理サーバマシン	PowerChute Business Edition サーバ PowerChute Business Edition エージェント	■Windows サーバを使用すること エージェントのインストール時に 「Smart-UPS」を選択
マネージャマシン	PowerChute Business Edition コンソール PowerChute Business Edition サーバ	

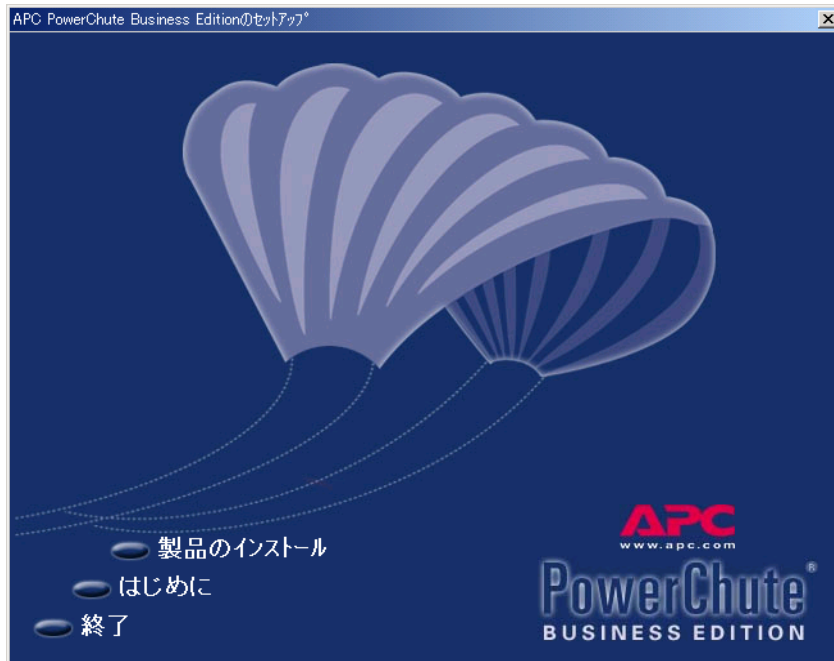
マルチサーバ接続 BOX（Share UPS）や UPS インタフェース拡張ボードを使用しない構成で導入する場合には、各サーバは『マスタサーバ』としてセットアップしてください。



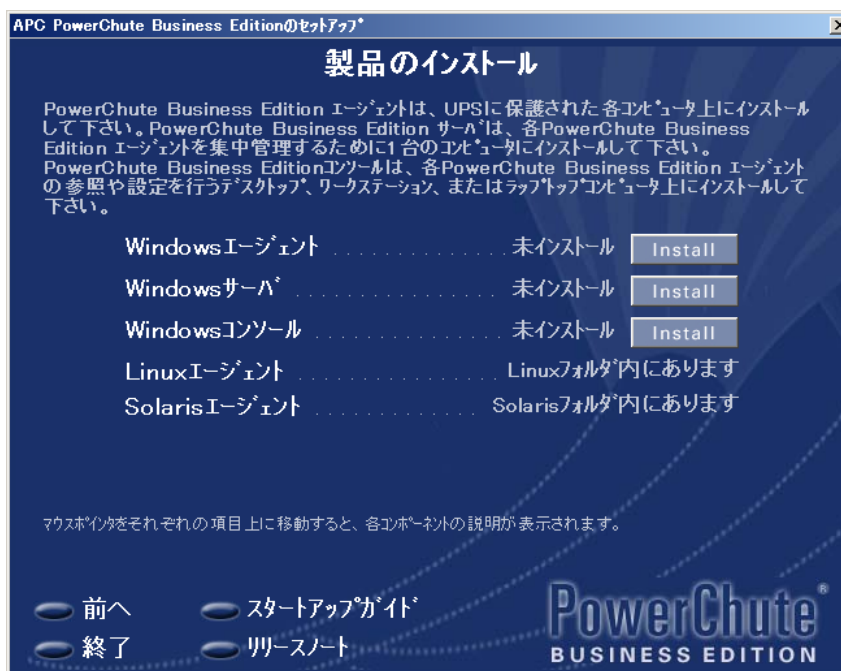
5 PowerChute Business Edition v.7.0.4 インストール

- ※ すべてのインストール作業は administrators 権限を持つユーザで実施してください。
- ※ PowerChute Business Edition エージェントがインストールされていない環境ではサーバと UPS をシリアルケーブルで接続しないでください。PowerChute Business Edition エージェントのインストールの際に [APC UPS の通信ポートを自動検出しますか?] とメッセージボックスが表示されてから (PowerChute Business Edition エージェントのインストール手順④) コンピュータと UPS をシリアルケーブルで接続してください。
- ※ USB 接続は未サポートであるため、USB インタフェースは使用できません。

- ① CD-ROM ドライブに PowerChute Business Edition v.7.0.4 の CD-ROM 媒体を挿入すると次の画面が表示されます。自動で表示されない場合は、“E:\Windows\Setup.exe”を実行してください。(例は CD-ROM ドライブが E : の場合です。使用している環境に合わせて変更してください。)



② ここで「製品のインストール」をクリックすると次の画面が表示されます。

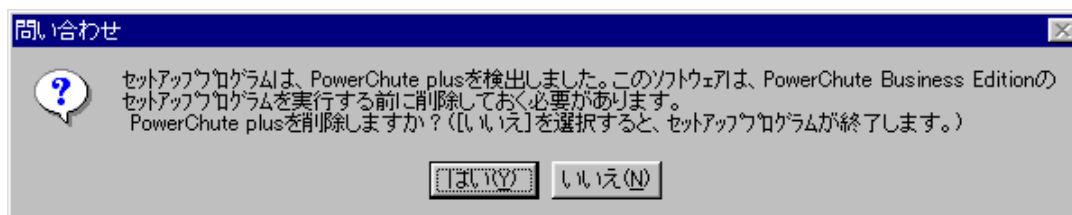


インストールする各コンポーネントの「Install」ボタンを押します。エージェントのインストール手順は「5.1 PowerChute Business Edition エージェントのインストール」、サーバのインストール手順は「5.2 PowerChute Business Edition サーバのインストール」、コンソールのインストール手順は「5.3 PowerChute Business Edition コンソールのインストール」をそれぞれ参照してください。

※ 必要な PowerChute Business Edition コンポーネントをサーバにインストールし終えましたら、必ずサーバの再起動を行ってください。

※ 「Linux」・「Solaris」の表示がありますが、「Linux」・「Solaris」の機能は使用できません。

PowerChute *plus* がインストールされている環境に、PowerChute Business Edition の各コンポーネントをインストールしようとするとき、次の画面が表示されます。



「はい」を選択すると PowerChute *plus* のアンインストールが開始されます。アンインストールが完了すると PowerChute Business Edition のインストールが開始されます。

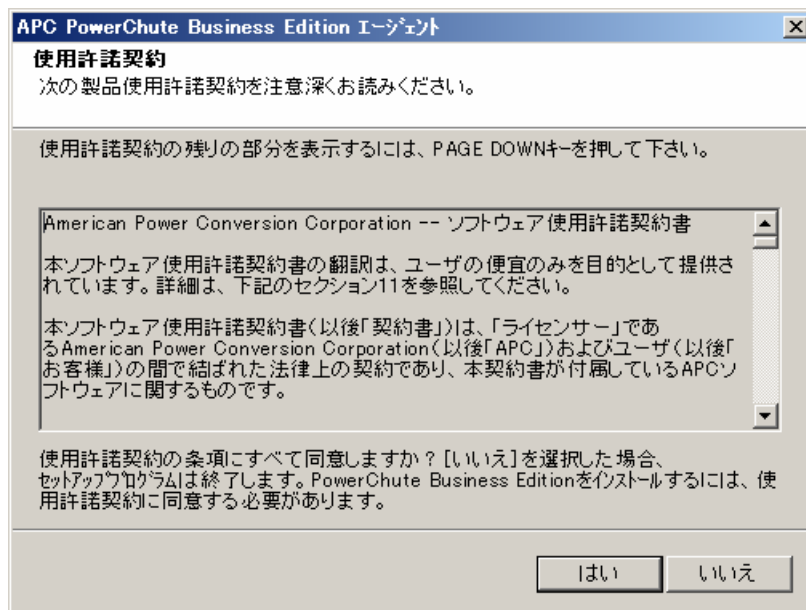
(「いいえ」を選択すると PowerChute Business Edition のインストールを行うことができません。)

5.1 PowerChute Business Edition エージェントのインストール

- ① エージェントのインストールでは、まず次の画面が表示されます。「次へ」を押します。

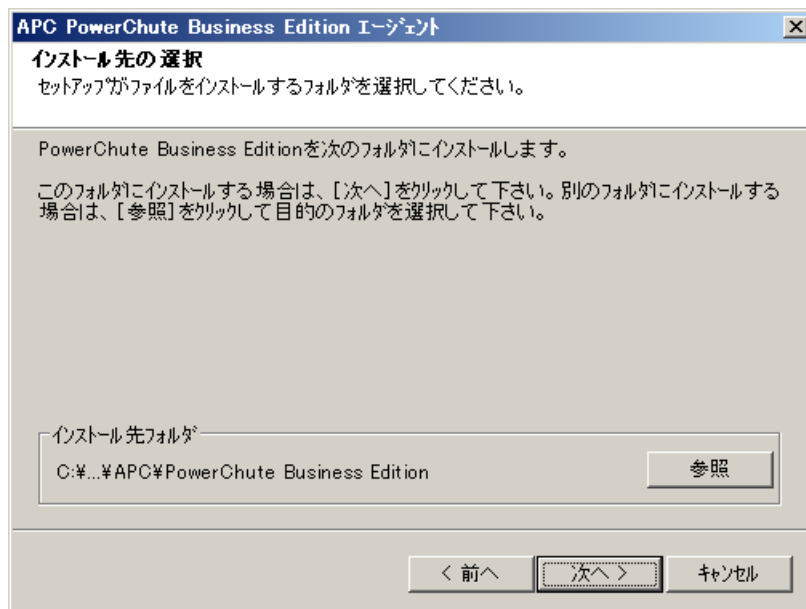


- ② 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。



- ③ インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先のフォルダを指定してください。「次へ」を押します。

(既にサーバまたはコンソールがインストールされている場合は、この画面は表示されません)



※インストールフォルダ名にマルチバイト文字（ひらがな、漢字等）を使用すると、WebUI からの設定が正常に行えません。インストールフォルダ名はシングルバイト文字（半角英数字）を使用してください。

- ④ 以下のメッセージボックスが表示されます。この時点でサーバとUPSをシリアルケーブルで接続してください。シリアルケーブルを接続した後にUPSを自動検出する場合は「はい」を押し⑥へ進みます。

注意: UPSインタフェース拡張ボードやマルチサーバ接続BOX(Share UPS)を使用してスレーブサーバとして運用する場合は、自動検出を行わずに「いいえ」を選択して⑤に進んでください。



- ⑤ ④で「いいえ」を選択するとUPSタイプと通信ポートの選択画面が表示されます。接続されているUPSタイプと通信ポートを選択してください。

UPSインタフェース拡張ボードやマルチサーバ接続BOX(Share UPS)を使用して運用する場合は、「UPSタイプ」は以下の通り選択してください。

- ・ マスタサーバへのインストール時：「Smart-UPS」を選択してください。
- ・ スレーブサーバへのインストール時：

「UPS インタフェース拡張ボード」を使用する場合は

「Interface Expander のベーシックポート」を選択してください。

「マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)」を使用する場合は

「Share-UPS のベーシックポート」を選択してください。



注意：『UPS タイプ』の選択時に UPS タイプを誤ってインストールした場合や、『通信ポート』の選択時に “COM1、COM2 等のシリアル接続” と “USB 接続” を誤ってインストールした場合、PowerChute Business Edition エージェントの再インストールが必要になります。

- ⑥ エージェントへアクセスするためのユーザ名、パスワードの設定を行います。3～16文字の半角英数文字（大文字・小文字）・記号（%=-~^@{[+]、./_ の15文字が使用可能）で、ユーザ名およびパスワードを入力してください。入力完了後に「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。



※ここで入力するユーザ名とパスワードは、コンソール、サーバ、および管理対象エージェントで共通でなければなりません。異なるユーザ名、パスワードを設定したエージェントがある場合、そのエージェントを管理するためには、各エージェントと同一のユーザ名、パスワードを設定した「PowerChute Business Edition サーバ」コンポーネントがインストールされたサーバがそれぞれ必要になります。また、ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。特に、パスワードは「*」で表示されており、確認することができないので十分に注意して入力を行ってください。

- ⑦ エージェントのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を押します。



- ⑧ 「製品のインストール」の画面に戻ります。エージェントが「インストール済」となっていることを確認してください。

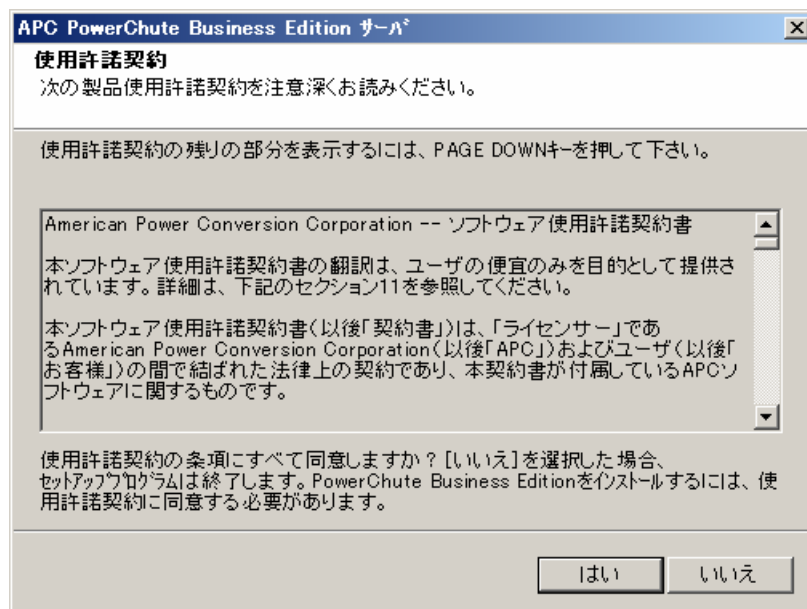
5.2 PowerChute Business Edition サーバのインストール

5.2.1 サーバのインストール

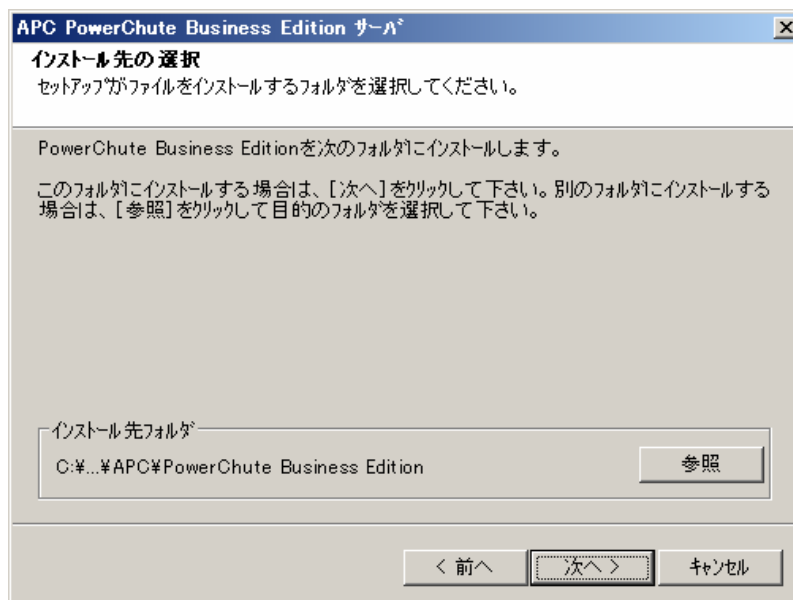
- ① サーバのインストールでは、まず次の画面が表示されます。「次へ」を押します。



- ② 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。



- ③ インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先のフォルダを指定してください。「次へ」を押します。
 (既にエージェントまたはコンソールがインストールされている場合は、この画面は表示されません)



※インストールフォルダ名にマルチバイト文字（ひらがな、漢字等）を使用すると、WebUI からの設定が正常に行えません。インストールフォルダ名はシングルバイト文字（半角英数字）を使用してください。

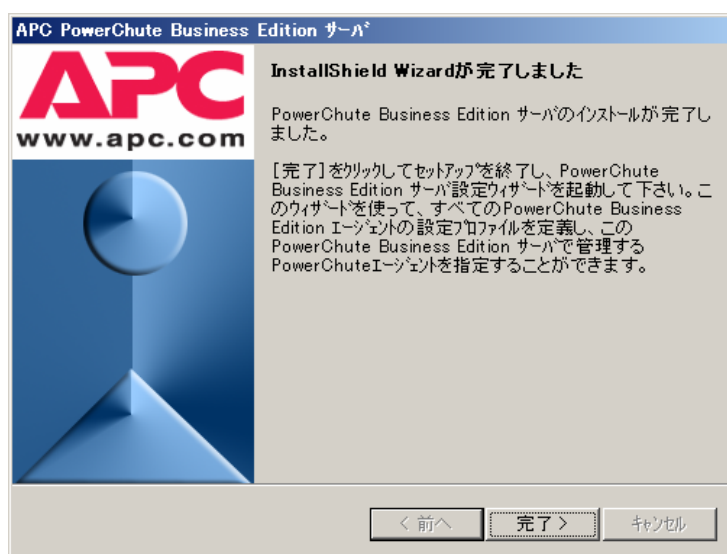
- ④ サーバへアクセスするためのユーザ名、パスワードの設定を行います。3～16文字の半角英数文字（大文字・小文字）・記号（%=~^@{[+]}、./_ の15文字が使用可能）で、ユーザ名およびパスワードを入力してください。入力完了後に「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。



※ここで入力するユーザ名とパスワードは、コンソール、サーバ、および管理対象エージェントで共通でなければなりません。異なるユーザ名、パスワードを設定したエージェントがある場合、そのエージェントを管理するためには、各エージェントと同一のユーザ名、パスワードを設定した「PowerChute Business Edition サーバ」コンポーネントのサーバがそれぞれ必要となります。

また、ユーザ名、パスワードを間違えて入力すると PowerChute Business Edition は正常に動作しません。特に、パスワードは「*」で表示されており、確認することができないので十分に注意して入力を行ってください。

- ⑤ サーバのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を押すと設定プロファイルの作成が始まります。



- ⑥ 設定プロファイルの作成を行います。次の画面が表示されたら「次へ」を押します。（この設定は後で行うことも可能ですが、ここで設定することをお勧めします。後から設定する場合は、PowerChute Business Edition コンソールにて PowerChute Business Edition サーバに接続し、デバイスリストを設定する際に再び設定プロファイルの作成画面が表示されます。）



- ⑦ 電源障害や電源に関する問題を通知する手段を選択します。通知手段は「ポケベル」、「E-Mail通知」、「ブロードキャストメッセージ」の3通りあります。利用したい通知手段にチェックを入れて「次へ」を押します。ポケベルを選択した場合は⑧へ、E-Mail通知を選択した場合は⑨へ、ブロードキャストメッセージを選択した場合は⑩へそれぞれ進みます。(複数選択することも可能です)通知が必要ない場合は通知手段にチェックを入れずに「次へ」を押して⑪へ進みます。



- ⑧ ポケベルを選択すると次の画面が表示されます。ここではE-Mailをサポートしているポケベルにのみメッセージを送信することができます。「次へ」を押して⑨のE-Mailパラメータの設定に進みます。



- ⑨ E-Mail 通知を選択すると次の画面が表示されます。(ポケベルを選択した場合にも表示されます。)画面の例を参考にして、SMTP サーバ名、SMTP ユーザ名 (送信されるメールの”From”欄に記載される E-Mail アドレスです。SMTP サーバにそのユーザが実在している必要はありません。)、送信先 E-Mail アドレスの登録を行ってください。送信先 E-Mail アドレスは「追加」ボタンを押すことにより登録します (最大 5 つ登録可能です)。

※ PowerChute Business Edition では SMTP 認証等のユーザ認証を行うメール送信はサポートしていません。



設定した内容が正しいかどうかを確認するためには、「テスト」ボタンを押してください。設定内容が正しい場合、以下のように「メッセージ送信完了」と表示され、送信先アドレスにテストメールが送信されます。



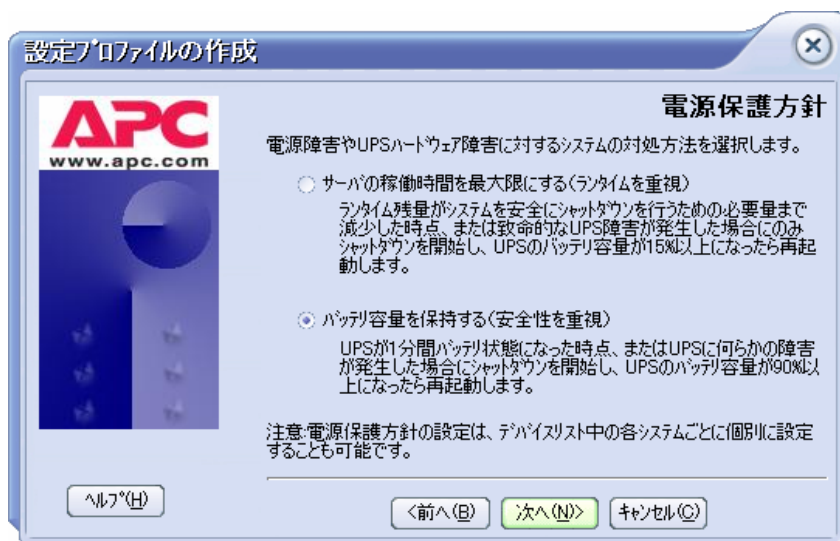
- ⑩ ブロードキャストメッセージを選択すると次の画面が表示されます。「ドメイン全体」を選択した場合は、同一ネットワークセグメント内の同一ドメイン全体に通知されます。「特定のアドレス」を選択した場合は、欄に入力したホスト名または IP アドレスに対して通知が行われます。設定した内容が正しいかを確認するためには「テスト」ボタンを押してください。設定が完了したら「次へ」を押します。



※ブロードキャスト通知により送信されるメッセージをクライアントマシンにて受信するためには、クライアントマシン側にて「Messenger」サービスが起動している必要があります。

※Windows サーバにのみブロードキャスト通知を行うことが可能です。

- ⑪ 電源保護方針の設定を行います。電源障害や UPS ハードウェア障害に対するシステムの対処方法に応じて、「サーバの稼働時間を最大限にする（ランタイムを重視）」または「バッテリー容量を保持する（安全性を重視）」を選択することができます。どちらかを選択し、「次へ」を押します。



— [サーバの稼働時間を最大限にする (ランタイムを重視)] は、システムの運用時間を少しでも長くすることが重要な場合に選択します。この項目を選択した場合、電源障害時に UPS からの電源供給が可能な限りバッテリー動作を行った後、サーバのシャットダウンが開始されます。つまり、UPS のバッテリー残量がシステムを安全にシャットダウンするために必要なランタイムになるまでの間、サーバを稼働し続けます。

電源障害によりシャットダウンが行われた場合、バッテリーが 15%充電された時点で UPS からサーバへの電源供給が再開されます。

次のいずれかのイベントが発生した場合に PowerChute Business Edition エージェントがシステムのシャットダウンを開始します。(これらのイベントの詳細については、コンソールのオンラインヘルプを参照して下さい)。

- ・ ローランタイム状態
- ・ ローバッテリー状態
- ・ UPS 内部温度しきい値超過
- ・ バッテリー状態時に通信切断
- ・ UPS 過負荷

— [バッテリー容量を保持する (安全性を重視)] は、システムの動作時間を高めるよりも、バッテリー残量が十分あるうちにデータの保存とシャットダウンを、余裕を持って行いたい場合に選択します。

この項目を選択した場合、電源障害時に UPS のバッテリー状態が 1 分間 (デフォルト値) 継続すると、シャットダウンが開始されます。

電源障害によりシャットダウンが行われた場合、バッテリーが 90%充電された時点で UPS からサーバへの電源供給が再開されます。

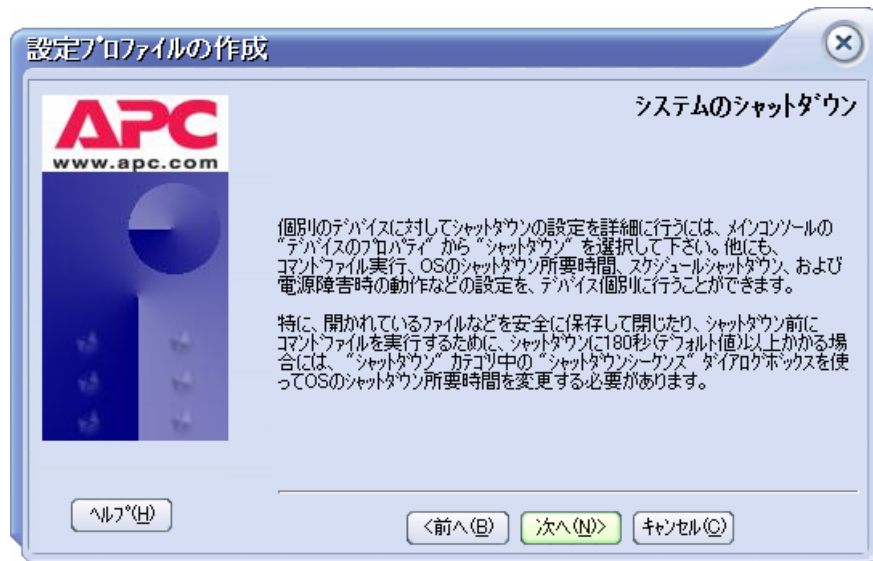
次のいずれかのイベントが発生した場合に PowerChute Business Edition エージェントがシステムのシャットダウンを開始します。(これらのイベントの詳細については、コンソールのオンラインヘルプを参照して下さい)。

- ・ バッテリー状態しきい値超過
- ・ ローランタイム状態
- ・ ローバッテリー状態
- ・ UPS 内部温度しきい値超過
- ・ バッテリー状態時に通信切断
- ・ UPS 過負荷

注意: 利用できるランタイムが不十分またはバッテリー消費イベントの発生時に UPS がバッテリー動作に切り替わると、すぐにシャットダウンが開始されます。

※ 選択した電源保護方針や電源障害時のシャットダウン開始時間はインストール後、PowerChute Business Edition コンソールから変更できます。

- ⑫ システムのシャットダウンについての説明が表示されます。内容を読んで「次へ」を押します。



- ⑬ ここまでに設定した内容が表示されます。内容が正しければ「次へ」を押します。変更が必要な場合は「前へ」を押して変更箇所まで戻り、再度設定を行ってください。



- ⑭ 次の画面が表示されると終了です。「完了」を押します。



- ⑮ 以降、デバイスリストの設定画面が表示されます。操作手順は「7.2 エージェントの登録」を参照してください。
- ⑯ デバイスリストの設定が終わると、「製品のインストール」の画面に戻ります。サーバが「インストール済」となっていることを確認してください。

5.2.2 設定プロファイル変更時のエラーおよびステータスメッセージ

(1) UPS 設定プロファイルの作成ウィザードのメッセージ

ウィザードを使って設定プロファイルの作成や変更を行う際に表示される可能性のあるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
設定プロファイル中に次のエラーが検出されました。	次のような問題が発生していることを表しています。 <ul style="list-style-type: none"> 指定されていない E-mail パラメータがある。 ブロードキャスト通知アドレスが指定されていない。 適切な通知手段を選択する必要がある。 この問題を解決するためには、適切な通知手段を設定して下さい。
新しい設定プロファイルはまだ保存されていません。本当に終了しますか？	[いいえ] を選択するとダイアログボックスに戻ります。[はい] を選択した場合、変更内容は破棄されます。
電源保護の設定を変更する場合、新しい設定プロファイルをデバイスリスト中のすべてのデバイスに適用し直す必要があります。この設定は UPS 個別に行った設定を上書きすることがあります。処理を続行しますか？	[いいえ] を選択すると、デバイスリスト中のシステムに設定プロファイルを再適用しないで、プロファイルの通知手段を変更することができます。[はい] を選択すると、新しいプロファイルがデバイスリスト中のシステムに適用されます。この場合、独自の設定を行っていたシステムは、再び設定し直す必要があります。

(2) 設定プロファイル適用時のログメッセージ

設定プロファイルの適用ログメッセージは、デバイスリスト中のシステムの設定プロファイルの変更ステータスを表しています。次のいずれかの作業を行った場合に報告されます。

- ・ [設定プロファイルの作成/変更]ダイアログボックス(設定プロファイルの変更を参照)を使用した後、デバイスリスト中のすべてのシステムへのプロファイルの適用を選択した。
- ・ デバイスリスト中のシステムへの設定プロファイルの再適用を選択した(設定プロファイルの再適用を参照)。

このログを参照する際には、次のようなログエントリやメッセージが表示されます。

ログエントリ	説明
<ホスト名>からの応答がありません。	もう一度設定プロファイルを適用し直して下さい。それでも問題が解決しない場合は、「7.5 エージェント登録時のエラーおよびステータスメッセージ (5) 通信障害関連メッセージ」を参照して下さい。
<ホスト名>がデバイスリストにありません。	システムがデバイスリストに登録されていません。該当するシステムの設定プロファイルは更新されません。
設定プロファイルを<ホスト名>に適用できませんでした。	設定プロファイルの適用時に、システムのシャットダウンが開始されていたかまたは通信(シリアルまたはネットワーク)が失われました。
<ホスト名>に適したプロファイルが見つかりません。	サポートされていない UPS を使用しているか、またはシステムの PowerChute Business Edition エージェントが UPS と通信できません。
<ホスト名>にプロファイルが正しく適用されました。	このシステムのプロファイルが更新されました。

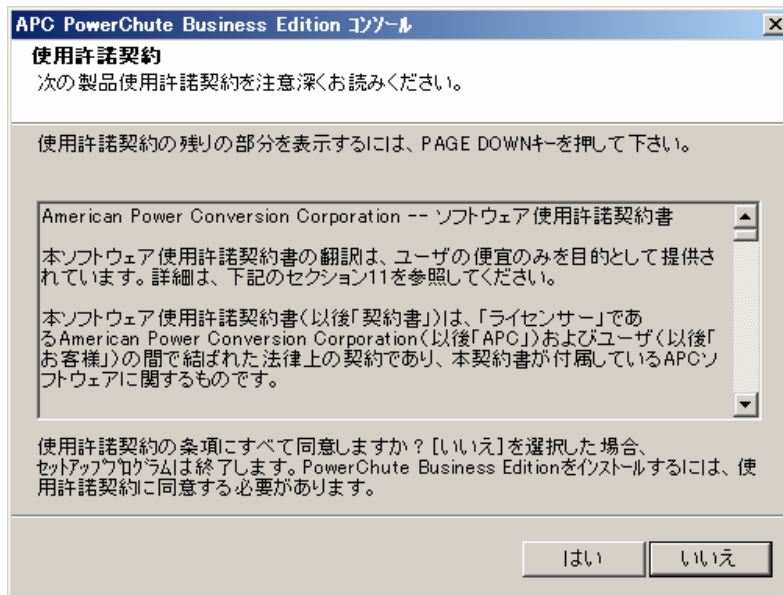
メッセージ	説明
設定プロファイルの適用時にエラーが発生しました。	デバイスリスト中のシステムへの新規プロファイルの適用が完了しましたが、一部のシステムは新規プロファイルで更新できませんでした。
一部の変更は完了していません。今終了すると、設定プロファイルが正しく適用されたかどうかを確認することはできません。本当に終了しますか？	変更を完全に行わないままダイアログボックスを終了しようとしています。 [はい] を選択すると、すでに更新された内容だけが有効になります。

5.3 PowerChute Business Edition コンソールのインストール

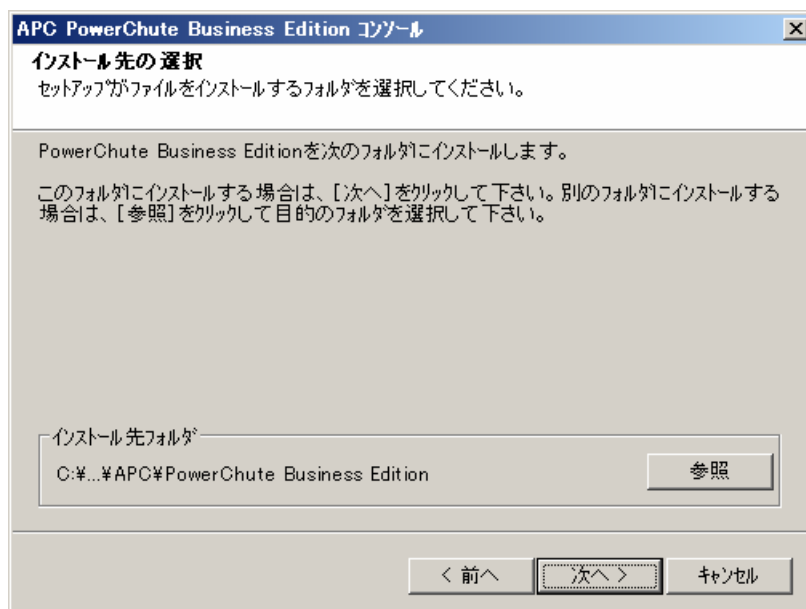
- ① コンソールのインストールでは、まず次の画面が表示されます。「次へ」を押します。



- ② 製品使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約の条項を読み、「はい」を押します。

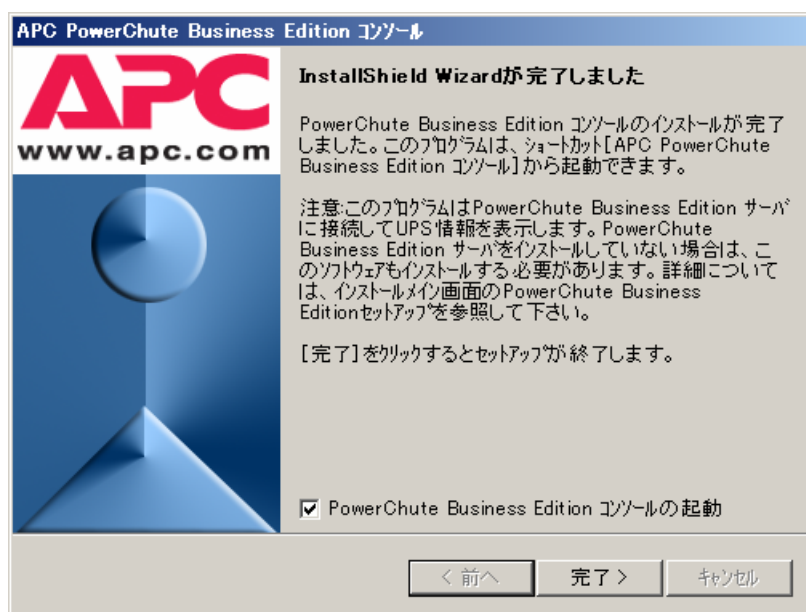


- ③ インストール先フォルダを指定します。デフォルトから変更する場合は「参照」を押してインストール先フォルダを指定してください。「次へ」を押すとファイルの転送が開始されます。
(既にエージェントまたはサーバがインストールされている場合は、この画面は表示されません)

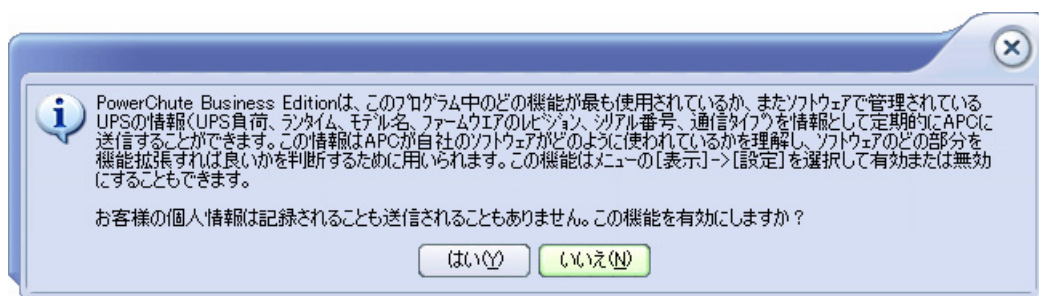


インストールフォルダ名にマルチバイト文字（ひらがな、漢字等）を使用すると、WebUI からの設定が正常に行えません。インストールフォルダ名はシングルバイト文字（半角英数字）を使用してください。

- ④ コンソールのインストールが完了すると次の画面が表示されます。「完了」を押します。



※インストール後、初めてコンソールを起動した際に次の画面が表示されます。記載されている内容を確認し、「はい」または「いいえ」を選択してください。



- ⑤ 「製品のインストール」の画面に戻ります。コンソールが「インストール済」となっていることを確認してください。

6 PowerChute Business Edition v.7.0.4 アンインストール

- ※ すべてのアンインストール作業は administrators 権限を持つユーザで実施してください。
- ※ PowerChute Business Edition コンソールを起動し、アンインストールする PowerChute Business Edition エージェントの登録を削除しておいてください。
- ※ PowerChute Business Edition コンソールは終了させておいてください。リモートサーバからも PowerChute Business Edition サーバへ接続していない状態(ログアウトした状態)でアンインストールを行ってください。

- ① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]を選択します。
- ② Windows 2000 の場合は、「アプリケーションの追加と削除」を実行します。
Windows XP または Window Server 2003 の場合は、「プログラムの追加と削除」を実行します。
- ③ 現在インストールされているプログラム一覧の中から、削除したい PowerChute Business Edition コンポーネント（エージェント、サーバ、コンソール）を選択します。
- ④ 「削除」ボタンを選択します。
- ⑤ 以降、ウィザードの指示に従って作業を進めてください。
- ⑥ アンインストールが終了したら必ずサーバに接続しているシリアルケーブルをサーバから抜いてください。ケーブルを抜いたことを確認したら、サーバを再起動してください。

注意：PowerChute Business Edition をアンインストール後、フォルダやファイルがインストールフォルダに残る場合があります。PowerChute Business Edition のインストールフォルダを確認し、フォルダの中身とともに削除して下さい。

7 コンソールの操作

7.1 サーバへの接続

コンソールを使用して各エージェントやUPSの設定を行うためにはPowerChute Business Edition サーバに接続しなければなりません。以下の手順で接続してください。

<Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」を使用する場合>

Windows 2000 の「ターミナルサービスクライアント」を使用してターミナルサーバに接続し、PowerChute Business Edition コンソール、デバイスリストウィザード、および設定プロファイルウィザードを起動した場合、画面が正しく表示されません。これは「ターミナルサービスクライアント」の表示可能色数が少ないために発生します。

<「リモートデスクトップ接続」を使用する場合>

「リモートデスクトップ接続」はPowerChute Business Edition を使用するための要件である『16ビットカラー』の表示が行えますので、ターミナルサーバマシンにすべてのコンポーネントをインストールし、ターミナルサービスクライアントから「リモートデスクトップ接続」を使用して接続することで管理できます。

- ① コンソールを起動すると以下の画面が表示されます。接続するサーバの「ユーザ名」、「パスワード」を入力します。

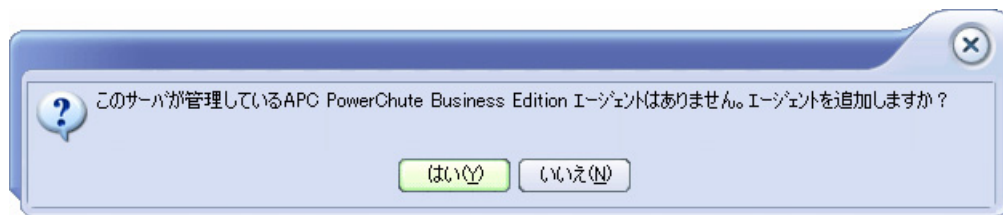


- ② 「ローカルサーバの検出」をクリックするか、PowerChute Business Edition サーバがインストールされているサーバの IP アドレスまたはホスト名を「サーバ」欄に入力します。（過去に接続したことがあるサーバは「サーバ」欄のドロップダウンリストから選択することも可能です。）
- ③ 以上の操作でサーバに接続し、ログインすることができます。

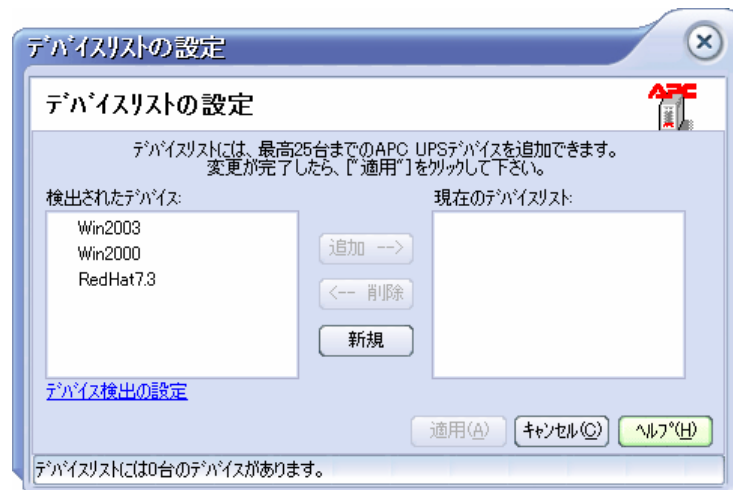
7.2 エージェントの登録

PowerChute Business Editionサーバに管理するエージェントが登録されていない場合、PowerChute Business Editionサーバが管理するエージェントを登録しなければなりません。以下の手順で登録を行ってください。登録後に変更することも可能です。コンソールのメイン画面で [ツール] → [デバイスリストの設定] を選択するか、または、コンソールのデバイリストフレーム上において、右クリックで表示されるメニューオプションより [デバイスの追加] を選択し、②以降の手順を実行してください。

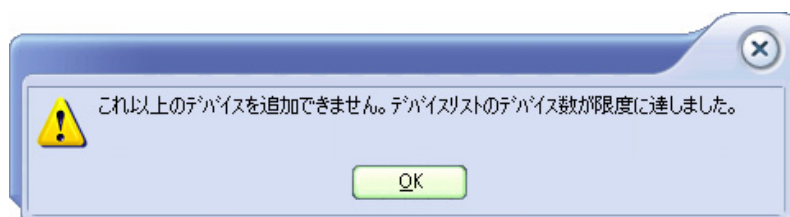
- ① PowerChute Business Edition サーバに管理するエージェントが登録されていない場合、コンソールにログインすると次のメッセージが表示されますので「はい」を押してください。「いいえ」を押すと追加せずにコンソールを表示します。



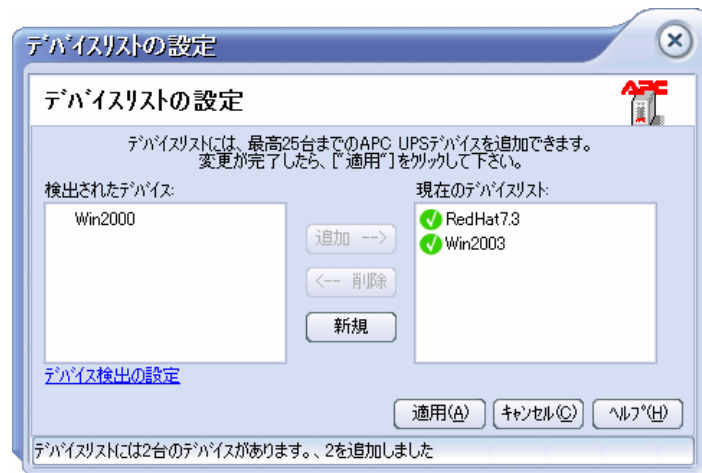
- ② デバイスリストの設定画面が表示されます。検出されたデバイス欄に、ネットワーク上の同じ「ユーザ名」、「パスワード」で設定されたエージェントがインストールされているサーバー一覧が表示されます。追加するサーバを選択し、「追加」を押します。



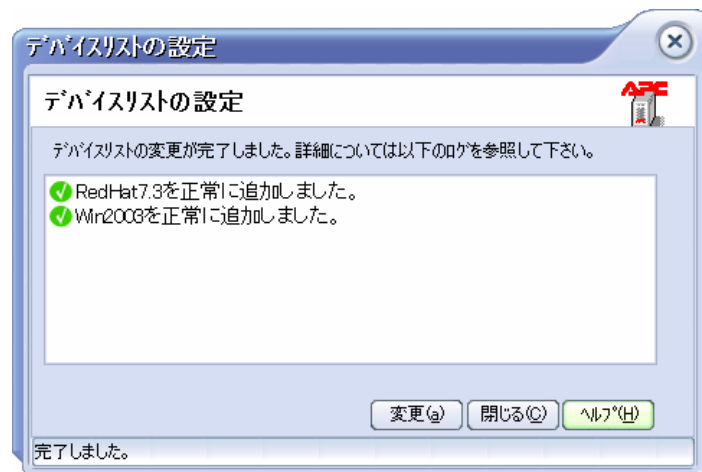
- ※ デバイスリストに登録できるデバイスは最大25台です。25台を超えるデバイスを登録しようとすると、「追加」を押した際に以下のメッセージが表示されます。



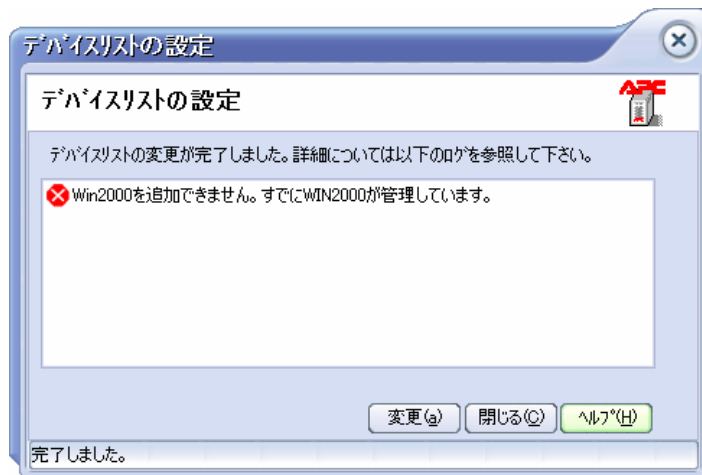
- ③ 現在のデバイスリスト欄に追加したサーバが表示されます。設定を反映するには「適用」を押してください。



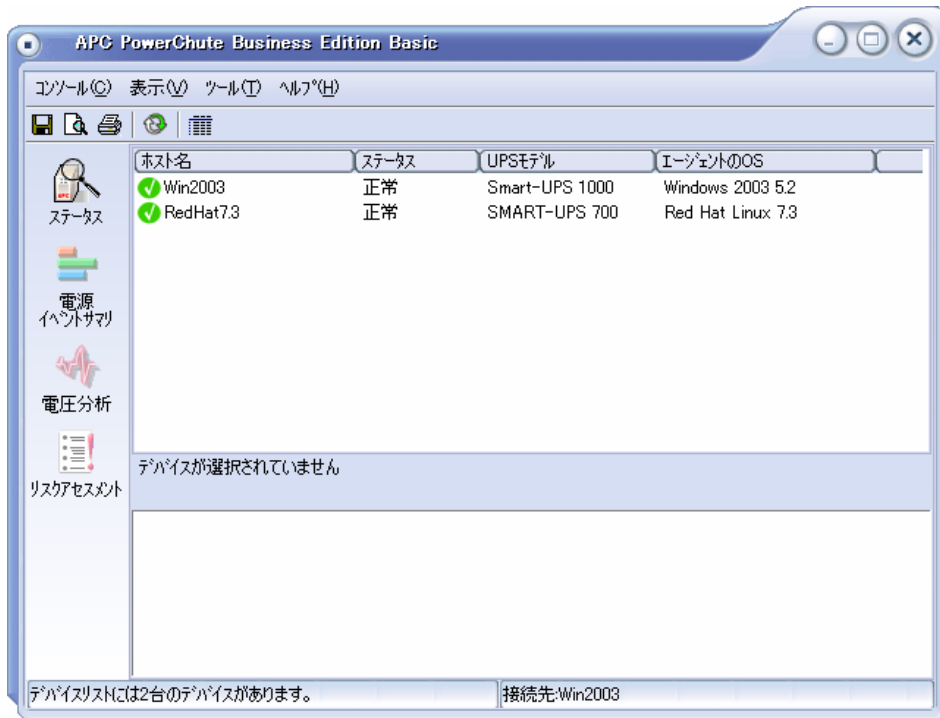
- ④ デバイスリストへの追加が完了したら次の画面が表示されます。「閉じる」を押して設定画面を終了してください。



- ※ 既に他の PowerChute Business Edition サーバに監視されているサーバを追加しようとすると次の画面のようにエラーが表示されます。



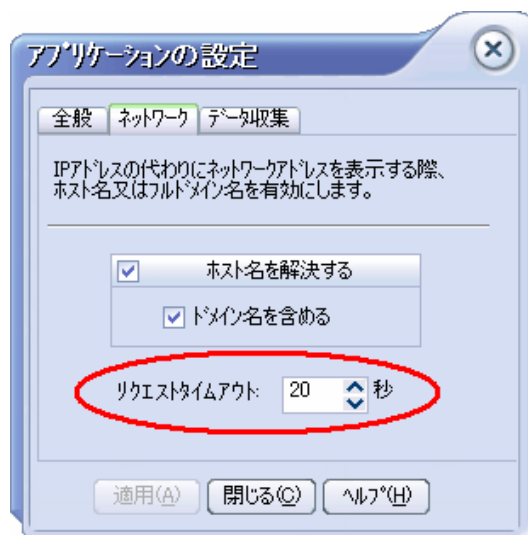
- ⑤ コンソールのメイン画面に戻ります。追加したサーバが表示されていることを確認してください。
(PowerChute Business Edition コンソールから、デバイスリストの設定を行った場合以外には以下の画面は表示されません。つまり PowerChute Business Edition サーバインストール時の「デバイスリストの設定」では、以下の画面は表示されません。)



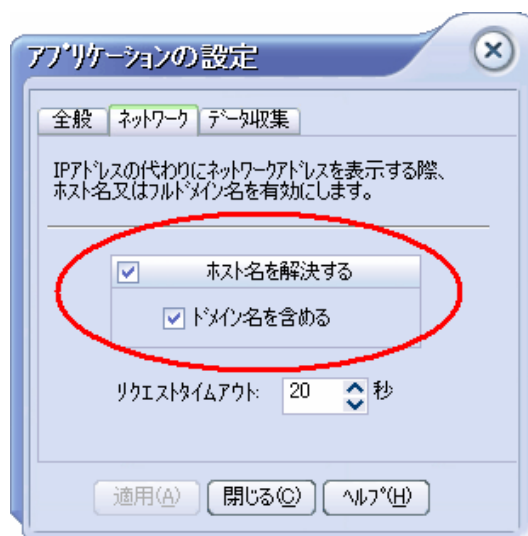
- ※ PowerChute Business Edition コンソールと PowerChute Business Edition サーバ間の通信および、PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition エージェント間の通信には、TCP/IP プロトコルによるソケット通信が使用されます。あらかじめ PowerChute Business Edition コンソールと PowerChute Business Edition サーバ間および、PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition エージェント間で ping コマンドを実行し、共に通信が確立されていることを確認した上で使用してください。

<注意事項>

※ 各サーバがネットワーク上で接続され正常に通信できる状態にもかかわらず、「PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。」等のメッセージが表示された場合は、コンソールのメイン画面で [表示] → [設定] を選択して次の画面を開きます。「ネットワーク」タブを選択し、リクエストタイムアウト時間を長くしてください。(図の囲まれた部分で設定します。)



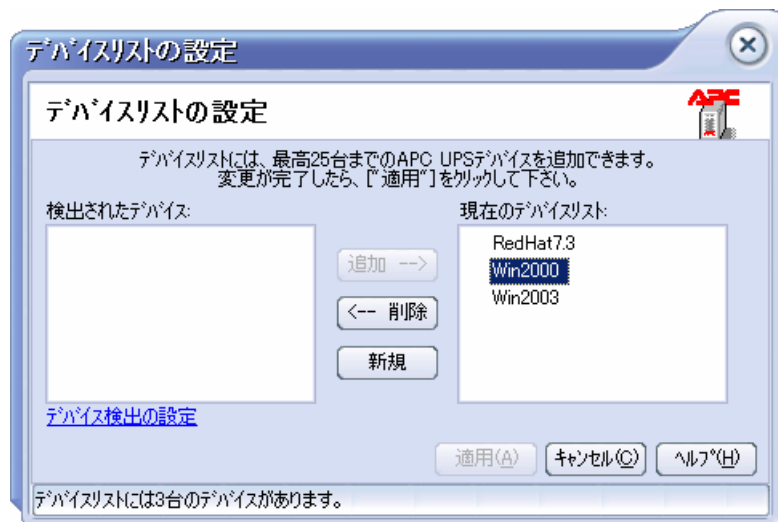
※ [ホスト名を解決する] および [ドメイン名を含める] は、システムのホストアドレスをコンソールでどのように表示するかを設定します。[ホスト名を解決する] のみ有効にした場合、コンソールではホスト名のみを表示します。[ホスト名を解決する] を無効にすると、[ドメイン名を含める] の設定は反映されず、コンソールでは IP アドレスのみを表示します。両方を有効にすると(デフォルト)、コンソールではホスト名とドメイン名が表示されます。システムのホスト名が解決できない場合は、IP アドレスが表示されます。



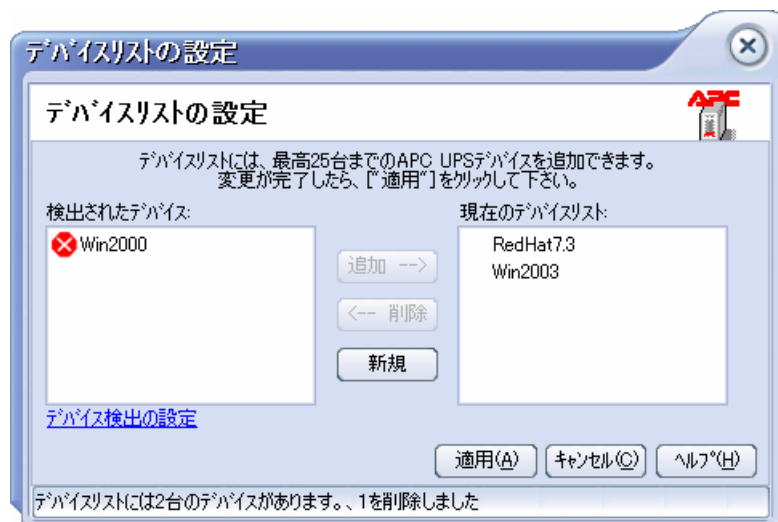
7.3 エージェントの削除

登録した PowerChute Business Edition エージェントをデバイスリストから削除するには、コンソールのメイン画面で [ツール] → [デバイスリストの設定] を選択するか、または、PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストフレーム上で削除したいサーバにカーソルを合わせ、右クリックで表示されるメニューオプションより [デバイスの削除] を選択し、デバイスリストから削除してください。

- ① デバイスリストの設定画面が表示されます。現在のデバイスリスト欄に、登録されているエージェントがインストールされているサーバ一覧が表示されます。削除するサーバを選択し、「削除」を押します。



- ② 検出されたデバイス欄に削除したサーバが表示されます。設定を反映するには「適用」を押してください。



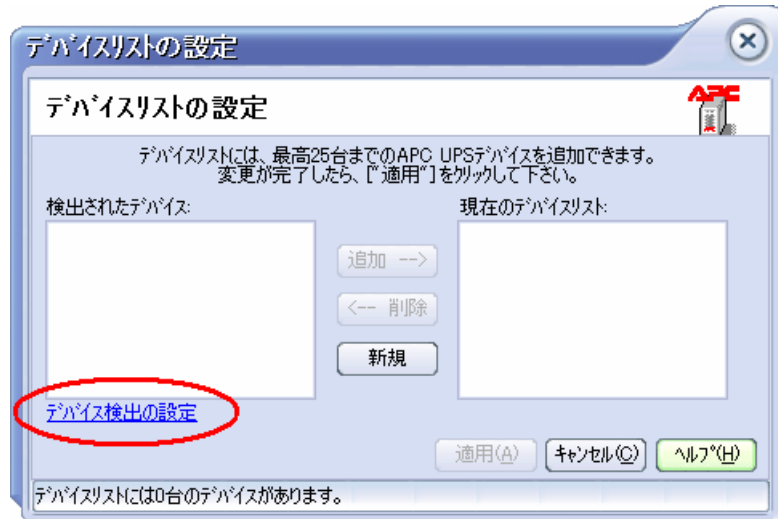
- ③ デバイスの削除が完了したら「閉じる」を押して設定画面を終了してください。

7.4 サーバが自動検出されない場合の対処方法

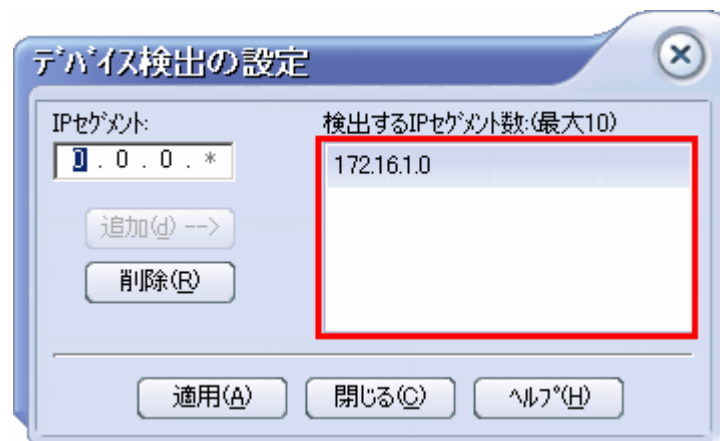
デバイスリストへサーバを追加する際にサーバが自動検出されない場合は、項目1～3の確認・修正を行い、自動検出が行われることを確認してください。項目1～3の確認で異常がなく自動検出が行われない場合は、項目4の手順を実施してください。

1. デバイス検出の設定が正しく行われていることを確認してください。

① [デバイス検出の設定] をクリックします。



② デバイス検出の設定ダイアログボックスが表示されますので、登録を行いたいサーバが属しているIPセグメントの登録が行われていることを確認してください（四角で囲まれた部分を確認します）。登録が行われていない場合には、「IPセグメント」を入力し、「追加」を押します。



2. PowerChute Business Edition サーバがインストールされているマシンから、登録を行いたいマシンに対して ping コマンドを実行しネットワーク接続が確立していることを確認してください。

3. PowerChute Business Edition サーバに設定されている「ユーザ名」、「パスワード」と、追加する PowerChute Business Edition エージェントに設定されている「ユーザ名」、「パスワード」が同じものを使用しているか確認してください。

「ユーザ名／パスワード」の確認方法

<PowerChute Business Edition サーバ>

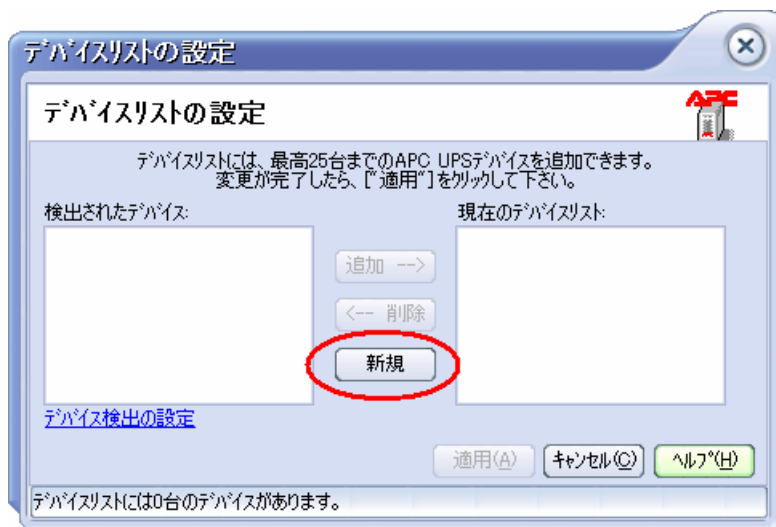
PowerChute Business Edition コンソールを使用して対象サーバへのログインを行ってください。ログインできない場合は入力したもの以外の「ユーザ名」、「パスワード」が設定されています。

<PowerChute Business Edition エージェント>

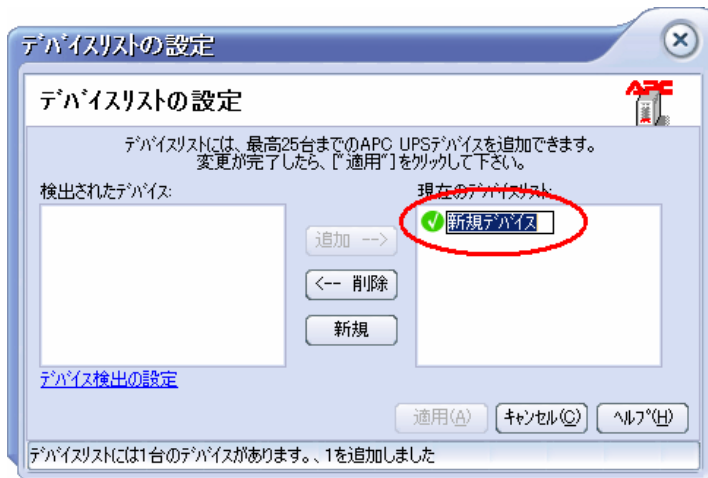
WebUIを使用して対象サーバにログインしてください（ログイン方法は「8 WebUIでの操作」を参照してください）。ログインできない場合は入力したもの以外の「ユーザ名」、「パスワード」が設定されています。

4. 以上1～3の確認において異常が見られない場合は、以下の手順にて追加を行ってください。

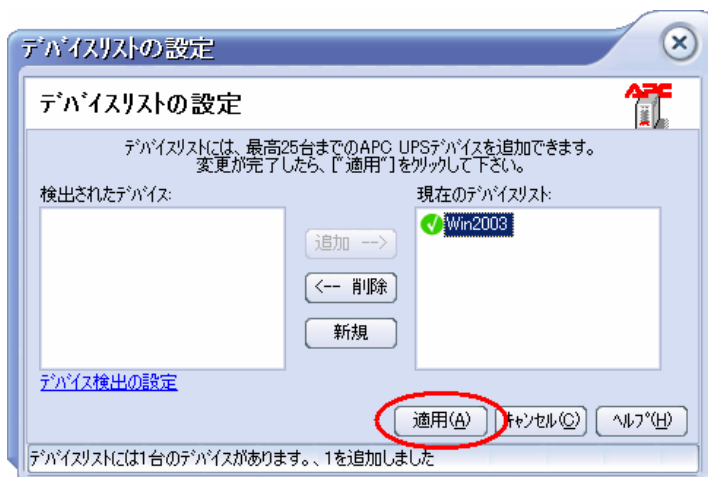
- ① [新規] ボタンを押します。



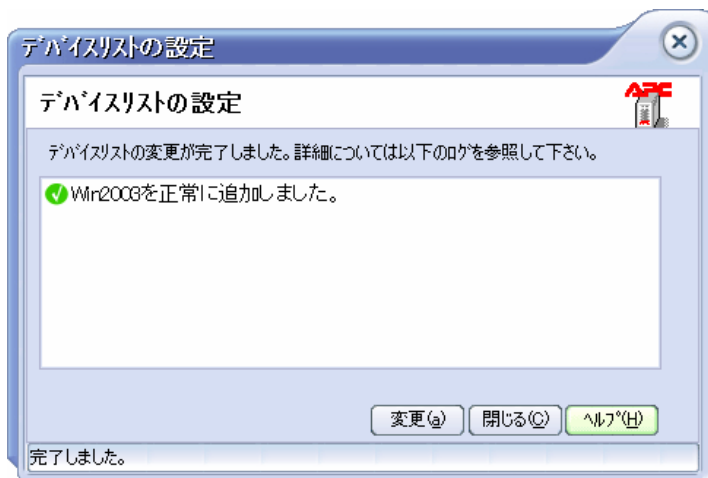
- ② “現在のデバイスリスト” 欄に表示される「新規デバイス」に、追加するホスト名または IP アドレスを入力してください。



- ③ [適用] ボタンを押します。



- ④ 以下の画面が表示されると追加は完了です。[閉じる] ボタンを押して終了してください。



7.5 エージェント登録時のエラーおよびステータスメッセージ

(1) 設定プロファイルアクセス失敗メッセージ

デバイスリスト設定ウィザードを使って既存のデバイスリストを変更する際に、設定プロファイルが見つからない場合は、次のようなメッセージが表示されます。

メッセージ	説明
デフォルトの設定プロファイルが作成されていません。デバイスをデバイスリストに追加するには、設定プロファイルを作成する必要があります。作成しますか？	設定プロファイルが存在していません。プロファイルを作成する場合は、[はい] をクリックしてください。プロファイルがないと、デバイスリスト設定ウィザードにアクセスすることはできません。
現在の設定プロファイルを取得することができません。PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。もう一度実行しますか？	問題が解決しない場合は、「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。

(2) デバイスリスト設定ウィザードのメッセージ

デバイスリスト設定ウィザードの使用時に表示されるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
デバイスリストの変更は適用されません。本当に終了しますか？	デバイスリストに変更内容を適用する前に [キャンセル] がクリックされました。[はい] をクリックすると、変更内容は破棄されます。
このサーバが管理するデバイスは不明です。PowerChute Business Edition サーバからの応答がありません。	ウィザードを終了した後、再起動してください。それでも問題が解決しない場合は、「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
PowerChute Business Edition サーバからの応答がありません。もう一度操作を行って下さい。	ウィザードを終了した後、再起動してください。それでも問題が解決しない場合は、「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。

(3) 検出過程のメッセージ

[検出の設定] ダイアログボックスを使って、検出手順時に検出する IP セグメントのリストを変更する際に表示されるメッセージを次に示します。

メッセージ	説明
次の検出状態を設定できません: PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。もう一度実行しますか？	問題が解決しない場合は、「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
検出セグメントを判断できません。PowerChute Business Edition サーバから応答がありません。もう一度実行しますか？	問題が解決しない場合は、「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
検出セグメントは 10 個までしか指定できません。	[検出の設定] ダイアログには、すでに PowerChute Business Edition が検出する IP セグメントが限度数まで指定されています。

(4) サマリの変更メッセージ

このログを参照する際には、次のようなログエントリやメッセージが表示されます。

ログエントリ	説明
<ホスト名>からの応答がありません。	このシステムをもう一度追加してください。それでも問題が解決しない場合は、「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照してください。
<ホスト名>は、すでにデバイスリストに存在しています。	システムはすでにデバイスリストに存在しています。
<ホスト名>がデバイスリストにありません。	システムはデバイスリストからすでに削除されています。
<ホスト名>を追加しました。	このシステムをデバイスリストに追加しました。
<ホスト名>を追加できません。すでに<サーバ名>が管理しています。	このシステムは、他の PowerChute Business Edition サーバのデバイスリストに登録されています。同じシステムを複数の PowerChute Business Edition サーバで監視することはできません。
<ホスト名>を追加できません: デバイスの限度数に達しました。	デバイスリストには、すでに PowerChute Business Edition サーバのライセンスで許可されている限度数までのシステムが追加されています。
<ホスト名>が見つかりません。	PowerChute Business Edition サーバは、このシステムを見つけることができません。システムが存在していない、システムがネットワークに TCP/IP で接続されていない、または PowerChute Business Edition エージェントがシステムにインストールされていない可能性があります。
<ホスト名>にログインできません。	このシステムの PowerChute Business Edition エージェントは、PowerChute Business Edition サーバと同じユーザ名とパスワードを使用していません。
<ホスト名>の追加に失敗しました。	このシステムをもう一度追加して下さい。それでも問題が解決しない場合は、「(5) 通信障害関連メッセージ」を参照して下さい。
設定プロファイルを<ホスト名>に適用できませんでした。	一般的にこのメッセージは、サポートしていない UPS をシステムが使用していることを示しています。ただし、設定プロファイルの適用時に該当するシステムがシャットダウン中だったり、通信(ネットワークまたはシリアル)が失われた場合にも、このエントリが記録されることがあります。
<ホスト名>の削除に失敗しました。	このシステムを削除するために、設定ファイルにアクセスすることができません。
<ホスト名>を削除しました。	このシステムをデバイスリストから削除しました。
<ホスト名>は省略しました。すでにリストに追加されています。	同じシステムを複数定義しています。例えば、同じシステムをホスト名と IP アドレスの両方で重複して指定しています。

メッセージ	説明
応答しないシステムがあります。デバイスリストを更新します。	すべての変更が成功した訳ではなく、デバイスリストは成功した変更内容だけを反映することを表しています。
デバイスリストの変更が完了していません。本当に終了しますか?	すべての変更が完了しないまま終了しようとしています。[はい]をクリックした場合、正しく変更が完了した設定だけが有効になります。
デバイスリストを更新します。	すべての変更を完了する前にダイアログボックスを終了した場合に表示されます。終了するまでに行った変更内容で、デバイスリストを更新することを表しています。

(5) 通信障害関連メッセージ

問題の原因として以下のことが考えられます。

- ネットワークの混雑またはネットワーク障害により、PowerChute Business Edition コンソールの[アプリケーションの設定]ダイアログボックスにて設定されている、[リクエストタイムアウト]に指定された時間(デフォルトでは 20 秒)が経過する前に、通信障害が発生した。

注意：PowerChute Business Edition コンソールから [リクエストタイムアウト] の値を変更することができます。

- 応答を受信する前にネットワーク通信が失われた。
- システムが存在していない、システムが停止している、またはシステムがネットワークから切断された。
- システムが PowerChute Business Edition エージェントを使用していない、エージェントが動作していない、または PowerChute Business Edition エージェントが PowerChute Business Edition サーバと同じユーザ名とパスワードを使用していない。

<PowerChute Business Edition エージェントサービスの動作状態を確認する方法>

PowerChute Business Edition エージェントのサービス名は「APC PBE Agent」です。

このサービスの状態が“開始”になっていれば、サービスは動作中です。

[スタート] → [設定] でコントロールパネルを開き、「管理ツール」を選択して「サービス」を選択してください。

8 WebUI での操作

ブラウザを利用して各エージェントの設定を WebUI から直接行うことにより、コンソールを用いるよりも細かい設定を行うことができます。本章では WebUI の使用方法について説明を行います。

※ WebUI機能を使用する際には、WebブラウザはInternet Explorer 6以降を使用してください。

《注意事項》

- Windows Server 2003 サーバから WebUI を使用して各エージェントの設定を行う場合は、以下の WebUI 操作を行う前に必ず、リリースノート「3.14 Windows Server 2003 で WebUI を使用する際の注意」を参照し、Internet Explorer の設定を確認してください。
- マイクロソフト社より提供されている「32 ビット Microsoft 仮想マシン」では WebUI 機能を利用できません。

8.1 Java Runtime Environment の確認

WebUI 機能を利用するためには、クライアントマシンに Java Runtime Environment (以下 JRE と省略) v1.4.1 または v1.4.2 がインストールされている必要があります。

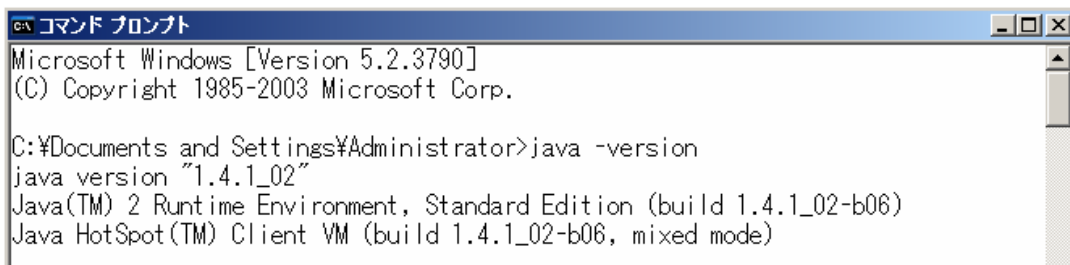
以下のいずれかの確認手順により JRE v1.4.1 以降がインストール済みかを確認してください。インストールされていない場合はサン・マイクロシステムズ社の Web サイトよりダウンロードし、インストールしてください。

<コマンドプロンプトを使用した確認手順>

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

```
java -version
```

JRE がインストールされている場合、そのバージョン情報が表示されます。



```
Microsoft Windows [Version 5.2.3790]
(C) Copyright 1985-2003 Microsoft Corp.

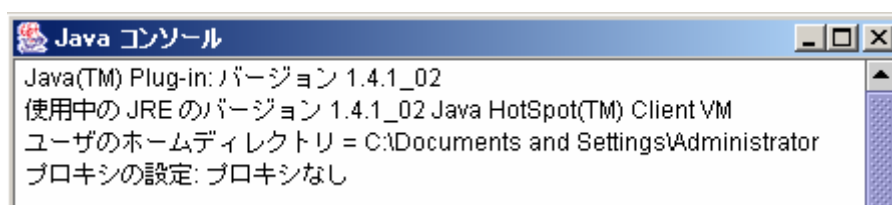
C:\Documents and Settings\Administrator>java -version
java version "1.4.1_02"
Java(TM) 2 Runtime Environment, Standard Edition (build 1.4.1_02-b06)
Java HotSpot(TM) Client VM (build 1.4.1_02-b06, mixed mode)
```


<Internet Explorer を使用した確認手順>

- (1) Internet Explorer メニュー [ツール] を選択してください。JRE がインストールされている場合、以下のように「Java コンソール (Sun)」メニューが表示されます。「Java コンソール (Sun)」が表示されていない場合は、JRE がインストールされていません。



- (2) 「Java コンソール (Sun)」メニューを選択してください。「Java コンソール」ウィンドウが表示されますので、JRE のバージョンを確認してください。



8.2 エージェントへの接続

ブラウザで「<http://IPアドレス:3052>」にアクセスします。アドレス中の「IPアドレス」は設定を行いたいエージェントのIPアドレスに置き換えます。エージェントのIPアドレスが 172.16.1.87 の場合は「<http://172.16.1.87:3052>」にアクセスします。



この画面が表示されたら、エージェントに設定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、「ログイン」を押します。

8.3 エージェントの設定

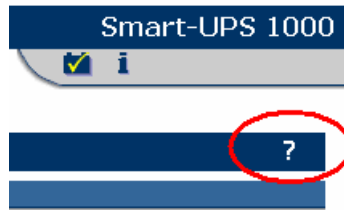
WebUI でエージェントに接続すると次の画面が表示されます。左側のメニュー（四角で囲まれた部分）を利用して、接続されたUPSの設定およびイベント発生時の動作設定等を行うことができます。



右上の「i」（矢印の箇所）をクリックすると、画面にヘルプ情報が表示されます。



WebUI の各設定項目については、左側の各メニューを選択後に表示される画面で『?』を選択すると表示されるオンラインヘルプも参照してください。



例として、WebUI で「OS シャットダウン待機時間」の値を変更する手順を次に示します。

「OS シャットダウン待機時間」とは OS がシャットダウンを開始してから、UPS が実際にサポートしている機器への電源供給を停止するまでの時間です。

**注意 : PowerChute Business Editionコンソールからは、[シャットダウン]–[シャットダウンシーケンス]で表示される「OSシャットダウンに必要な時間」で設定します。
(詳細については「9 シャットダウンプロセスについて」を参照してください)**

左側のメニューで[保護されたシステム]–[シャットダウンの設定]を選択すると以下の画面が表示されます。「設定」を選択してください。



「OS シャットダウン待機時間」の値を変更する場合、ドロップダウンメニューにより値を選択します。選択可能な値は使用しているUPS装置に依存します。詳しくはUPS装置添付のマニュアルを参照してください。



変更した後は画面下の「適用」ボタンを押してください。

注意：「適用」ボタンを押さずに左側の他のメニューを選択すると、変更の内容が反映されません。



「適用」ボタン押下後、以下のような画面が表示されますので、変更が反映されていることを確認してください。



8.4 イベントアクションの設定

各イベントのイベントアクションの設定は WebUI からのみ設定可能です。

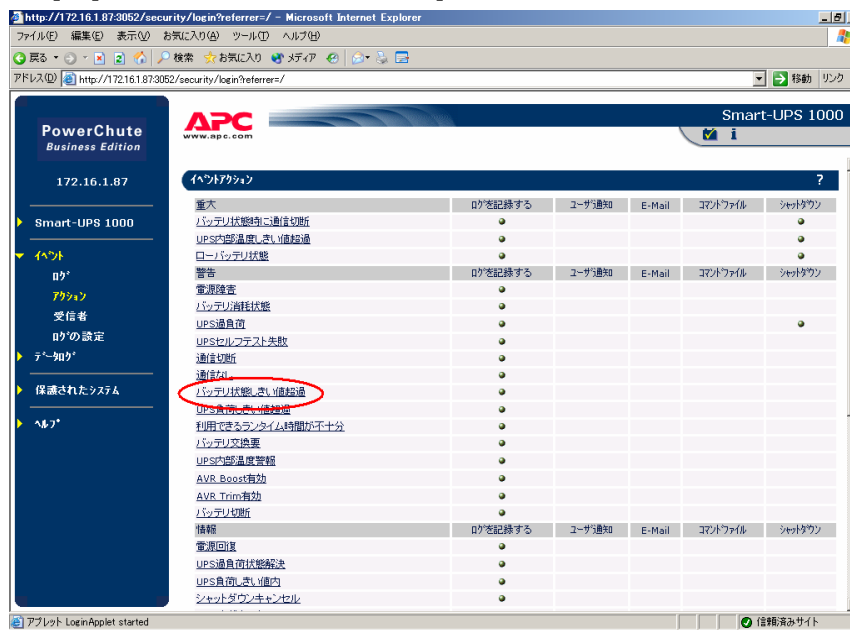
左側のメニューの[イベント] → [アクション]を選択し、各イベントのイベントアクションの設定します。例として、「バッテリー状態しきい値超過」の値を変更する手順を次に示します。



「バッテリー状態しきい値超過」とは停電（電源障害）が発生してから、OSシャットダウンが開始されるまでの時間の設定値です。この値の詳細については「9.4 電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「安全性を重視」の場合）」を参照してください。

注意：PowerChute Business Edition コンソールでは「詳細項目の表示」チェックボックスをチェックしている状態で、[シャットダウン]-[電源障害]を選択して表示される画面の、「UPS のバッテリー状態が次の時間経過後：」で設定します。

[イベントアクション]-[バッテリー状態しきい値超過]を選択し、必要な設定を行ってください。



「バッテリー状態時間しきい値」の値を変更する場合、ドロップダウンメニューにより値を選択します。



「バッテリー状態しきい値超過」イベントが発生したとき、シャットダウンを実行させるには「シャットダウン」チェックボックスにチェックします。

変更した後は画面下の「適用」ボタンを押してください。

注意：「適用」ボタンを押さずに左側の他のメニューを選択すると、変更の内容が反映されません。



「適用」ボタン押下後、以下のような画面が表示されますので、変更が反映されていることを確認してください。

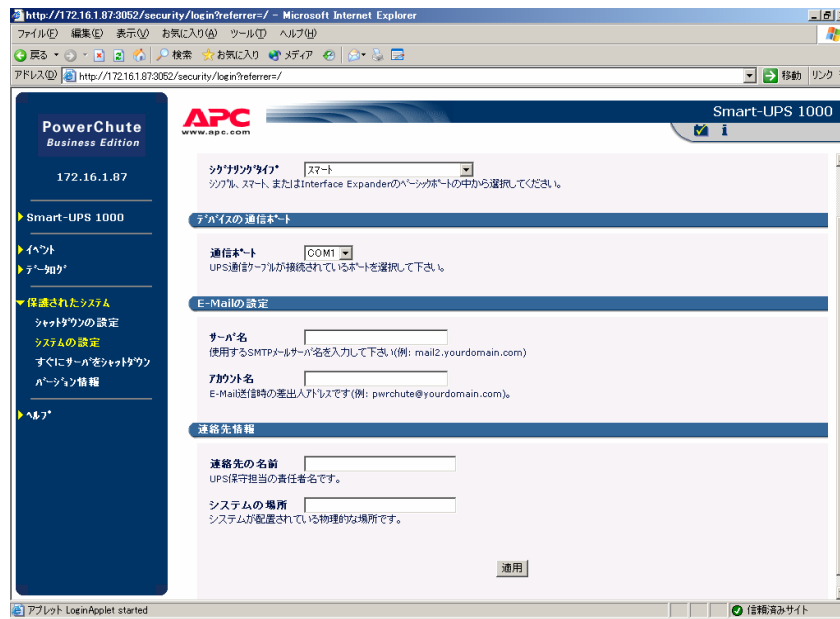


イベントアクションの設定として「E-mail 通知」や「ユーザ通知」を選択した場合、以下の設定が必要になります。設定に際しては「？」のオンラインヘルプを参照してください。

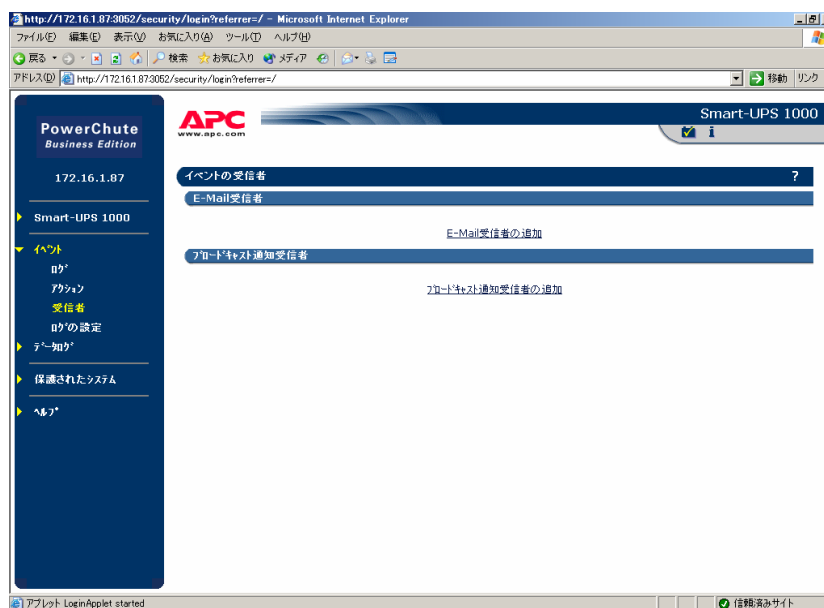
[保護されたシステム]—[システムの設定]を選択し、「E-mail の設定」を設定してください。

<E-Mail 通知機能について>

- PowerChute Business Edition ではSMTP 認証等のユーザ認証を行うメール送信はサポートしていません。
- アカウント名に設定する情報は、E-Mail 通知された際の”From”に入る情報です。ここに設定するアカウント名については、SMTP サーバにそのアカウントが実在している必要はありません。ただし、実在しないアカウントを設定した場合、そのアドレスに対しての返信は行えません。



[イベント]—[受信者]を選択し、「E-mail 受信者」、「ブロードキャスト通知受信者」を設定してください。「ブロードキャスト通知受信者」に設定する情報については「？」を参照してください。



9 シャットダウンプロセスについて

PowerChute Business Edition を使用したシャットダウンプロセスは大きく分類すると以下の3通りです。

- スケジュールによるシャットダウンプロセス
- 電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「安全性を重視」の場合）
- 電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「ランタイム重視」の場合）

これらのシャットダウンプロセスの機能を使用するには、PowerChute Business Edition にて適切な値が設定されていなければなりません。システム環境により、シャットダウンに要する時間やバックアップ時間 (UPS がバッテリー電源を供給できる時間) が異なりますので、環境ごとに適切な値を設定しなければなりません。

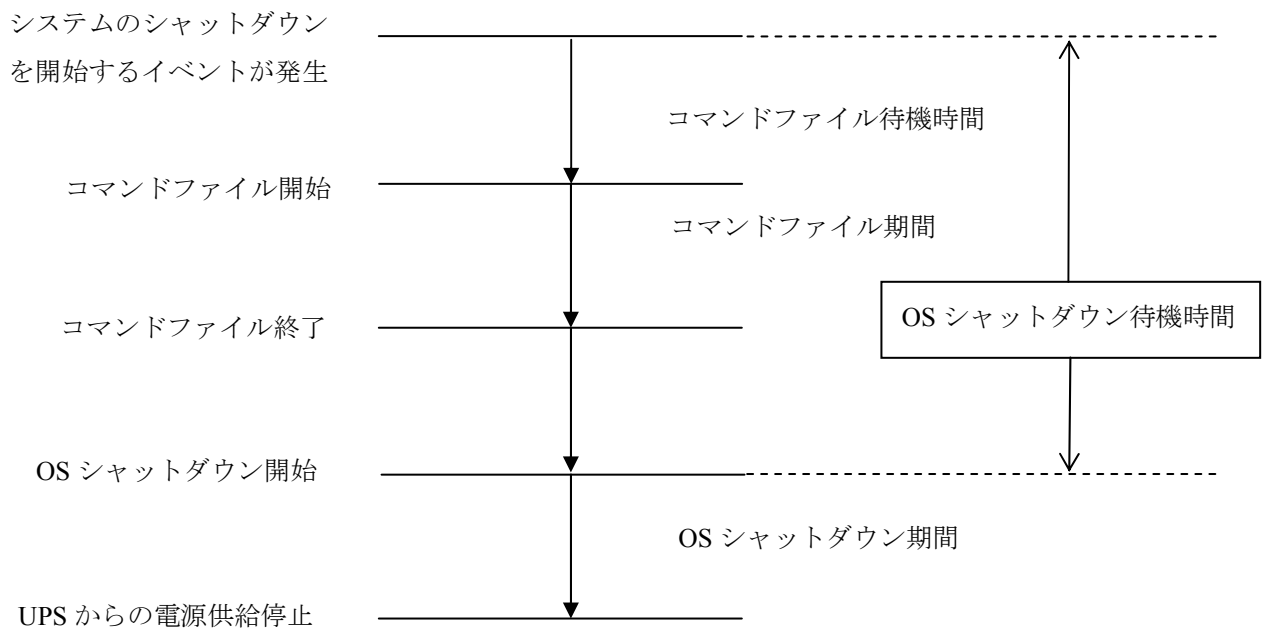
※ 適切な値が設定されていない場合、OS のシャットダウン処理が正しく終了する前に UPS からの電源供給が停止し、その結果、システムに重大な障害が発生することがあります。

スケジュールシャットダウン、および電源障害時のシャットダウン処理は「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した内容に従って行われますので、「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」は必ず行ってください。

なお、以降の説明に使用する設定値は説明上のものです。各設定値は環境に合った適切な値を設定してください。

9.1 シャットダウンシーケンスの設定

PowerChute Business Edition によりシステムのシャットダウン処理が開始された場合の、シャットダウン処理の流れは以下のようになります。

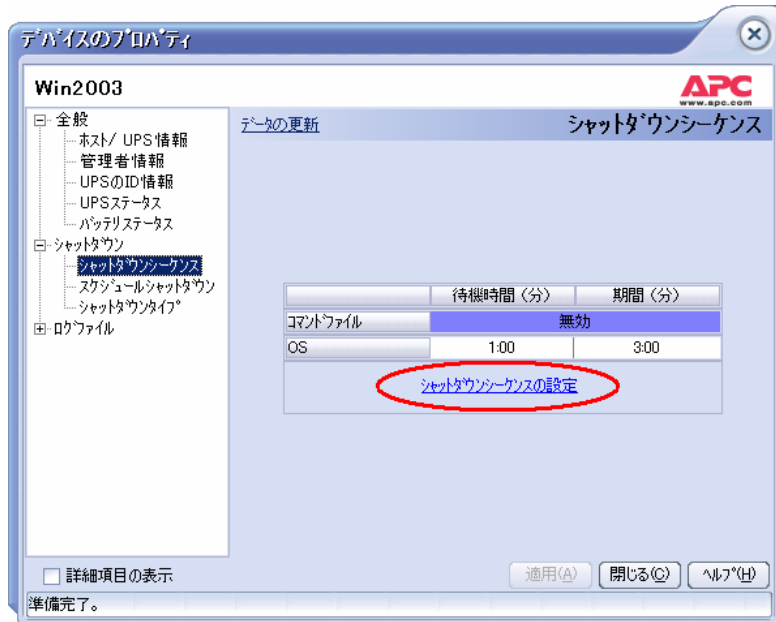


- ① シャットダウンシーケンスの設定は、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示後、[シャットダウン]-[シャットダウンシーケンス] を選択した以下の画面から設定を行います。

以下の画面は、現在設定されているシャットダウンシーケンスの設定内容になります。

- ・ コマンドファイルは設定されていません（無効）
- ・ OS シャットダウン待機時間は 1 分
- ・ OS シャットダウン期間は 3 分

設定を変更するためには「シャットダウンシーケンスの設定」を選択します。



- ② 「シャットダウンシーケンスの設定」ウィンドウが表示されます。最初に OS シャットダウンを行う前に実行させるコマンドファイルの選択をします。特にコマンドファイルを実行させる必要がない場合は「なし」を選択してください。

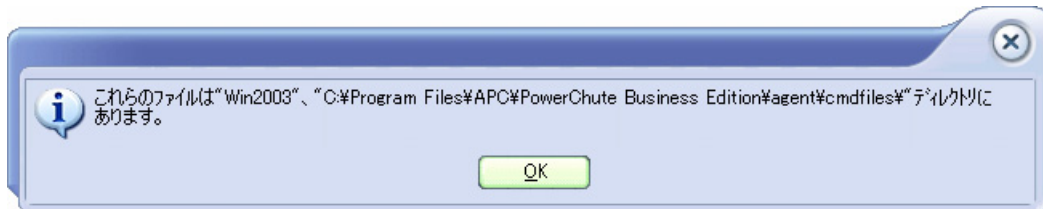


注意：コマンドファイルを実行する場合は、各エージェントのサーバごとに以下の設定も必要です。

※ コマンドファイルは、PowerChute Business Edition エージェントのインストールフォルダ内にある cmdfiles フォルダ内に作成してください。また、作成方法は同フォルダ内の default.cmd を参考にしてください。

1. [設定] – [管理ツール] – [サービス]を表示し、「APC PBE Agent」サービスを選択し、右クリックのメニューから「プロパティ」を選択。
2. “ログオン”タブを選択して、「デスクトップとの対話をサービスに許可」のチェックボックスをオンにします。
3. 「適用」ボタンを押し、「OK」ボタンを押します。

コマンドファイルは「コマンドファイルのディレクトリ」をクリックして表示されるメッセージウィンドウのフォルダに格納されているものが表示されます。

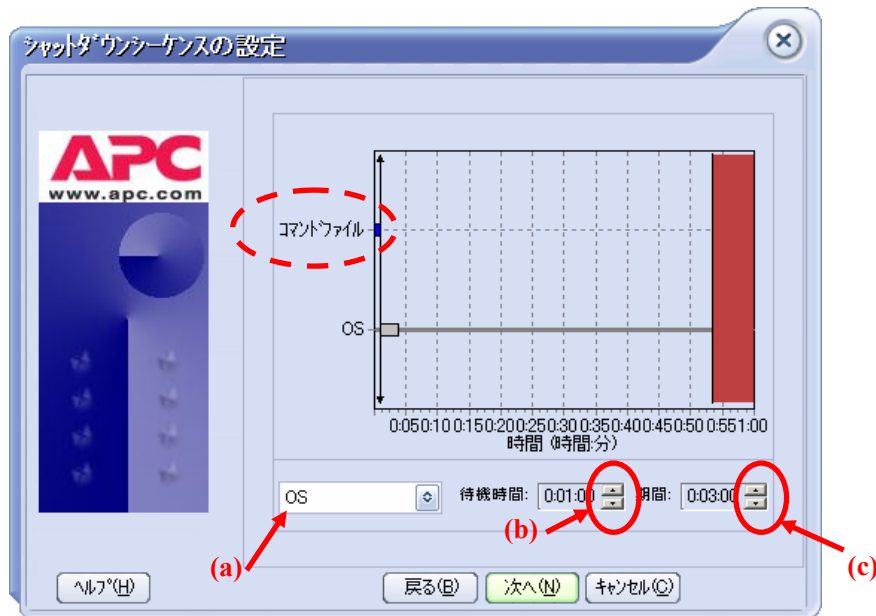


ここでは例として「cmd_file.exe」をコマンドファイルとして設定します。コマンドファイルを選択したら「次へ」ボタンを押します。

また、「テスト」ボタンをクリックすると選択しているコマンドファイルのテストが出来ます。



- ③ 次は「コマンドファイル」および「OS シャットダウン」に関する待機時間、および期間の設定を行います。なお、以降の説明に使用する設定値は説明上のものです。各設定値は環境に合った適切な値を設定してください。また、待機時間、期間の説明は「ヘルプ」ボタンを押して表示されるシャットダウンシーケンスの設定の「待機時間と期間の指定方法」を参照してください。



前のコマンドファイル選択画面において、コマンドファイルを設定していた場合、上記のような画面表示になります。コマンドファイルの選択画面にて「なし」を選択していた場合、上記画面において「コマンドファイル」が表示されません。

「待機時間」、「期間」は表示されているバーグラフの、各「バー」をマウスのドラッグ操作等により設定します。設定した内容は下の「待機時間」、「期間」の欄に表示されます。

また、(a)にて時間設定をする対象（OS または、コマンドファイル）を選択し、(b)にて「待機時間」、(c)にて「期間」をそれぞれ「▲」や「▼」ボタンを押すことで設定することもできます。

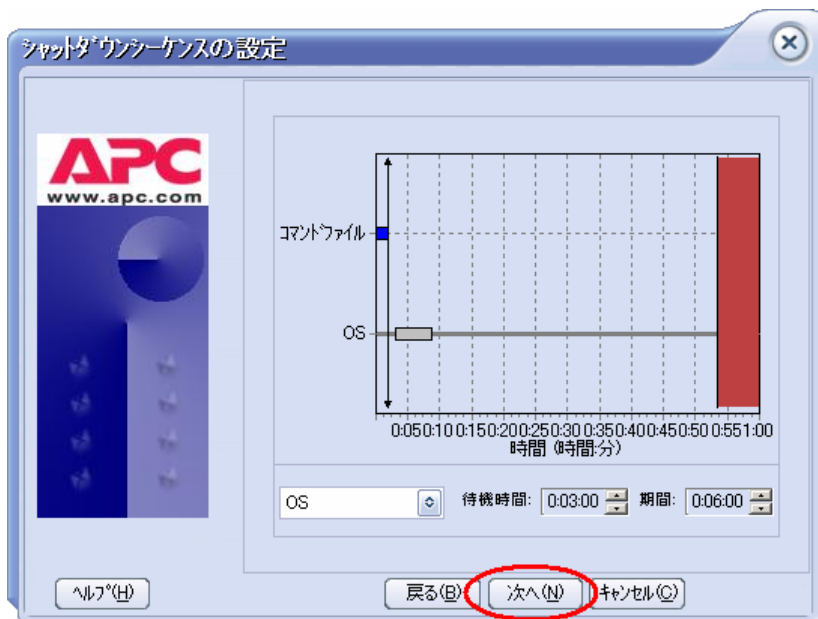
※重要 <OS シャットダウンの「期間」に設定する値について>

この値は、OS シャットダウン開始後、UPS 装置からの電源供給が停止するまでの時間についての設定項目になります。この値を設定する前に実環境のサーバを使用して、OS がシャットダウンに要する時間を何回か測定し、その結果を十分に超える値を設定してください。この設定値が短い場合、シャットダウン途中で UPS 装置からの電源供給が停止され、システムに重大な障害が発生する可能性があります。

注意：シグナリングタイプが「シンプルシグナル」の場合、OS シャットダウンの期間が“5分”で固定されていますが、実際には無効な値となります。

注意：OS シャットダウン待機時間の値は「コマンドファイル待機時間」、「コマンドファイル期間」に設定した時間も加えられます。

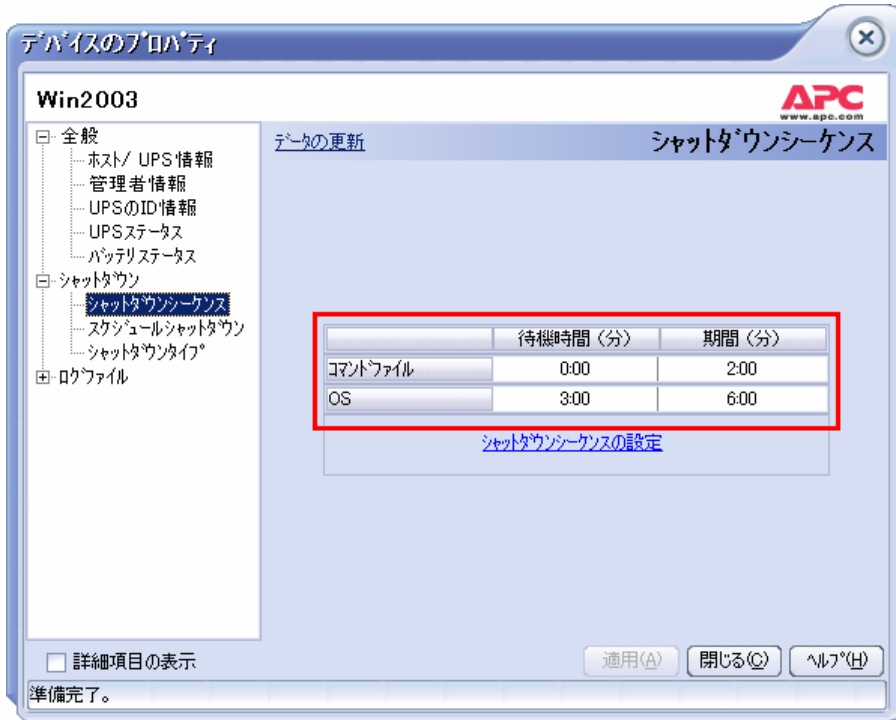
- ④ 設定を終えたら「次へ」ボタンを押してください。



- ⑤ 「完了」ボタンを押して「シャットダウンシーケンスの設定」ウィンドウを閉じます。



⑥ 設定した内容が正しく反映されているかを確認してください。

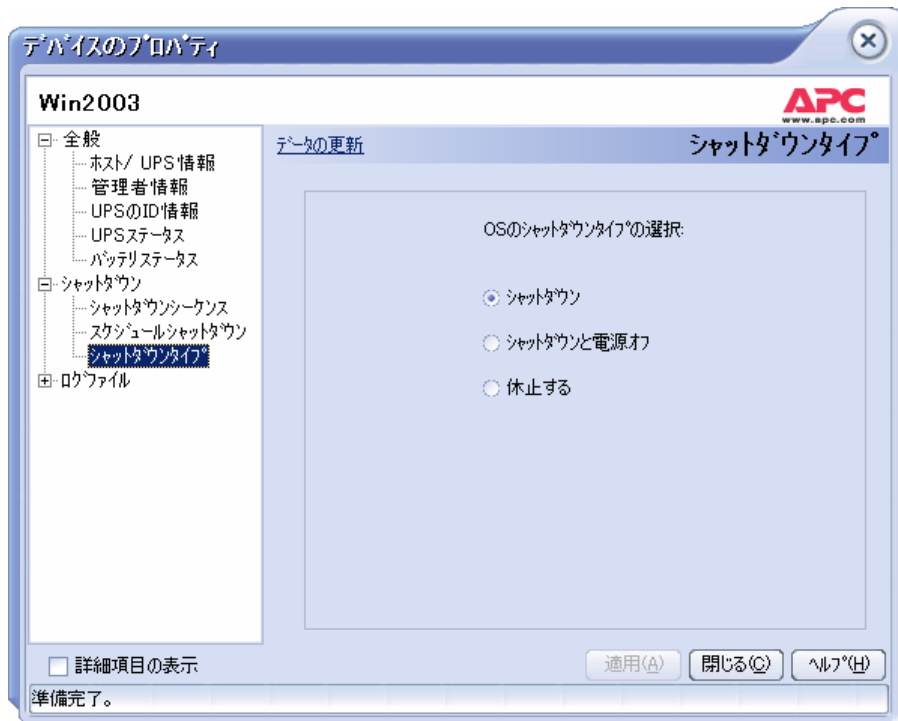


9.2 シャットダウンタイプの設定

PowerChute Business Edition により行われるシャットダウン動作を、シャットダウン、シャットダウンと電源オフ、休止する のいずれかに設定変更することができます。各シャットダウンタイプについては、以下を参照してください。

- 9.2.1 「シャットダウン」を選択した場合
- 9.2.2 「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合
- 9.2.3 「休止する」を選択した場合

シャットダウンタイプを設定するには、PowerChute Business Edition コンソールから対象の PowerChute Business Edition エージェントを選択し、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示したあと、[シャットダウン]-[シャットダウンタイプ]を選択してください。



WebUI から設定する場合は[保護されたシステム]-[シャットダウンの設定]を選択し、「OS シャットダウンタイプ」にて設定します。

9.2.1 「シャットダウン」を選択した場合

PowerChute Business Editionエージェントのデフォルト設定です。PowerChute Business EditionによりOSシャットダウンが行われた後、サーバはすぐに電源オフされません (※)。サーバの電源は、OSのシャットダウン処理が開始されてから「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」のOSシャットダウン期間にて設定した時間が経過した後にUPS装置からの電源供給が停止されることで、電源オフされます。

電源障害によるサーバシャットダウン後、電源回復によるサーバの自動起動、およびスケジュール設定をすることによるサーバの自動運転を行う場合は、このシャットダウンタイプにて運用することをお奨めいたします。

※ Windows XP Professional SP1a 以降を適用済み、および Windows Server 2003 の環境では、「シャットダウン」を選択した場合でも OS シャットダウン後、直ちにサーバの電源がオフされます。

9.2.2 「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合

PowerChute Business Edition により OS シャットダウンが行われた後、直ちにサーバの電源がオフされる設定です。このシャットダウンタイプを選択している場合、サーバ装置の BIOS にて設定する「AC-LINK」の設定が「Power ON」であるか、それ以外になっているかにより、UPS から電源供給が再開した後の動作が異なります。

< 「Power ON」に設定している場合 >

UPS 装置からの電源供給が再開されると、サーバも自動起動されます。

< 「Power ON」以外に設定している場合 >

UPS 装置からの電源供給が再開された後も、サーバは自動起動されない場合があります。サーバが起動していなかった場合、起動するためにはサーバの電源スイッチを手動オンしていただく必要があります。

重要：このシャットダウンタイプを選択し、かつ「AC-LINK」の設定を「Power ON」以外に設定している場合、電源障害によるサーバシャットダウン後の電源回復によるサーバの自動起動や、スケジュール運転によるサーバの自動運転が行えませんので、本事項を十分に理解の上、使用してください。

9.2.3 「休止する」を選択した場合

シャットダウンタイプを「休止にする」に設定することで、PowerChute Business Edition によりシャットダウン処理が行われた場合、サーバを休止状態にすることができます。ただし「休止する」を選択するためには、使用している環境において休止状態が使用可能であることが条件となります。使用可能かどうかを判断するためには[コントロールパネル]-[電源オプション]を選択してください。「休止状態」タブが表示されており、そのタブを選択して「休止状態を有効にする」のチェックボックスがオンになっていれば、休止状態が使用できます。

ただし「休止状態」を使用する場合、使用しているハードウェア、OS、アプリケーションにおいて「休止状態」を使用することにより問題が発生しないことを十分に確認してください。

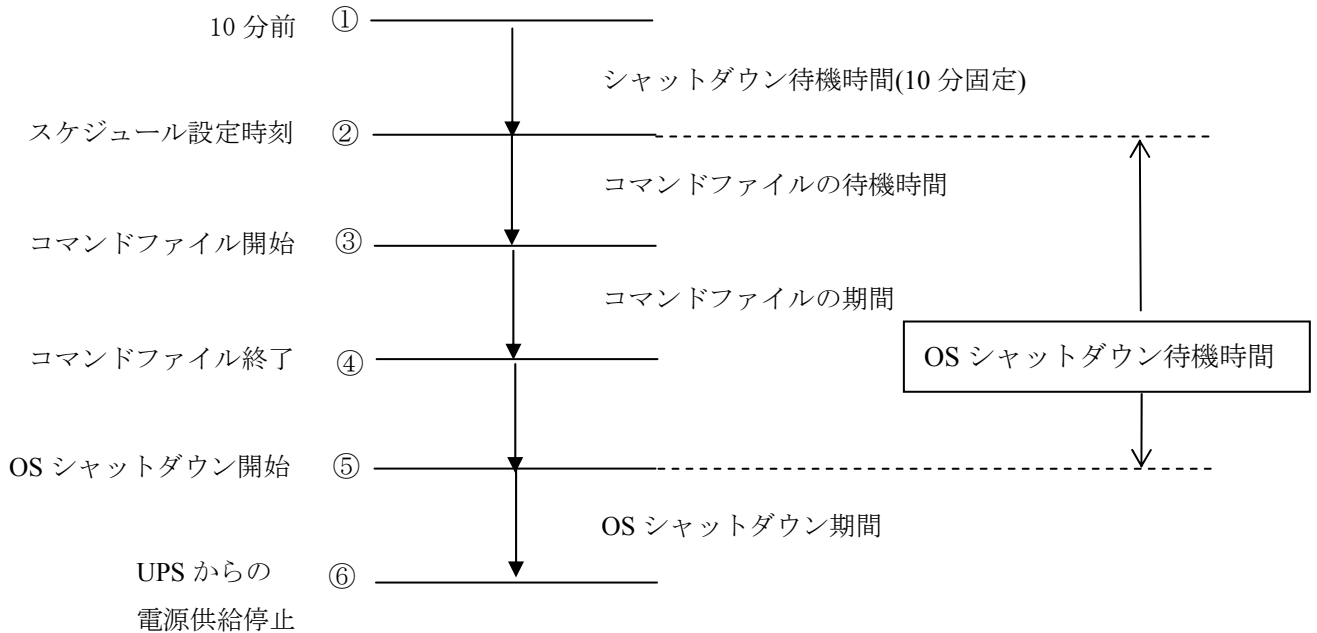
注意：「休止する」に設定していた場合、スケジュールおよびコンソール(WebUI)からのシャットダウン後の起動時、「電源回復」のログが記録される場合があります。

※ 重要 シャットダウンタイプを「休止する」にして運用する場合、以下の制限事項がありますので注意してください。

- **Windows 2000 環境において、休止状態からのウエイク後キー・マウスインプットなどを行わずに放置しアイドル状態が5分続くと、再び休止状態に入りそれ以降 PowerChute Business Edition エージェントサービスは動作しません。**
(詳細はマイクロソフト社のサポート技術情報 KB282208 を参照してください)
上記現象によりサーバが再び休止状態になった場合、サーバは休止状態から自動復旧されず、手動にて休止状態から復旧させる必要があります。停電またはスケジュールによるサーバの自動運用を行う場合は、「休止する」を使用しないことをお奨めします。
- **Windows XP Professional 環境において、休止状態からのウエイク後キー・マウスインプットなどを行わずに放置しアイドル状態が5分続くと、再び休止状態に入りそれ以降 PowerChute Business Edition エージェントサービスは動作しません。**
(詳細はマイクロソフト社のサポート技術情報 KB318355 を参照してください)
上記現象によりサーバが再び休止状態になった場合、サーバは休止状態から自動復旧されず、手動にて休止状態から復旧させる必要があります。停電またはスケジュールによるサーバの自動運用を行う場合は、「休止する」を使用しないことをお奨めします。

9.3 スケジュールによるシャットダウンプロセス

ここではスケジュールによるシャットダウンが開始された場合の、シャットダウンの流れを説明します。シャットダウンのスケジュール設定方法については、「10 スケジュールシャットダウンの設定」にて説明しています。



- ① スケジュール設定時刻の 10 分前に「<日時>に設定されている管理上のシャットダウンが開始されました。」とメッセージ通知を行う
- ② コマンドファイルの待機
- ③ コマンドファイルの実行開始
- ④ コマンドファイルが終了し、OS シャットダウン待機時間が経過するまで待機する
- ⑤ OS のシャットダウンが開始される
- ⑥ UPS からの電源供給が停止する

■ 設定項目

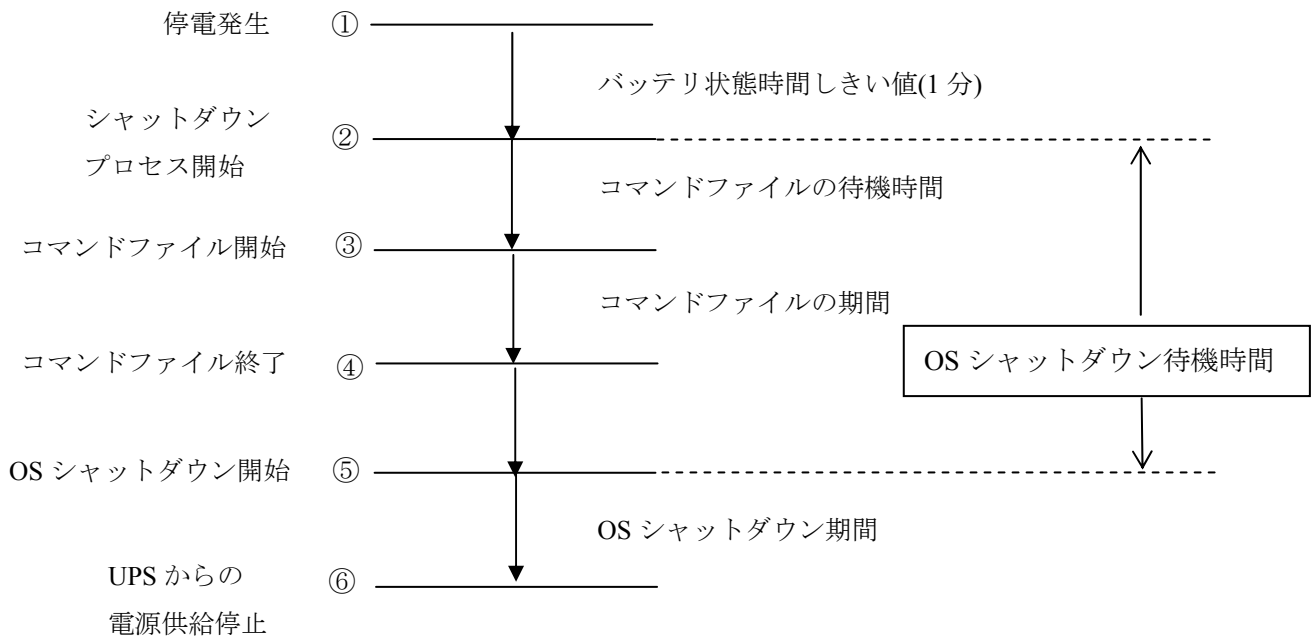
➤ シャットダウン待機時間

PowerChute Business Edition がスケジュールによるシャットダウンプロセスを開始するまでの待機時間です。10 分で固定されています。

➤ コマンドファイル待機時間、期間・OS シャットダウン待機時間、期間

「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。まだシャットダウンシーケンスの設定を行っていない場合は必ず「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」を参照して設定を行ってください。

9.4 電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「安全性を重視」の場合）



- ① 停電(電源障害)発生。以降 UPS はバッテリーによる電源供給を行う
 - ② バッテリ状態時間しきい値を超過したので、シャットダウンプロセスが開始される
 - ③ コマンドファイルが開始される
 - ④ コマンドファイルが終了され、OS シャットダウン待機時間が経過するまで待機する
 - ⑤ OS のシャットダウンが開始される
 - ⑥ UPS からの電源供給停止する
- ※ ①～②の間に復電した場合、サーバのシャットダウンはキャンセルされます。

注意: ①～⑤の間にUPSがローバッテリー状態またはランタイム残量がローランタイムしきい値以下になった場合のシャットダウンプロセスは、「9.5 電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「ランタイム重視」の場合）」と同様になります。

重要: すべての時間の合計（[バッテリー状態時間しきい値]+[OS シャットダウン待機時間]+[OS シャットダウン期間]）がUPSの残りバックアップ時間（UPSがバッテリー電源を供給できる時間）を超えないように設定してください。バックアップ時間を超える値を設定した場合、OSのシャットダウン完了までバッテリー電源による供給ができません。

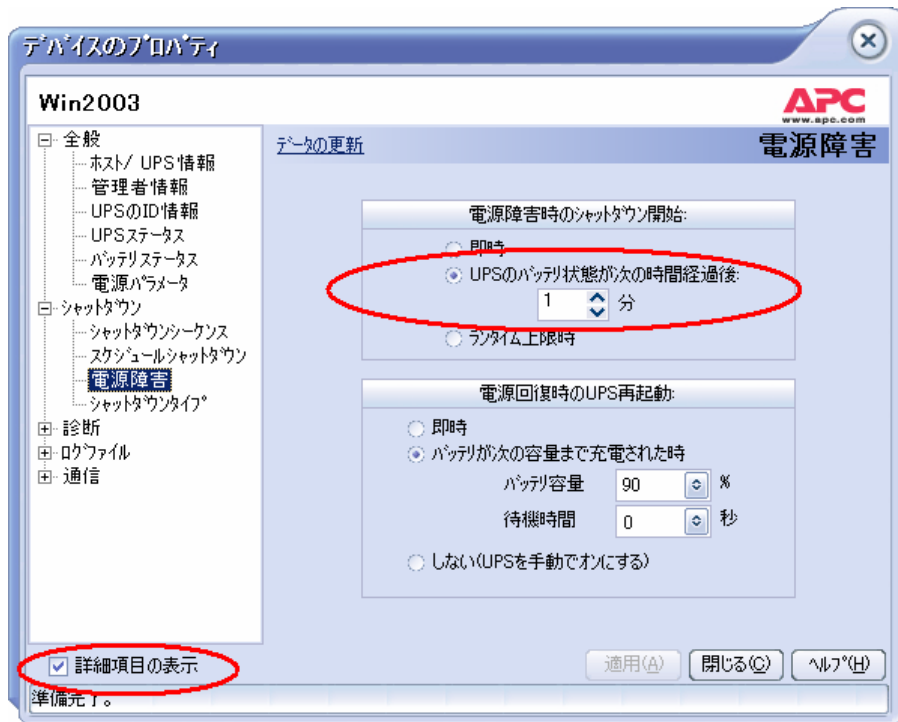
重要: コマンドファイル待機時間、期間・OSシャットダウン待機時間、期間は、「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。まだシャットダウンシーケンスの設定を行っていない場合は必ず「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」を参照して設定を行ってください。

■ 設定項目

➤ バッテリ状態時間しきい値

停電(電源障害)が発生してから、OS のシャットダウンが開始されるまでの時間を設定します。

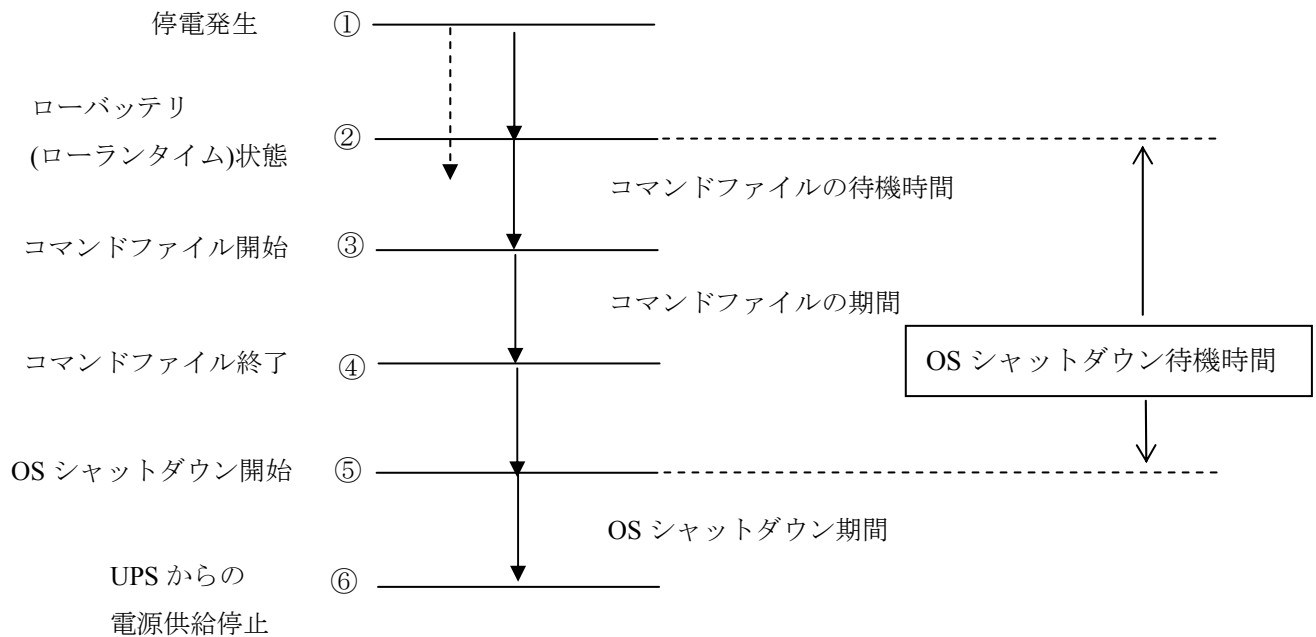
コンソールからは、プロパティを開き[シャットダウン]—[電源障害]で、[UPS のバッテリー状態が次の時間経過後]タブを選択して時間を設定します。[電源障害]ツリーはプロパティ画面左下の「詳細項目の表示」にチェックを入れる则表示されます。(下図参照)



WebUIからは[イベント]—[アクション] —[バッテリー状態しきい値超過]を選択し、「バッテリー状態しきい値」を設定します。

注意：「電源障害時のシャットダウン開始」を「即時」に設定していた場合、瞬電発生によりシャットダウンが実行される場合があります。

9.5 電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「ランタイム重視」の場合）



- ① 停電(電源障害)発生。以降 UPS はバッテリーによる電源供給を行う
- ② バッテリーからの電源供給が可能な時間が、[ローバッテリー信号時間]の設定時間または[ローランタイムしきい値]まで低下したためにシャットダウンプロセス開始が開始される
- ③ コマンドファイルが開始される
- ④ コマンドファイルが終了され、OS シャットダウン待機時間が経過するまで待機する
- ⑤ OS のシャットダウンが開始される
- ⑥ UPS からの電源供給停止する

注意： [ローバッテリー信号時間]の考え方については、※1 (72ページ)を参照願います。

重要： コマンドファイル待機時間、期間・OSシャットダウン待機時間、期間は、「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」にて設定した時間に従ってシャットダウン処理が行われます。まだシャットダウンシーケンスの設定を行っていない場合は、必ず「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」を参照して設定を行ってください。

■ 設定項目

➤ ローバッテリー信号時間

WebUI からのみ設定することができます。[保護されたシステム]–[シャットダウンの設定]を選択して[設定]を押します。表示される設定画面で[ローバッテリー信号時間]を設定します。(下図参照)



➤ ローランタイムしきい値

コンソールでは [OS のシャットダウンに必要な時間] の設定値と [コマンドファイル実行所要時間] の設定値から自動で設定されます。ただし、最低設定値は5分になります。

例えば

OS のシャットダウンに必要な時間 : 180 秒

コマンドファイル実行所要時間 : 5 分

に設定した場合、ローランタイムしきい値は8分に設定されます。

WebUI からは任意の値を設定することができます。[保護されたシステム]–[シャットダウンの設定]を選択して[設定]を押します。表示される設定画面で[ローランタイムしきい値]を設定します。(下図参照)

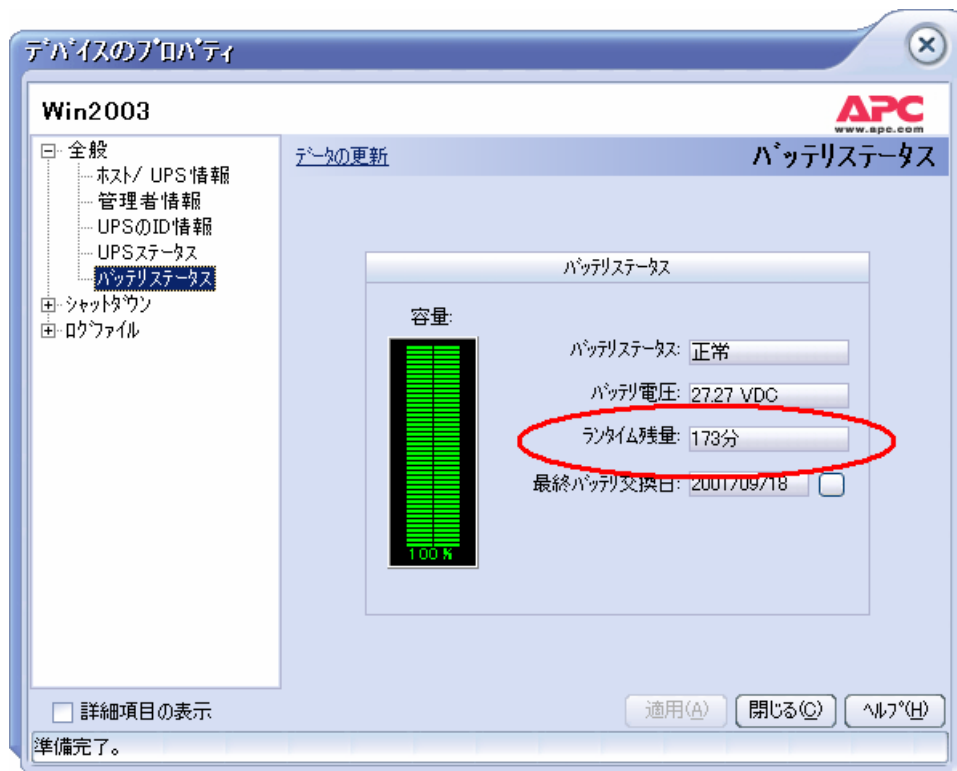


※1 参考 [ローバッテリー信号時間] について

例えばUPSバッテリー能力が弱っている場合、UPSバッテリーの電源供給可能時間が、「9.4 電源障害時のシャットダウンプロセス（電源保護方針が「安全性を重視」の場合）」で設定した [バッテリー状態時間しきい値] + [OSシャットダウン待機時間] + [OSシャットダウン期間] の合計時間より少なくなる場合があります。このような状態のUPSがシャットダウンプロセスを実施した場合、正常にシャットダウンが完了する前に、UPSバッテリーの電源供給が停止してしまいます。それを防止するために、PowerChute Business EditionはUPSバッテリーの電源供給可能時間が、[ローバッテリー信号時間]として設定されている時間以下になった時にOSのシャットダウンを開始します。

[ローバッテリー信号時間] は、[OSシャットダウン期間] より大きい時間を設定する必要があります。

現時点でのバックアップ時間を表示するには、コンソールからはプロパティを開き、[全般]-[バッテリーステータス]を選択し、[ランタイム残量]によって確認することができます。（下図参照）



WebUIでは[Smart-UPS 1000]-[システムステータス]を選択し「ランタイム残量」を確認します。（使用するUPSタイプがSmart-UPS 1000の場合です。）

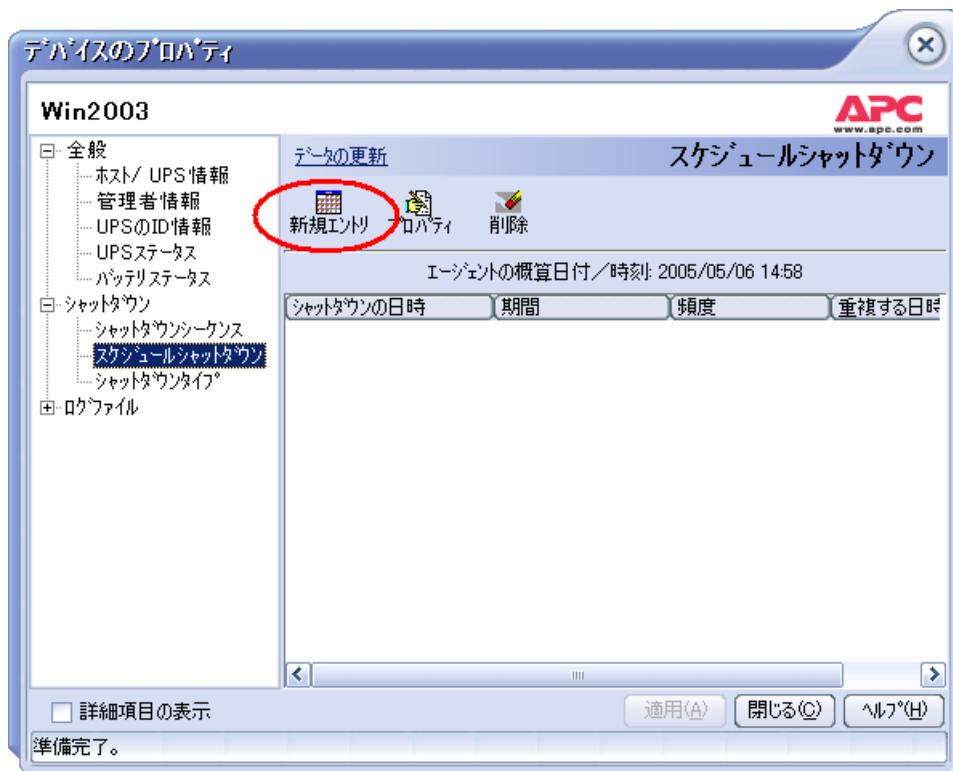
10 スケジュールシャットダウンの設定

PowerChute Business Edition ではサーバのシャットダウン日時および再起動日時を設定することでスケジュール運転ができます。

注意：スケジュール運転は『PowerChute Business Edition コンソール』でのみ設定することができます。WebUI ではスケジュール運転を設定することができません。

以下、スケジュール運転の設定方法を説明します。

- ① PowerChute Business Edition コンソールに表示されているサーバで、スケジュールを設定するサーバを選択して、「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示してください。
ウィンドウが表示されたら、[シャットダウン]-[スケジュールシャットダウン]を選択してください。すると以下のような画面が表示されます。「新規エントリ」ボタンを押してください。



- ② 「新規スケジュールシャットダウン」ウィンドウが表示されますのでここでシャットダウンをする日時を設定してください。

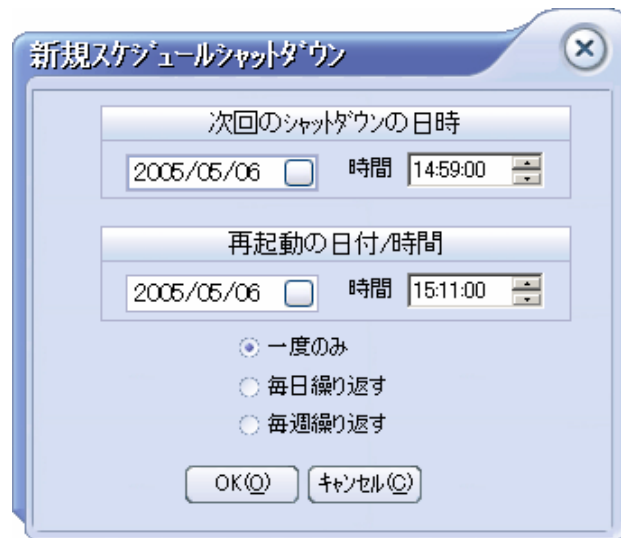
注意：「再起動の日付／時間」を設定することができるのはマスタサーバのみであり、スレーブサーバでは設定することはできません。

<「再起動の日付／時間」の「時間」の設定について>

再起動の時間は、「次回のシャットダウンの日時」に設定した日時から「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」の『OSシャットダウン待機時間』+『OSシャットダウン期間』+ 6分単位で設定します。

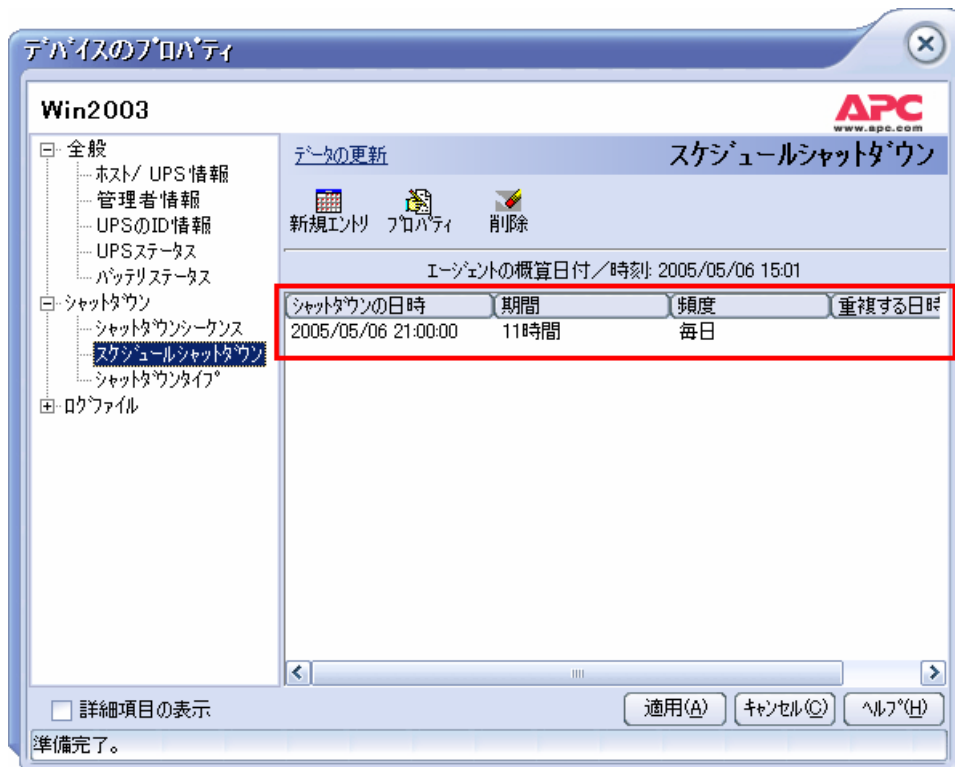
マルチサーバ構成の環境においては以下の点も留意してください。

- ・ スレーブサーバでスケジュールシャットダウンを行った場合、スレーブサーバがシャットダウンした後も UPS の出力は停止しません。
- ・ マスタサーバがスケジュールによるシャットダウンを開始すると、スレーブサーバでも連動してシャットダウンが行われます。



- ③ スケジュールの日時を設定後に「OK」ボタンを押すと、再び「デバイスのプロパティ」ウィンドウに戻ります。このとき先に登録したスケジュールの情報が画面内に表示されますので、登録内容に誤りがないかを確認してください。スケジュールを追加する場合は同様に「新規エントリ」ボタンにて追加を行ってください。

注意：スケジュールシャットダウンの「期間」の欄に表示される時間は「9.1 シャットダウンシーケンスの設定」において設定する『コマンドファイルの待機時間』、『コマンドファイルの期間』、『OSシャットダウン待機時間』、『OSシャットダウン期間』の値と連動します。それらの設定値を変更すると、その値に応じて下記の「期間」に表示される時間が増減します。

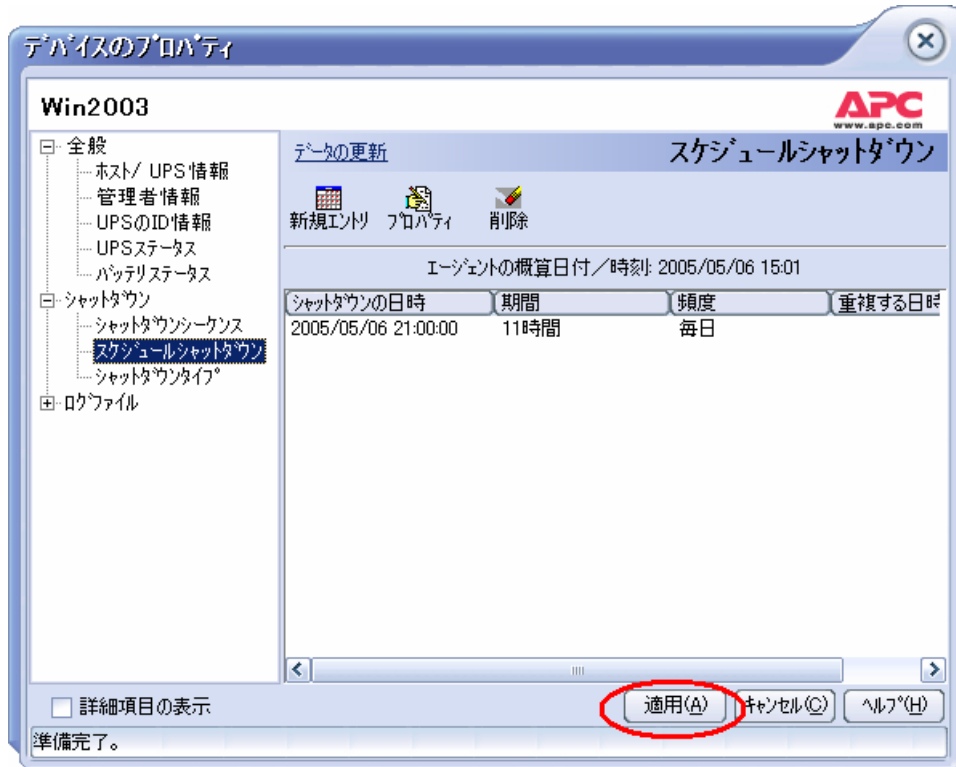


注意：すでに登録されているスケジュールと、新たに追加（あるいは編集）したスケジュールの登録内容に重複している部分がある場合、以下のように「重複する日時」の欄に登録したスケジュールに関する日時が表示されます。この「重複する日時」に表示されている行のスケジュールは実行されません。

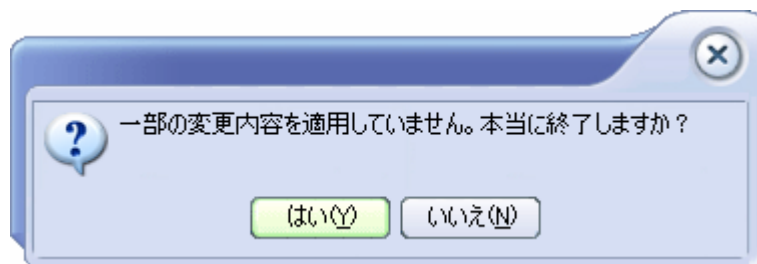
シャットダウンの日時	期間	頻度	重複する日時
2005/05/10 21:00:00	2日,11時間,24分	毎週	2005/05/17 21:00:00
2005/05/17 21:00:00	2日,13時間,48分	一度	

重複した日時のスケジュール登録を行った場合の動作については、「ヘルプ」ボタンを押して表示されるヘルプの「重複したスケジュールシャットダウン」に記載された内容を確認してください。

- ④ 必要なスケジュールの登録がすべて終わりましたら、最後に「適用」ボタンを押してください。「適用」ボタンを押すと設定したスケジュールが対象サーバに記録されます。これでスケジュール設定は完了です。



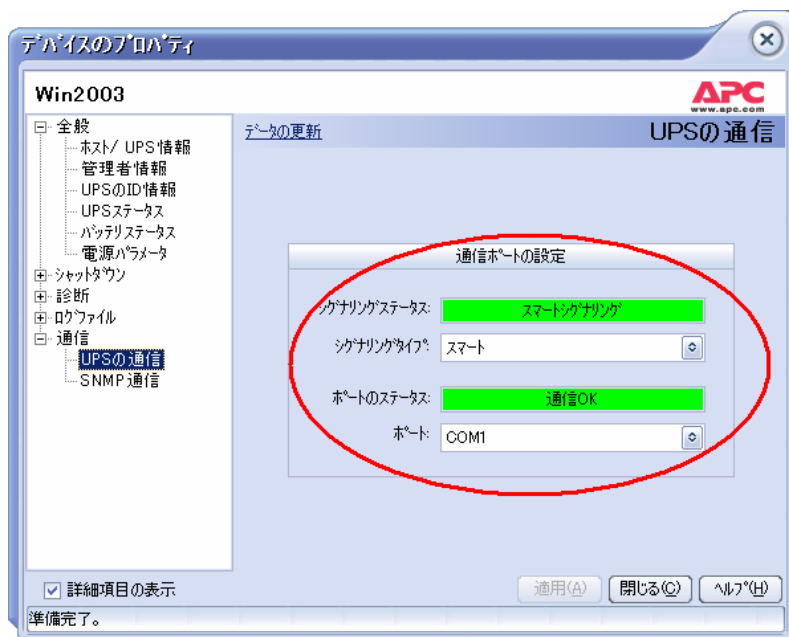
注意：PowerChute Business Edition コンソールにて何らかの値の変更を行った場合、「適用」ボタンが有効になります。この状態で「キャンセル」等で終了しようとするすると、以下のようなウィンドウが表示されます。
この場合、「はい」を選択すると変更内容が対象サーバへ適用されません。



1.1 UPS との通信設定について

PowerChute Business Edition コンソール、または WebUI を使用することでシグナリングタイプの変更、および COM ポートの変更ができます。

PowerChute Business Edition コンソールから変更を行う場合は、デバイスのプロパティを表示後、「詳細項目の表示」のチェックボックスをオンにし、[通信]—[UPS の通信]を選択することで表示される下記画面にて変更を行います。



WebUI の場合は[保護されたシステム]—[システムの設定]にて表示される下記画面より変更を行います。



1 1. 1 シグナリングタイプの変更

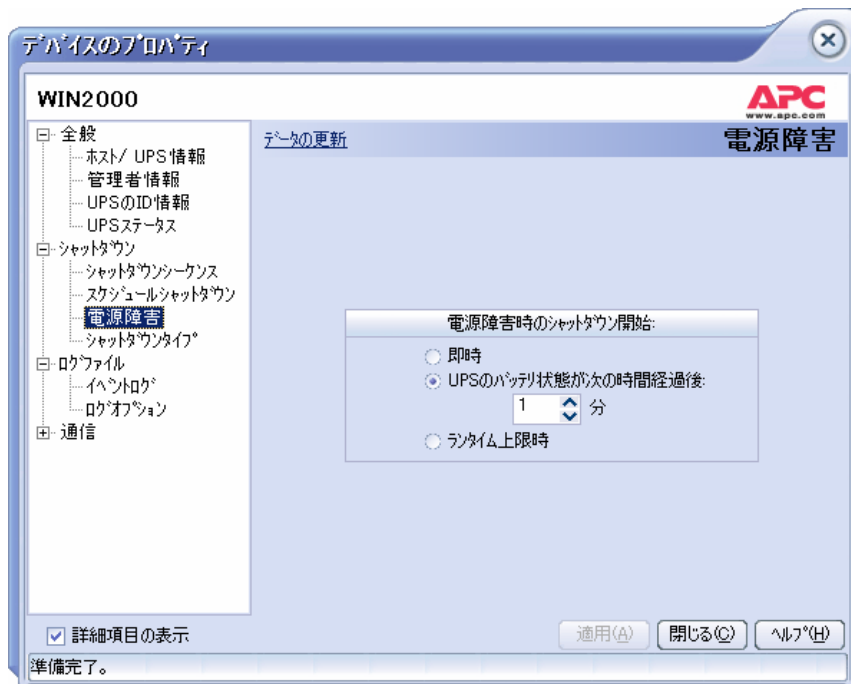
シグナリングタイプの作業を行う前に、以下のことを注意してください。

<シグナリングタイプの変更を行う際の注意>

- シグナリングタイプを変更する場合は、そのシグナリングタイプに対応したケーブルを予め準備しておいてください。

スマートシグナリング … PowerChute Business Edition 製品同梱のケーブル 黒色 (940-0024C)
シンプルシグナリング … MN8580-04 UPS インタフェースキット 灰色 (940-0020B)

- シグナリングタイプ変更を行う場合、その作業中に「通信切断」のイベントが発生しますので留意してください。
- シグナリングタイプが『シンプルシグナリング』に設定されているサーバにスマートシグナリング用の黒色のシリアルケーブル(940-0024C)を接続すると、「電源障害」のイベントが検出されます。これは、シンプルシグナリングの設定になっているサーバに黒色のシリアルケーブルを接続すると、PowerChute Business Edition が「電源障害」を検出する仕様です。このイベントが検出されたために、実際に UPS 装置が電源障害によるオンバッテリー状態になることはありません。ただし、PowerChute Business Edition としては「電源障害」と認識してしまうので、コンソールの[シャットダウン]-[電源障害]にて設定する「電源障害時のシャットダウン開始」の条件に適合した場合、サーバのシャットダウン処理を開始してしまいますので注意してください。



- シグナリングタイプを「スマート」→「シンプル」に変更した場合、そのサーバを「コンファームモード」にて運用することはできません。「タイマーモード」または「ローバッテリーモード」にて運用してください。

「コンファームモード」にて運用する場合は、「Interface Expander のベーシックポート」を選択してください。

- 以前に設定していたスケジュールは、シグナリングタイプを変更することでそれぞれ以下ようになります。不要な混乱を避けるためにも、シグナリングタイプを変更する前に、以前に設定したスケジュール情報は削除することをお奨めします。(シグナリングタイプを変更した後でも、スケジュール情報の編集、削除は可能です。)

[スマートシグナリングからシンプルシグナリングに変更した場合]

設定されているスケジュール情報は以下のように変更されます。

回目のシャットダウン日時：(以前の情報のまま変更されません)

期間：再起動なし

頻度：(以前の情報のまま変更されません)

動作としてスケジュールシャットダウン時間にサーバはシャットダウンされますが、その後サーバは自動起動されません。

[シンプルシグナリングからスマートシグナリングに変更した場合]

設定されているスケジュール情報は以下のように変更されます。

回目のシャットダウン日時：(以前の情報のまま変更されません)

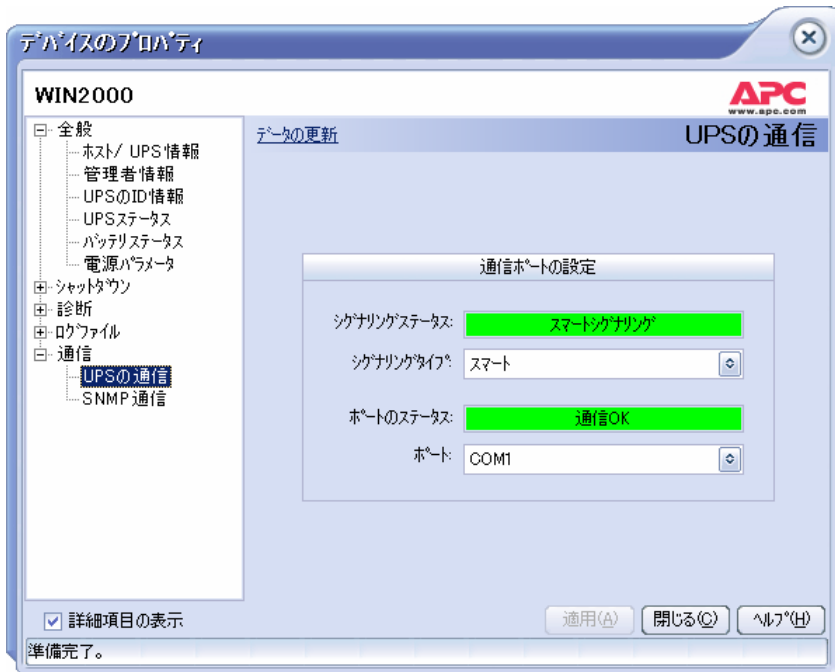
期間：『OS シャットダウン待機時間』+『OS シャットダウン期間』+6分 に変更されます

頻度：(以前の情報のまま変更されません)

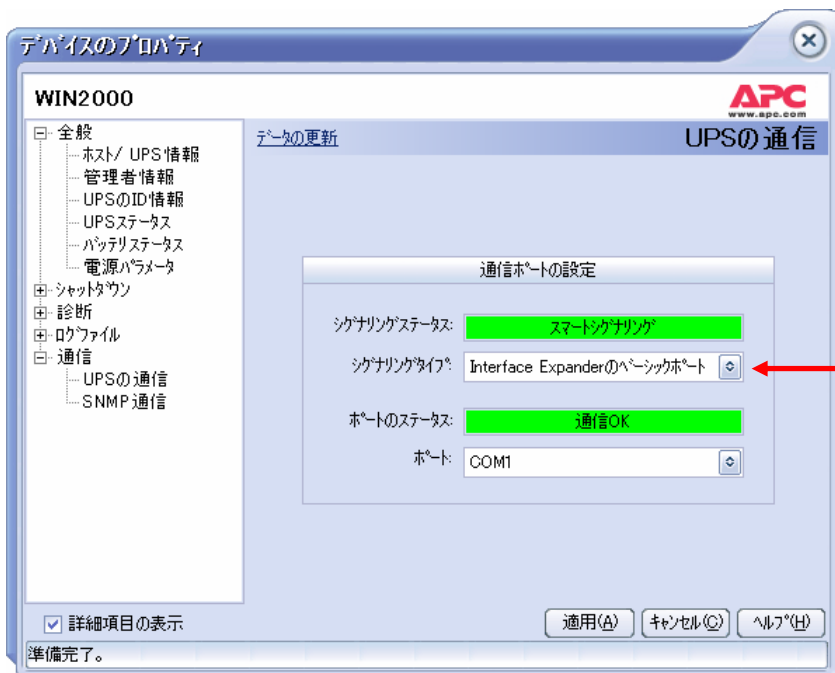
動作としてスケジュールシャットダウン時間にサーバがシャットダウンされ、シャットダウン時間から「期間」の時間経過後にサーバが自動起動されます。

1 1.1.1.1 スマートシグナリングからシンプルシグナリングへの変更

- ① シグナリングタイプを変更するサーバのデバイスのプロパティを表示し、[通信]–[UPSの通信]を選択します。([通信]メニューは左下の「詳細項目の表示」のチェックをオンにすると表示されます)
現在設定しているシグナリングタイプ「スマートシグナリング」が表示されます。



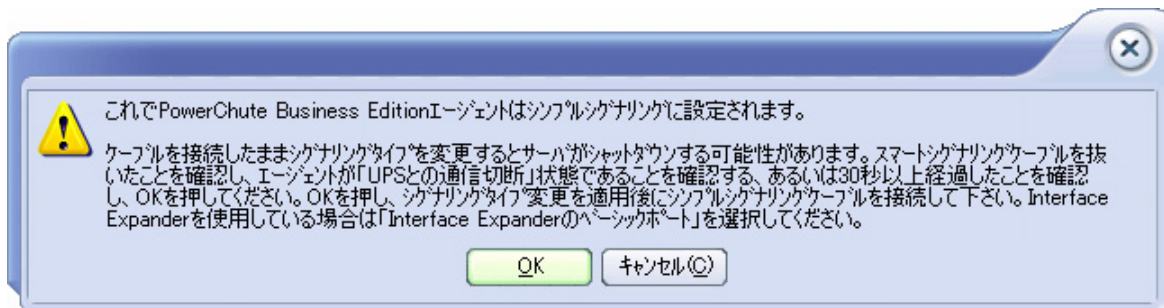
- ② サーバからシリアルケーブルを外してください。
(このとき「通信切断」のイベントが発生します。)
- ③ ドロップダウンメニューより「Interface Expanderのベーシックポート」を選択し、「適用」ボタンを押してください。



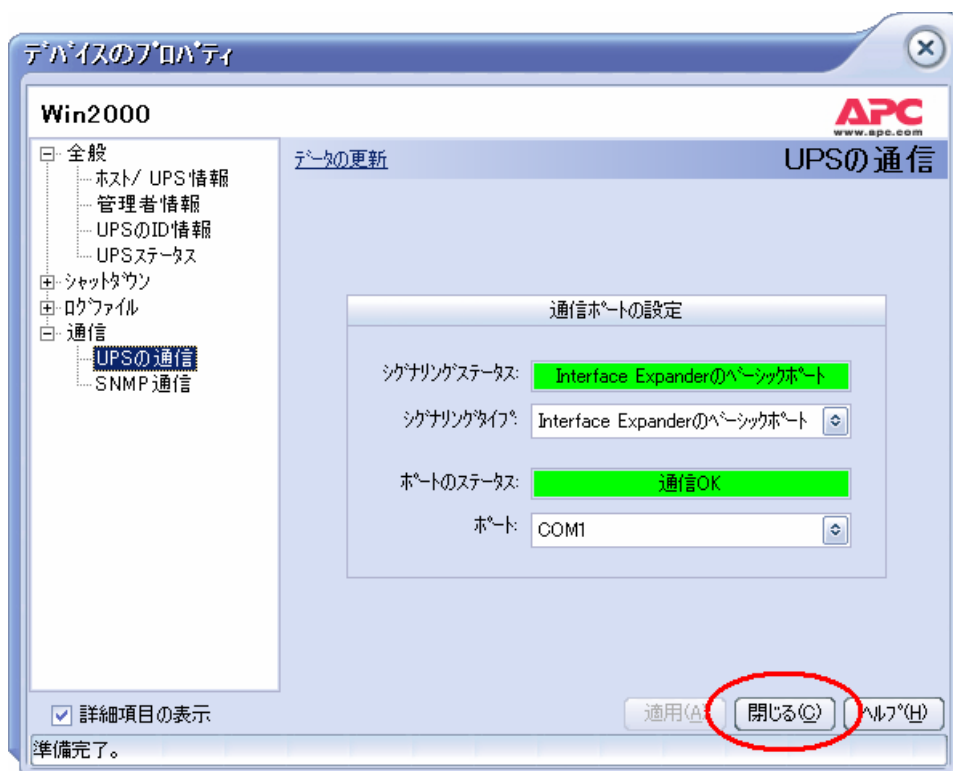
④ 以下のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンを押してください。

注意：シリアルケーブルを外すまで、メッセージの「OK」ボタンは押さないように注意してください。

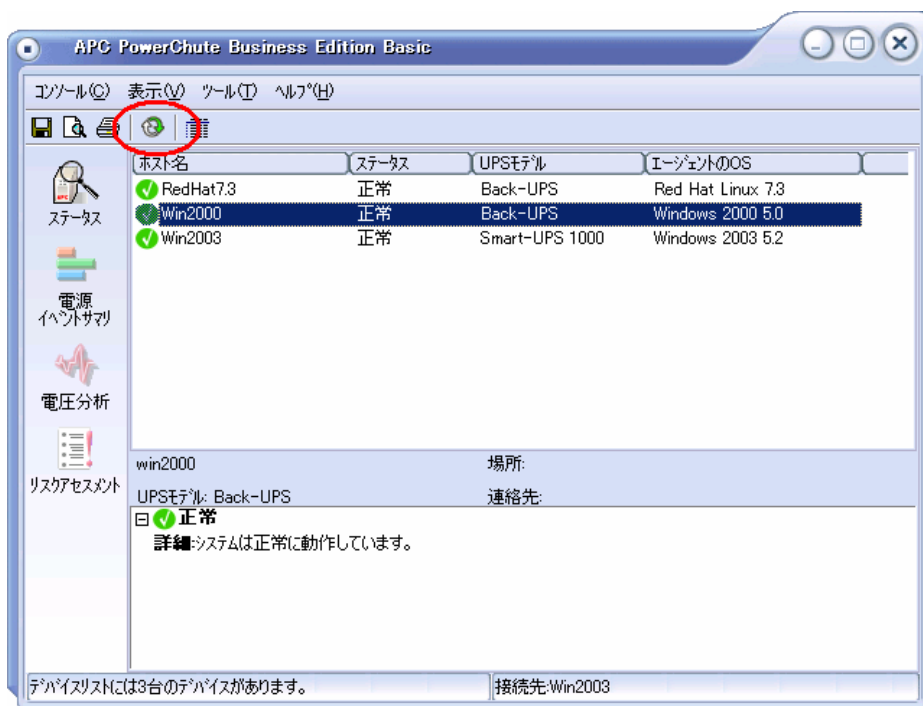
また、この時点ではシンプルシグナルのシリアルケーブルも接続しないでください。



⑤ デバイスのプロパティウィンドウに戻りますので、下記の丸で囲まれたボタンが「キャンセル」から「閉じる」に変わった後、他のメニューは選択せずに「閉じる」ボタンを押してください。

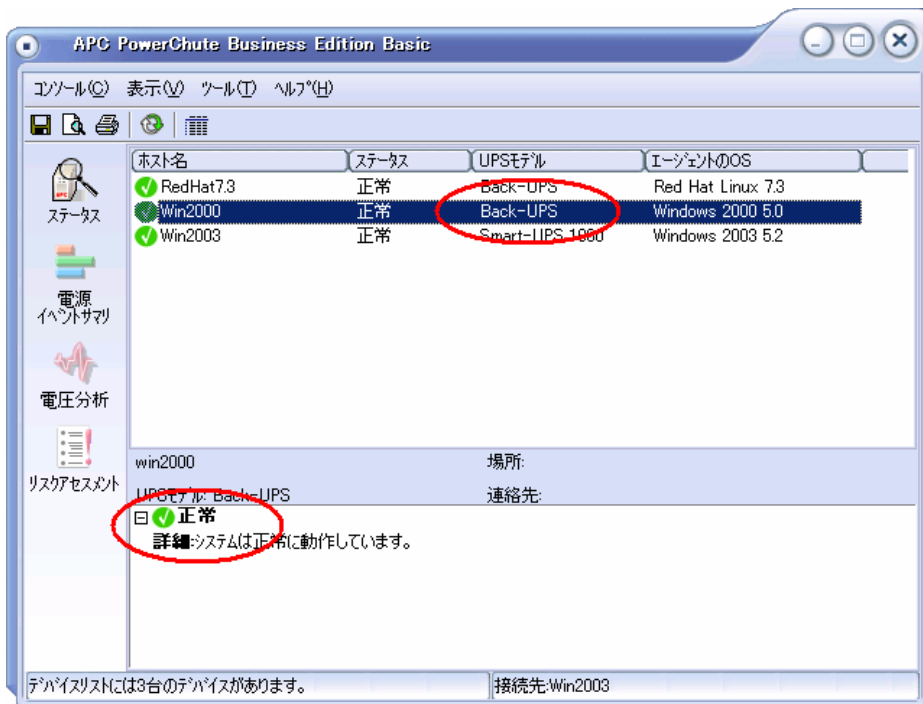


- ⑥ コンソールのメイン画面が表示されますので、データの更新ボタンをクリックし変更したシグナリングタイプの内容が正しく反映されているかを確認します。



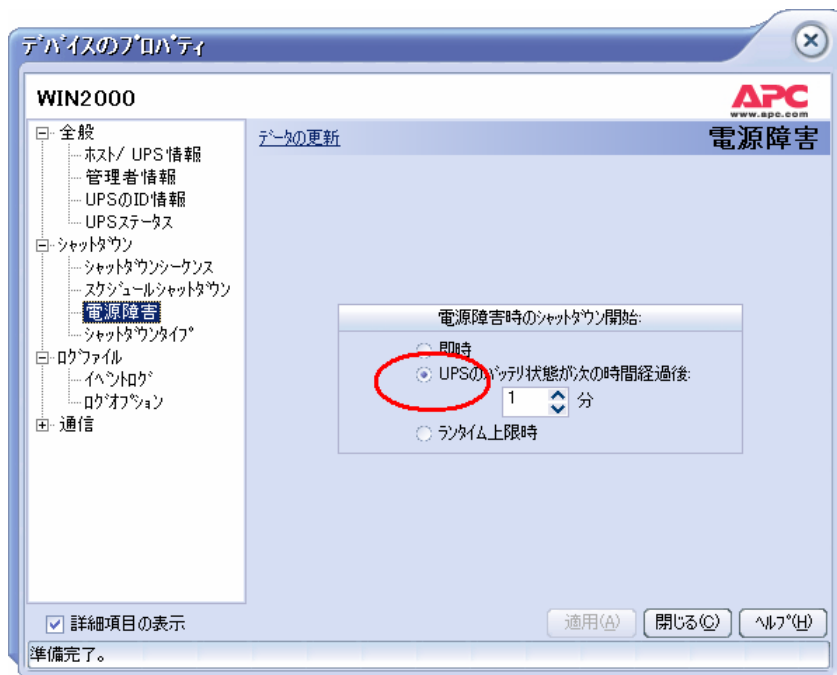
- ⑦ その後、シンプルシグナリング用のシリアルケーブル（灰色）をサーバに接続してください。

- ⑧ 対象のサーバの状態が「正常」であることを確認してください。

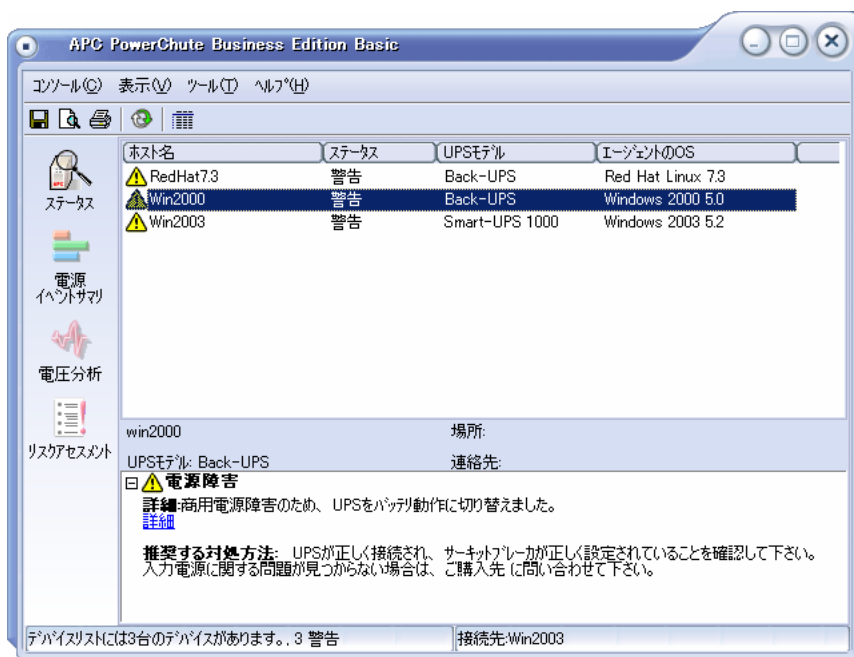


- ⑨ 次はUPSから送信される信号を正しく受信できるかを確認しますが、そのための準備として[シャットダウン]-[電源障害]の設定を確認します。**マルチサーバを構成するすべてのサーバ（マスタサーバおよびすべてのスレーブサーバ）について、「電源障害時のシャットダウン」の設定が『即時』以外**になっていることを確認してください。

※『即時』に設定されていると、⑩の確認操作時に直ちにサーバがシャットダウンされてしまいます。



- ⑩ UPS の電源コンセントを抜いて UPS をオンバッテリー状態にしてください。対象サーバが「電源障害」を検出した場合、シグナリングタイプの変更は正しく行われています。

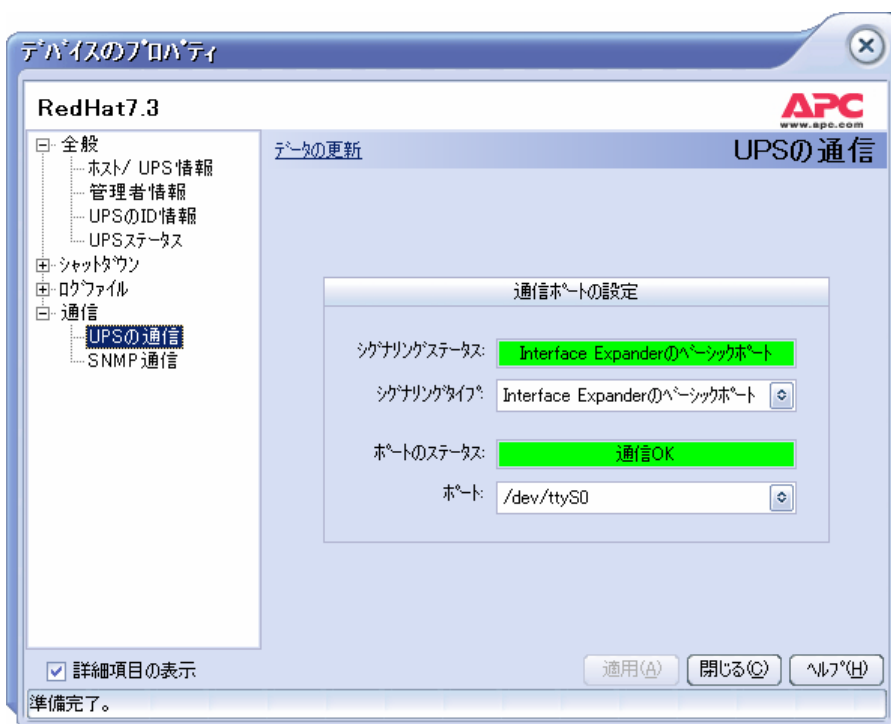


「電源障害」が検出されない場合はシリアルケーブルが PowerChute Business Edition にて設定されている「通信ポート」に正しく接続されているか、および「UPS インタフェース拡張ボード」または「マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)」と正しく接続されているかを確認してください。また、サーバ装置の仕様により使用可能なシリアルポートが限られている場合がありますので、サーバ装置添付のマニュアル等も確認してください。

⑪ ⑨において設定を変更した場合は、環境にあった設定に戻して使用してください。

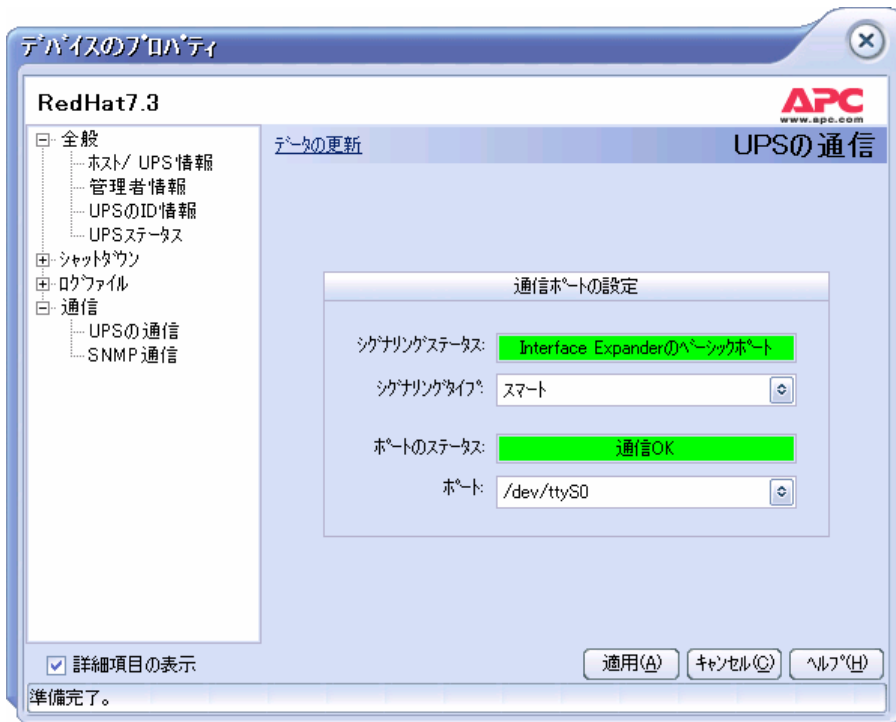
1 1.1.1.2 シンプルシグナリングからスマートシグナリングへの変更

① シグナリングタイプを変更するサーバのデバイスのプロパティを表示し、[通信]-[UPSの通信]を選択します。([通信]メニューは左下の「詳細項目の表示」のチェックをオンにすると表示されます) 現在設定されているシグナリングタイプ「Interface Expander のベーシックポート」が設定されています。



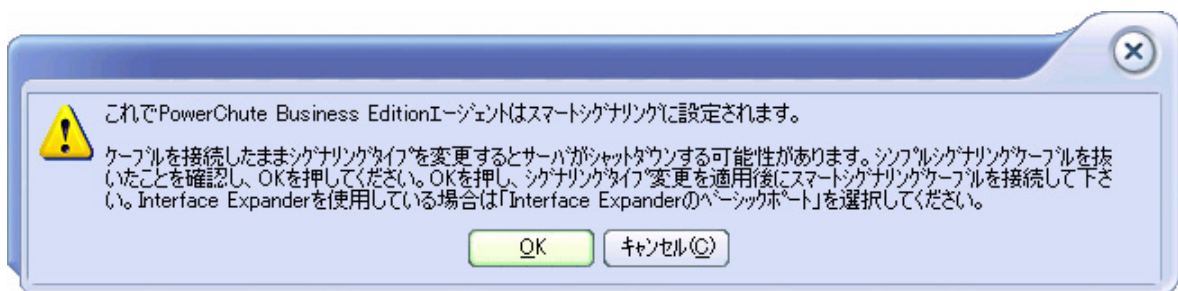
② サーバからシリアルケーブルを外してください。

③ ドロップダウンメニューより「スマート」を選択し、「適用」ボタンを押してください。

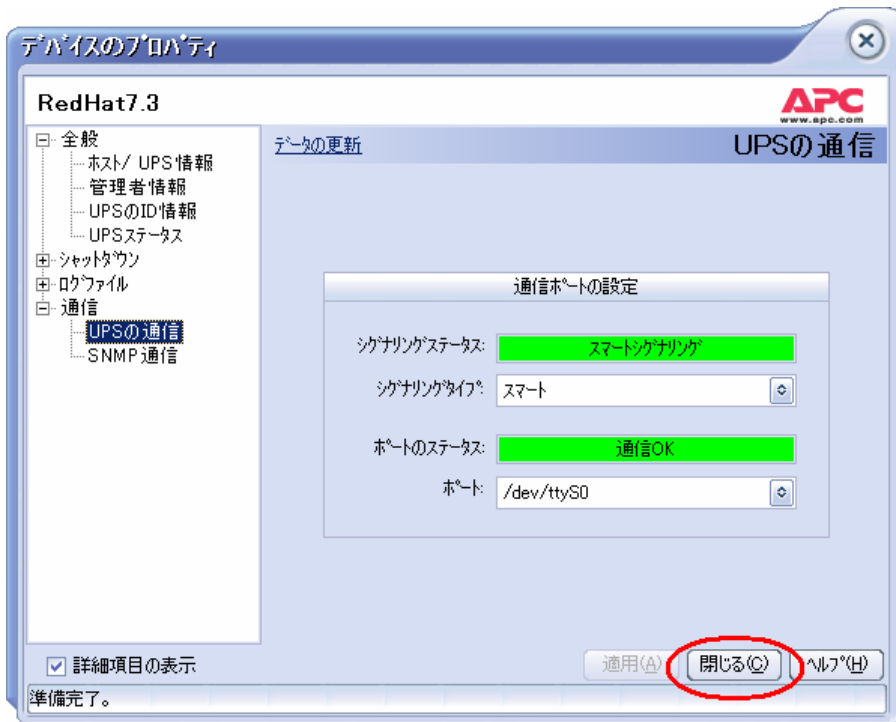


④ 以下のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンを押してください。
(このとき「通信切断」のイベントが発生します)

**注意：シリアルケーブルを外すまで、メッセージの「OK」ボタン押さないように注意してください。
また、この時点ではスマートシグナルのシリアルケーブルも接続しないでください。**



- ⑤ デバイスのプロパティウィンドウに戻りますので、下記の丸で囲まれたボタンが「キャンセル」から「閉じる」に変わった後、他のメニューは選択せずに「閉じる」ボタンを押してください。

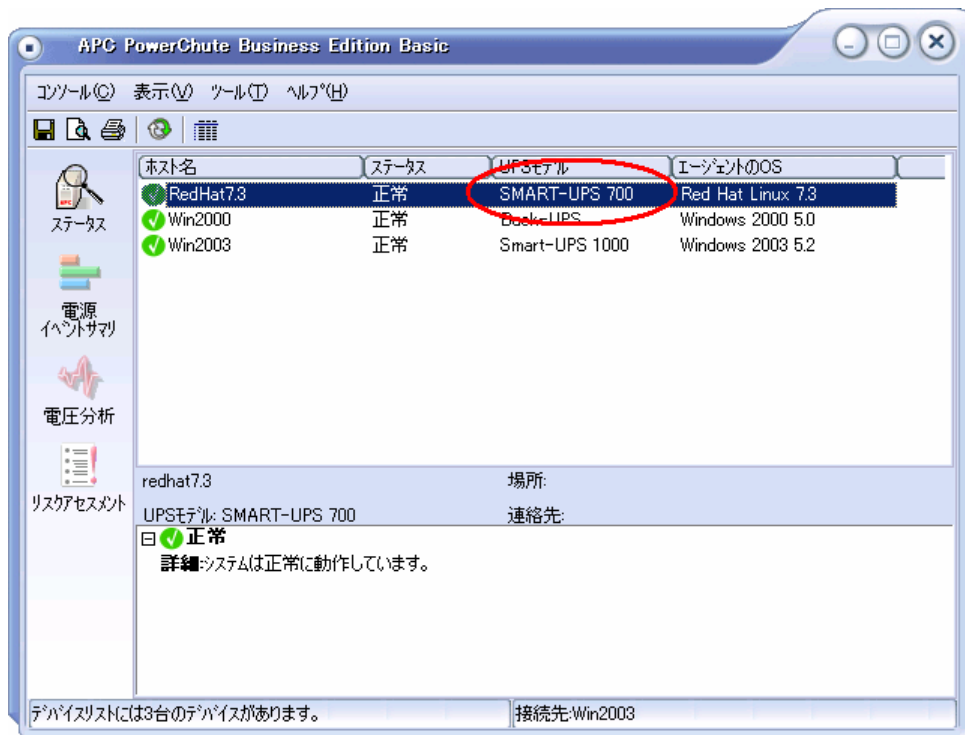


- ⑥ コンソールのメイン画面が表示されますので、データの更新ボタンをクリックしてください。サーバにケーブルが接続されていない状態であるため、しばらくするとステータスが「不明」表示されます。



- ⑦ その後、スマートシグナリング用のシリアルケーブル（黒色）をサーバに接続してください。
- ⑧ 対象サーバのステータスが「正常」かつ、「UPS モデル」に現在接続している UPS の名前が表示されます。

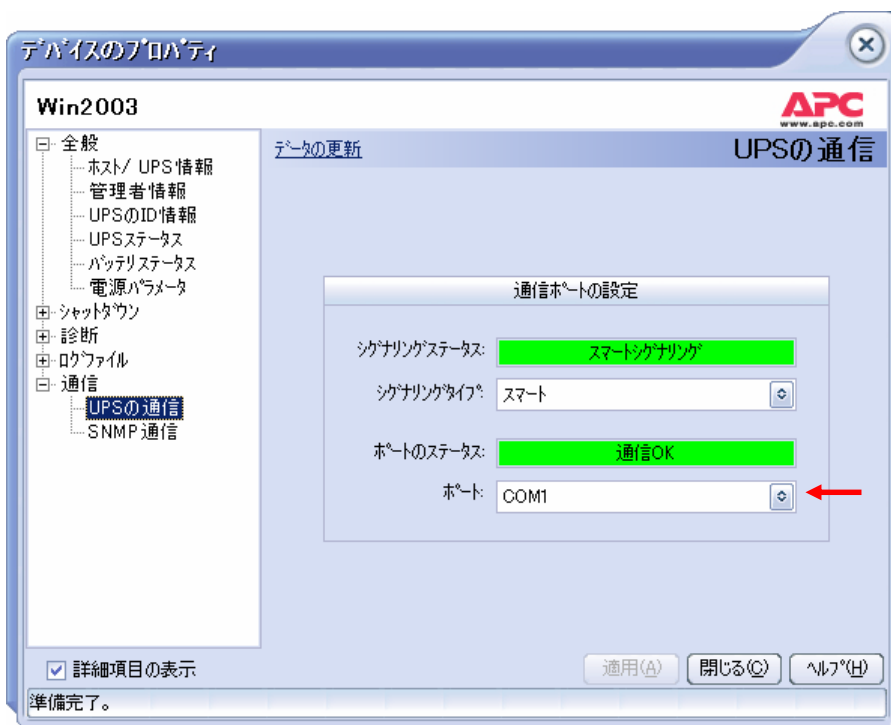
注意：スマートシグナリングに変更した場合、黒色シリアルケーブルをサーバに接続後、サーバと UPS の通信を確立するためにしばらく時間がかかります。



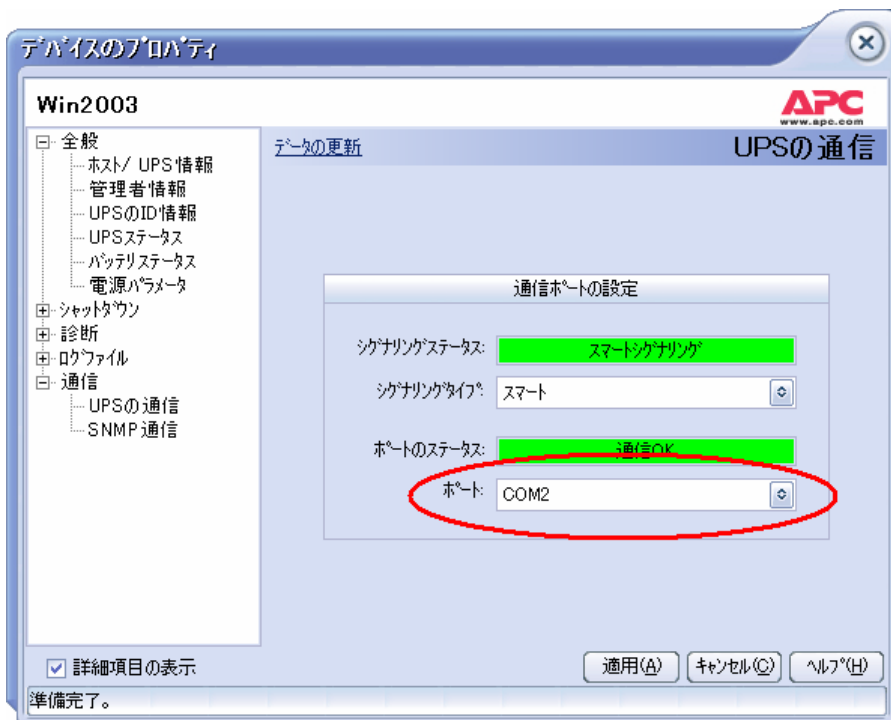
1.1.2 通信ポートの変更

PowerChute Business Edition コンソールからのシリアルポートの変更手順を説明します。

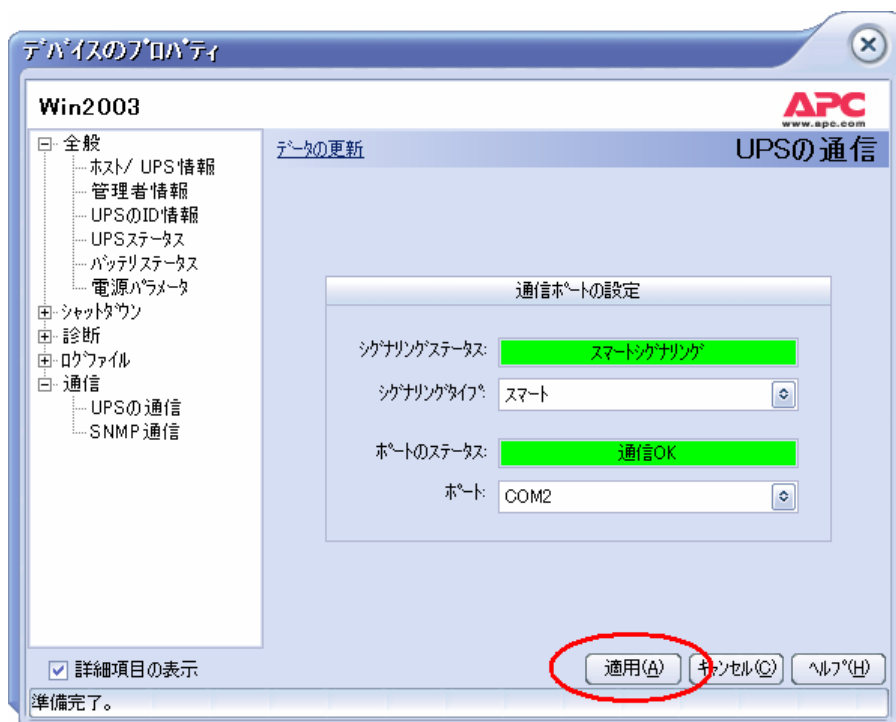
- ① 対象サーバのデバイスのプロパティを表示させ、[通信]-[UPSの通信]を表示させてください。現在設定されているシリアルポートが表示されます。



- ② ポートのドロップダウンメニューより、変更するシリアルポートを選択してください。



- ③ 「適用」 ボタンを押す前に、対象サーバサーバに接続されているシリアルケーブルを変更した通信ポートにつなぎかえてください。つなぎかえたら、「適用」 ボタンを押してください。
(つなぎかえることで、「通信切断」 のイベントが検出されます。)



- ④ 正しく変更されたかを確認するために、以下の確認を行ってください。

なお、対象サーバが使用しているシグナリングタイプにより、確認方法が異なりますので注意してください。

<スマートシグナリングで使用している場合>

「適用」 ボタン押下後、しばらく待ち、デバイスのプロパティウィンドウの[ログファイル]—[イベントログ]を参照してください。

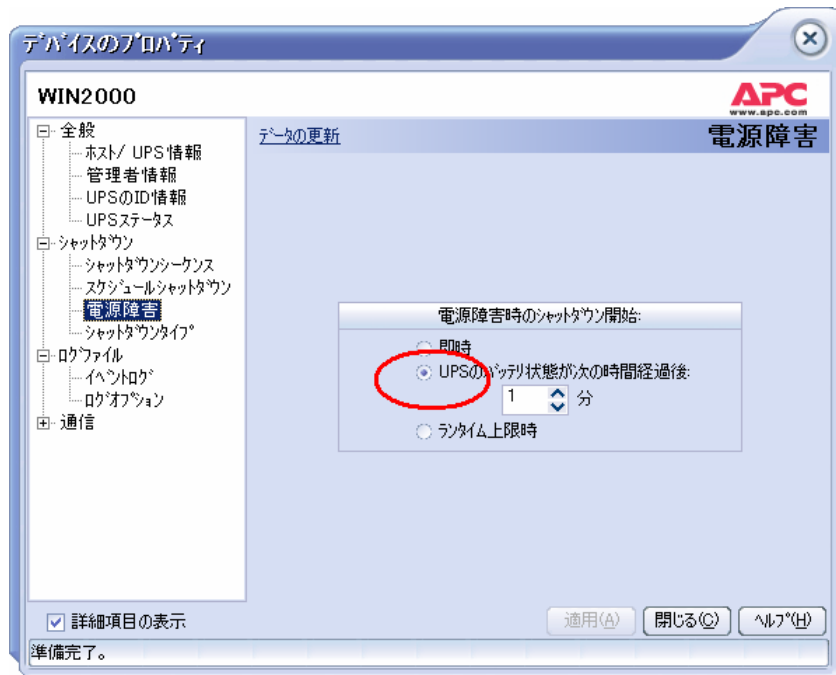
最新のログに「通信確立」が出力されている場合は、UPS との通信が確立しています。

最新のログが「通信切断」のままの場合は、UPS との通信が確立していません。シリアルケーブルが PowerChute Business Edition にて設定されている「通信ポート」に正しく接続されているか、および「UPS 装置」と正しく接続されているかを確認してください。サーバ装置の仕様により使用可能なシリアルポートが限られていることもありますので、サーバ装置に添付のマニュアル等で確認してください。

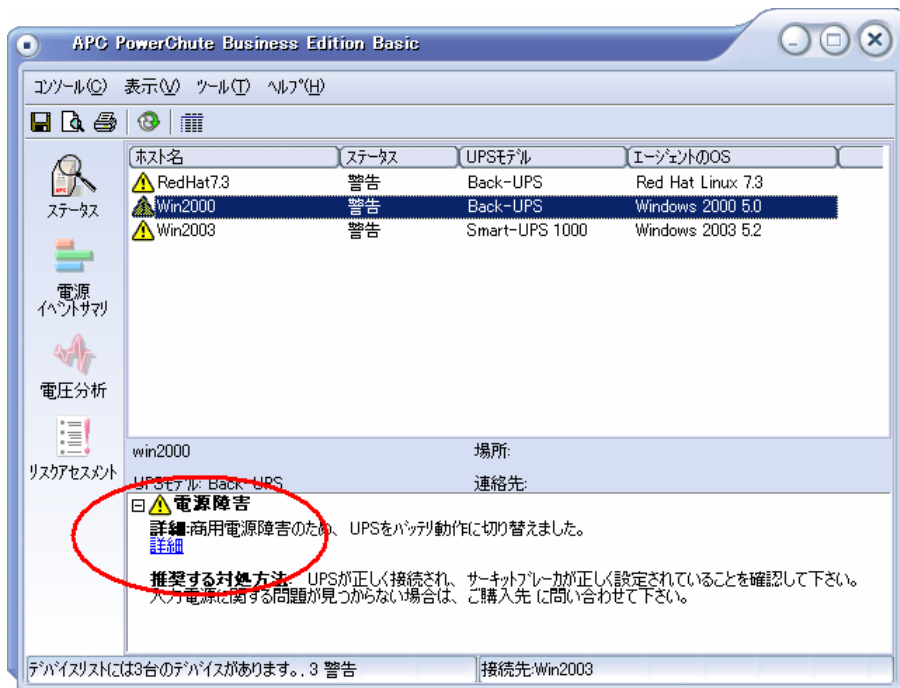
<シンプルシグナリングで使用している場合>

UPS から送られる信号を正しく受信できるかを確認するために、UPS をオンバッテリー状態にして「電源障害」 イベントを発生させますが、その前に **マルチサーバを構成しているすべてのサーバ（マスタサーバおよびすべてのスレーブサーバ）について** [シャットダウン]—[電源障害]の「電源障害時のシャットダウン開始」設定が『即時』以外に設定されていることを確認してください。

※『即時』に設定されていると、「電源障害」発生後すぐにサーバがシャットダウンされてしまいます。



PowerChute Business Edition コンソールのメイン画面を表示して、UPS の電源コンセントを抜き、UPS をオンバッテリー状態にしてください。UPS からの信号を正しく受信できている場合、対象サーバに「電源障害」が表示されます。

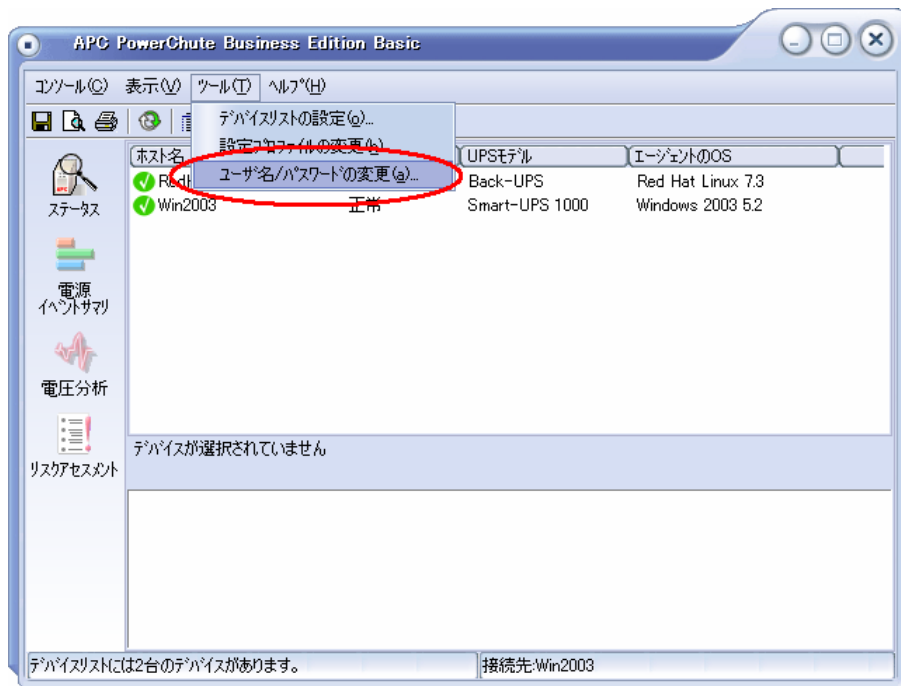


正しく受信できていない場合、状態が「正常」から変化しません。「電源障害」が検出されない場合はシリアルケーブルが PowerChute Business Edition にて設定されている「通信ポート」に正しく接続されているか、および「UPS インタフェース拡張ボード」または「マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)」と正しく接続されているかを確認してください。サーバ装置の仕様により使用可能なシリアルポートが限られていることもあります。サーバ装置添付のマニュアル等も確認してください。

1 2 ユーザ名、パスワードの変更

1 2. 1 ユーザ名、パスワードの変更手順

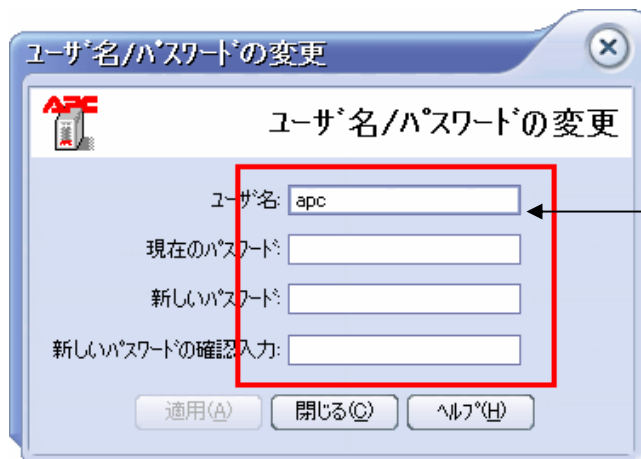
PowerChute Business Edition サーバおよび、エージェントのユーザ名/パスワードを変更する場合は、コンソールのメイン画面より、[ツール] → [ユーザ名/パスワードの変更]を選択します。



注意：現在のユーザ名/パスワードが分からない場合は、下記手順による変更はできません。現在のユーザ名/パスワードが分からない場合、PowerChute Business Edition サーバおよび、エージェントをアンインストールし、再度インストールしてください。

注意：下記手順によりユーザ名/パスワードを変更した場合、ログインしているサーバおよび登録されている全てのエージェントのユーザ名/パスワードが変更されます。

① ユーザ名/パスワードの変更画面が表示されます。



現在のユーザ名が表示されます。

ー ユーザ名を変更する場合

[ユーザ名]欄に新しいユーザ名を入力し、[現在のパスワード]欄にパスワードを入力した後、[適用]ボタンを選択してください。

ー パスワードを変更する場合

[パスワード]欄に現在のパスワードを入力し、[新しいパスワード]・[新しいパスワードの確認入力]欄に新しいパスワードを入力した後、[適用]ボタンを選択してください。

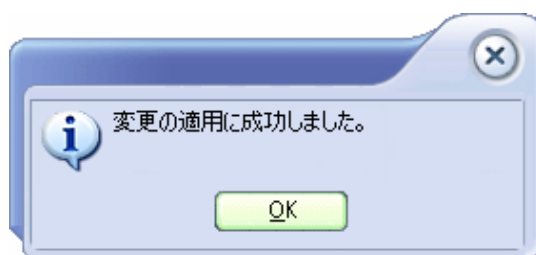
注意：パスワードのみを変更する場合は、ユーザ名は変更 / 削除しないで下さい。

ー ユーザ名とパスワードを同時に変更する場合

ダイアログボックスの全ての欄 ([ユーザ名]、[現在のパスワード]、[新しいパスワード]、[新しいパスワードの確認入力]) に値を入力してください。

注意：ユーザ名とパスワードには、コロン (:)、引用符 (")、疑問符 (?)、アスタリスク (*)、アンパサンド (&)、スペース ()、ダブルバイトとシングルバイトの日本語文字を使用できません。単一引用符 (') は使用できます。

② 正常に変更された場合、以下のメッセージが出力されます。



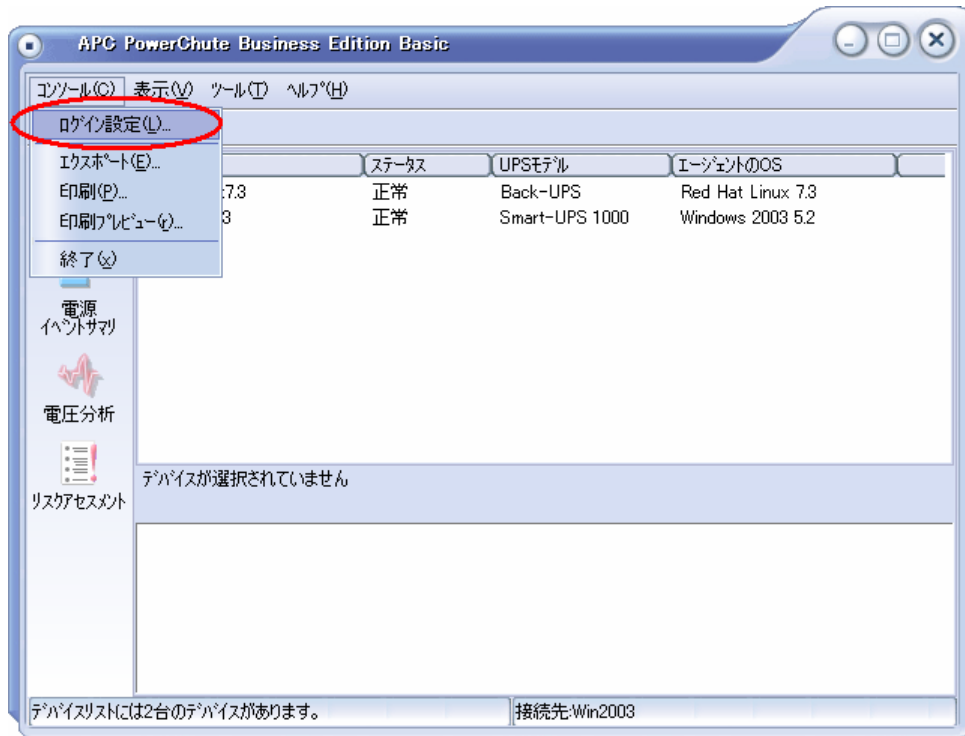
1 2. 2 確認方法

ユーザ名/パスワードの変更が正しく行われているかを確認します。

◆ PowerChute Business Edition コンソールからの確認方法

注意：ログイン画面の [ユーザ名とパスワードを保存する] チェックボックスを有効にしている場合、再設定するまで保存しているユーザ名/パスワード（ログイン時に表示されるユーザ名/パスワード）は変更前の値になります。下記の確認手順を実行し、保存しているユーザ名/パスワードを変更してください。

- ① コンソールのメイン画面より[コンソール] → [ログイン設定]を選択し、ログイン画面を表示します。



- ② 変更したユーザ名/パスワードを入力しログインします。コンソールのメイン画面が表示され、登録していたエージェントが表示されていれば問題ありません。

注意：新しいユーザ名/パスワードを保存する場合は、[ユーザ名とパスワードを保存する] チェックを有効にしていることを確認しログインしてください。



1 3 IP アドレス、コンピュータ名の変更

1 3. 1 IP アドレスを変更する場合

PowerChute Business Edition の各コンポーネントがインストールされているマシンの IP アドレスの変更は、以下の手順で行ってください。

- ◆ PowerChute Business Edition コンソールに表示されている、PowerChute Business Edition エージェントの IP アドレスを変更する場合

注意：PowerChute Business Edition エージェントをコンソールのデバイスリストから削除し、再登録する場合、再登録時に UPS の設定値および、WebUI にて設定した内容が設定プロファイルの内容に初期化されてしまいます。

- ① デバイスリストから削除する前に以下の設定情報をメモしておいてください。

(各設定値の確認は、「1 5.1.5 確認事項」を参照してください。)

「ローバッテリー信号時間」は WebUI でのみ確認、設定を行うことができます。

「OS シャットダウン期間」は WebUI では「OS シャットダウン待機時間」と表現されています。

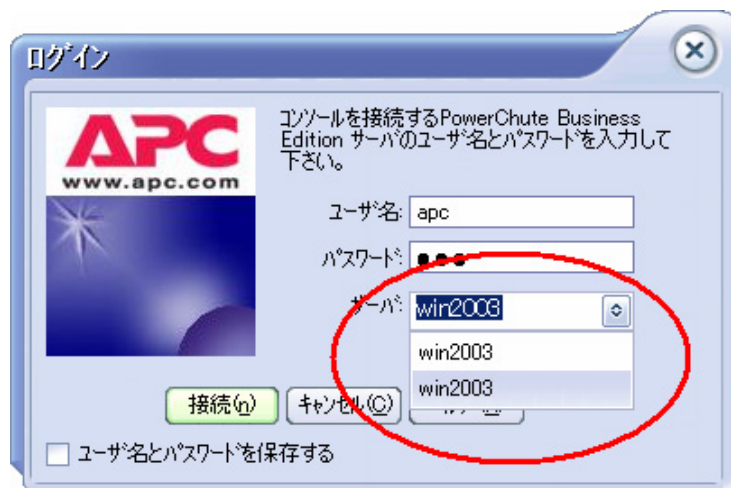
バッテリー切り替え値 (上限) ()VAC
バッテリー切り替え値 (下限) ()VAC
感度 ()
ローバッテリー信号時間 ()分
OS のシャットダウン期間 ()秒
UPS 再起動待機 (時間) ()秒
UPS 再起動待機 (容量) ()%
電源回復時の UPS 再起動 ()

WebUI を使用して PowerChute Business Edition エージェントの設定を個別に行った場合は、その設定情報もメモしておいてください。

- ② PowerChute Business Edition エージェントサービス(APC PBE Agent)を停止し、IP アドレスを変更します。
- ③ PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストから、変更をするエージェントを削除します。
- ④ PowerChute Business Edition エージェントサービス(APC PBE Agent)を起動し、PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストにエージェントを再登録します。
- ⑤ ①でメモした設定情報を設定します。

◆ PowerChute Business Edition サーバの IP アドレスを変更する場合

- ① PowerChute Business Edition コンソールから PowerChute Business Edition サーバにログインしている場合は、ログアウトします。
- ② PowerChute Business Edition サーバサービス(APC PBE Server)を停止し、IP アドレスを変更します。
- ③ PowerChute Business Edition サーバサービス(APC PBE Server)を起動します。
- ④ PowerChute Business Edition コンソールよりログインする際に、「ローカルサーバの検出」を実施します。同じサーバ名が 2 つ表示されますが、下に表示されたサーバ名に対しログインして下さい。



- ⑤ 「接続」 ボタンをクリックします。

◆ PowerChute Business Edition コンソールの IP アドレスを変更する場合

特に作業は必要ありません。

1 3. 2 コンピュータ名を変更する場合

PowerChute Business Edition の各コンポーネントがインストールされているマシンのコンピュータ名の変更は、以下の手順で行ってください。

◆ PowerChute Business Edition コンソールに表示されている、PowerChute Business Edition エージェントのコンピュータ名を変更する場合

- ① PowerChute Business Edition コンソールから PowerChute Business Edition サーバにログインしている場合は、ログアウトします。
- ② コンピュータ名を変更します。(変更を有効にするために、OS 再起動が必要となります。)
- ③ 再度 PowerChute Business Edition コンソールを起動し、ログインします。

◆ PowerChute Business Edition サーバのコンピュータ名を変更する場合

注意：PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition コンソールをアンインストールし、再度インストールする際に UPS の設定値および、WebUI にて設定した内容が設定プロファイルの内容に初期化されてしまいます。

- ① アンインストールする前に設定情報をメモしておいてください。
(1 3.1 IPアドレスを変更する場合(P.94) ①項を参照して下さい。)
- ② PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition コンソールをアンインストールします。
- ③ コンピュータ名を変更します。(変更を有効にするために、OS 再起動が必要となります。)
- ④ PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition コンソールを、再度インストールします。
- ⑤ ①項でメモした設定情報を設定します。

注意：PowerChute Business Edition エージェントもアンインストールした場合は、スケジュールシャットダウンの設定値など各種設定情報が削除されてしまいます。アンインストールする前に各種設定情報をメモし、再インストール後に各種設定値を再設定してください。

◆ PowerChute Business Edition コンソールのコンピュータ名を変更する場合
特に作業は必要ありません。

1 3. 3 IP アドレス、コンピュータ名を変更する場合

PowerChute Business Edition の各コンポーネントがインストールされているマシンの IP アドレス、コンピュータ名の変更は以下の手順で行ってください。

- ◆ PowerChute Business Edition コンソールに表示されている、PowerChute Business Edition エージェントの IP アドレス、コンピュータ名を変更する場合

注意：PowerChute Business Edition エージェントをコンソールのデバイスリストから削除し、再登録する場合、再登録時に UPS の設定値および、WebUI にて設定した内容が設定プロファイルの内容に初期化されてしまいます。

- ① PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストから削除する前に設定情報をメモしておいてください。
(1 3.1 IPアドレスを変更する場合(P.94) ①項を参照して下さい。)
- ② PowerChute Business Edition エージェントサービス (APC PBE Agent) を停止し、IP アドレス、コンピュータ名を変更します。(変更を有効にするために、OS 再起動が必要となります。)
- ③ PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストから、変更をするエージェントを削除します。
- ④ PowerChute Business Edition コンソールのデバイスリストにエージェントを再登録します。
- ⑤ ①項でメモした設定情報を設定します。

- ◆ PowerChute Business Edition サーバの IP アドレス、コンピュータ名を変更する場合

- ① PowerChute Business Edition コンソールから PowerChute Business Edition サーバにログインしている場合は、ログアウトします。
- ② PowerChute Business Edition サーバサービス(APC PBE Server)を停止し、IP アドレス、コンピュータ名を変更します。(変更を有効にするために、OS 再起動が必要となります。)
- ③ PowerChute Business Edition コンソールにログインする際に、「ローカルサーバの検出」を実施し、検出された変更後のコンピュータ名 (ホスト名) を選択します。



注意：変更前のコンピュータ名（ホスト名）がログイン画面のローカルサーバのリストに残ります。削除したい場合は、PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition コンソールをアンインストールし、再度インストールして下さい。

PowerChute Business Edition サーバと PowerChute Business Edition コンソールをアンインストールし、再度インストールする際に UPS の設定値および、WebUI にて設定した内容が設定プロファイルの内容に初期化されてしまいます。

アンインストールする前に設定情報をメモしておいてください。

（1 3.1 IPアドレスを変更する場合(P.94) ①項を参照して下さい。）

注意：PowerChute Business Edition エージェントもアンインストールした場合は、スケジュールシャットダウンの設定値など各種設定情報が削除されてしまいます。アンインストールする前に各種設定情報をメモし、再インストール後に各種設定値を再設定してください。

- ◆ PowerChute Business Edition コンソールの IP アドレス、コンピュータ名を変更する場合特に作業は必要ありません。

1 4 コンソールと WebUI における機能差分

機能		Console	WEB	備考
操作	「管理者情報」の設定	○	△	WebUIではメモの登録が不可
	「UPSのID情報」の設定	○	△	WebUIではデバイス1~4の設定が不可
	「バッテリー交換日」の設定	○	△	WebUIでは月まで登録が可能(日は不可)
	「バッテリー切替値(上限)」の設定	○	○	
	「バッテリー切替値(下限)」の設定	○	○	
	「感度」の設定	○	○	
	「警告音」の設定	○	○	
	「コマンドファイル」の設定	○	○	
	「コマンドファイル待機時間」の設定	○	×	コマンドファイル実行を開始するまでの待機時間
	「コマンドファイル期間」の設定	○	○	コマンドファイルの実行に要する時間
	「コマンドファイル」のテスト	○	×	コマンドファイルをテストする
	「OSシャットダウン待機時間」の設定	○	×	OSシャットダウンを開始するまでの待機時間
	「OSシャットダウン期間」の設定	○	○	OSのシャットダウンが開始されてからUPSがOFFになるまでの時間の設定
	「シャットダウンタイプ」の設定	○	○	
	「ローバッテリー信号時間」の設定	×	○	
	「ローランタイムしきい値」の設定	△	○	Consoleでは「OSシャットダウン待機時間」+「OSシャットダウン期間」に自動で設定される。WebUIでは値を直接設定可能。
	「スケジュールシャットダウン」の設定	○	×	
	「電源障害時のシャットダウン開始までの待機時間」の設定	○	○	WebUIでは[イベント]→[アクション]の「バッテリー状態しきい値超過」イベントで設定可能
	「電源回復時のUPS再起動の有無」の設定	○	○	
	「UPS再起動待機(容量)」の設定	○	○	
	「UPS再起動待機(時間)」の設定	○	○	
	「セルフテスト」の実行	○	○	
	「セルフテスト診断スケジュール」の設定	×	○	設定可能なパラメータは「起動時」、「7日ごと」、「14日ごと」、「しない」
	「UPSランタイム較正」の実行	○	○	
	「UPSランタイム較正」の停止	○	○	
	「データログ」のクリア	○	○	
	「データログの採取の有無」の設定	○	○	
	「データログ記録間隔」の設定	○	○	
	「データログ表示項目」の設定	×	○	
	「イベントログ」のクリア	○	○	
「イベントログの採取の有無」の設定	○	○	WebUIではイベントごとに設定が可能	
「イベントログサイズ」の変更	○	○	Consoleではイベントの数、WEBでは有効期間を設定	
「イベントアクション」の設定	×	○		
「AgentからのイベントのE-Mail通知」の設定	×	○		
「ServerからのイベントのE-Mail通知」の設定	○	×		
「ServerからのイベントのE-Mail通知」のテスト	○	×		

機能		Console	WEB	備考
	「イベントのブロードキャスト通知先」の設定 (Agent)	×	○	
	「イベントのブロードキャスト通知先」の設定 (Server)	○	×	
	「イベントのブロードキャスト通知先」のテスト (Server)	○	×	
	「シグナリングタイプ」の変更	○	○	
	「UPS通信ポート」の変更	○	○	
	「SNMP通信の有効/無効」の設定	○	×	
	「手動でのサーバのシャットダウン」の実行	○	○	
	同「シャットダウン開始までの時間」の設定	○	○	
	「手動でのサーバのシャットダウン(再起動あり)」の実行	○	○	
	同「再起動までの待機時間」の設定	○	○	
確認	「サーバのIPアドレス」の表示	○	○	
	「エージェントのバージョン」の表示	○	○	
	「サーバのOS」の表示	○	○	
	「UPSモデル」の表示	○	○	
	「UPSのシリアル番号」の表示	○	○	
	「UPSの製造日」の表示	○	○	
	「ファームウェアのリビジョン」の表示	○	○	
	「バッテリー交換日表示」の表示	○	○	
	「UPSステータス」の表示	○	○	
	「UPS内部温度」の表示	○	○	
	「UPS出力電圧」の表示	○	○	
	「UPS入力電圧」の表示	○	○	
	「UPS出力周波数」の表示	○	○	
	「UPS負荷」の表示	○	○	
	「バッテリーのステータス」の表示	○	○	
	「バッテリー電圧」の表示	○	○	
	「ランタイム残量」の表示	○	○	
	「バッテリー容量」の表示	○	○	
	「シグナリングタイプ」の表示	○	○	
	「ポートのステータス」の表示	○	×	
	「イベントログ」の表示	○	○	
	「データログ」の表示	○	○	
	「電源イベント」のグラフ表示	○	×	
	「入力電圧」のグラフ表示	○	×	
	「リスクアセスメント」の表示	○	×	

1 5 障害発生時の資料採取方法

ここでは障害が発生した場合の資料採取方法を説明します。以下に記載されている障害資料を採取し、「1 5.2 障害調査依頼票」に記載されている情報を調べてください。

※重要

『UPS インタフェース拡張ボード』または『マルチサーバ接続 BOX (Share UPS)』を使用し、マルチサーバ構成にて運用中の場合は、すべてのサーバ(マスタサーバ、スレーブサーバ)の資料を採取して送付してください。

1 5. 1 障害時の資料採取

以下に採取が必要な障害資料を記載します。

1 5. 1. 1 PowerChute Business Edition のログ

■ PowerChute Business Edition エージェント

(1) エクスプローラ等で PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているフォルダを開く。(デフォルト：¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent)

(2) その中にある下記ファイルおよびフォルダを FD 等の媒体に保存する。

[エージェントインストールフォルダ直下]

- DataLog
- EventLog
- m11.cfg (注意：m11 の 1 は数字の 1 です。)
- m11.bak (注意：m11 の 1 は数字の 1 です。)
- debug.txt
- data.dat
- pcbeproxy.txt
- cmdfile.log (存在する場合のみ採取してください)

[エージェントインストールフォルダ下の「cmdfiles」フォルダ]

- 「cmdfiles」フォルダおよびその配下のすべてのファイルを保存する。

[エージェントインストールフォルダ下の「utils」フォルダ]

- pcbeproxy.ini
- UPSSleep.log (UPSSleep.exe を実行した場合、デフォルトではここに作成されます)
- EventLog.txt
- Export.log

※EventLog.txt、Export.log は「utils」フォルダ内の Export.exe を実行すると作成されます。

Export.exe 実行後にファイルを採取してください。

■ PowerChute Business Edition サーバ

- (1) エクスプローラ等で PowerChute Business Edition サーバ がインストールされているフォルダを開く。(デフォルト：¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥server)
- (2) その中にある下記ファイルを FD 等の媒体に保存する。
 - ・ m11.cfg (注意：m11 の 1 は数字の 1 です。)
 - ・ m11.bak (注意：m11 の 1 は数字の 1 です。)
 - ・ data.dat
 - ・ debug.txt

■ PowerChute Business Edition コンソール

- (1) エクスプローラ等で PowerChute Business Edition コンソール がインストールされているフォルダを開く。(デフォルト：¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition¥console)
- (2) その中にある下記ファイルを FD 等の媒体に保存する。
 - ・ console.ini

1 5.1.2 OS のイベントログの採取

イベントログは、システムログとアプリケーションログの両方を採取してください。

※イベントログのサイズは設定によって異なりますが、各 FD 1 枚ぐらいが目安です。

- ① [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[管理ツール]のイベントビューアを起動します。
- ② ツリーでアプリケーションログを表示させ、【操作】を指定し、【ログファイルの名前を付けて保存】を選択します。
- ③ ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。ログがセーブされます。
- ④ セーブしたファイルを FD 等の媒体に採取してください。
- ⑤ 同様にして、システム (ツリーでシステムログを指定) のイベントログも採取してください。

1 5.1.3 システム情報ファイル

システム情報ファイルを FD 等の媒体に保存してください。

システム情報ファイルのサイズは環境によって異なりますが、FD 1 枚ぐらいが目安です。

◆ Windows Server 2003/Windows XP の場合

① <Windows Server 2003 の場合>

スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を起動し、『名前』の入力欄に「msinfo32.exe」と入力してください。「システム情報」が起動します。

<Windows XP の場合>

スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]の「システム情報」を起動します。

- ② メニューから【ファイル】→【上書き保存】を選択します。
- ③ 名前をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名を入力して「保存」ボタンをクリックしてください。システム情報ファイルがセーブされます。
- ④ セーブしたファイルを FD 等の媒体に採取してください。

◆ Windows 2000 の場合

- ① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]を起動し、その中の「管理ツール」→「コンピュータの管理」を起動します。
- ② ツリーでシステム情報を選択します。
- ③ メニューから【操作】→【システム情報ファイルとして保存】を選択します。
- ④ 名前をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。システム情報ファイルがセーブされます。
- ⑤ セーブしたファイルを FD 等の媒体に採取してください。

1 5.1.4 Collect ログと IPMI ログ

ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合は、Collect ログおよび IPMI ログを採取してください。採取方法を以下に示します。

採取作業はローカルサーバ上で行ってください。

◆ Collect ログの採取

Collect ログは、ESMPRO/ServerAgent の「collect.exe」で採取します。collect.exe は ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ（デフォルトは ¥ESM）の ¥tool フォルダ配下にあります。

collect.exe により採取される情報は、ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ下の「¥ tool ¥ log」フォルダに保存されますので、そのフォルダ内のファイルおよびフォルダを送付してください。

◆ IPMI ログの採取

IPMI ログは、ESMPRO/ServerAgent もしくは ESMPRO/ServerManager の「ESRAS ユーティリティ」で採取します。

ESRAS ユーティリティを起動し、ツリー内のローカルサーバをクリックしてください。すると“ローカルコンピュータの情報を取得しますか？”と表示されますので、「OK」をクリックしてください。サーバの情報取得処理が終了した後に、ツリーの「Intelligent Platform Management Interface (IPMI) 情報」にマウスカーソルをあわせ、右クリックで表示されるメニューから「現在の IPMI 情報をバックアップする」を選択し、IPMI 情報をバックアップしてください。

※このとき、指定するファイル名は「ipmi.dat」にしてください。

1 5.1.5 確認事項

下記にあります確認事項の項目も採取してください。

(1) BIOS の設定

サーバ装置における BIOS の設定により、UPS からの電力供給が開始されても、サーバが起動しない場合があります。BIOS の設定を確認してください。

== UPS を使って自動運転を行う場合の注意 ==

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK (AC 連動モード) を「Power ON」にさせていただく必要があります。BIOS の設定方法については、サーバにより異なります。サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。

注意：AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」と記載されている場合があります。

(2) WebUI を使用するための準備

採取していただく資料の中にはWebUIのみでしか確認できない情報があります。「8 WebUIでの操作」を参照して、WebUIを使用する準備ができていることを確認してください。

(3) PowerChute Business Edition 各コンポーネントのバージョン情報の確認

PowerChute Business Edition コンソールを使用して情報の確認をします。

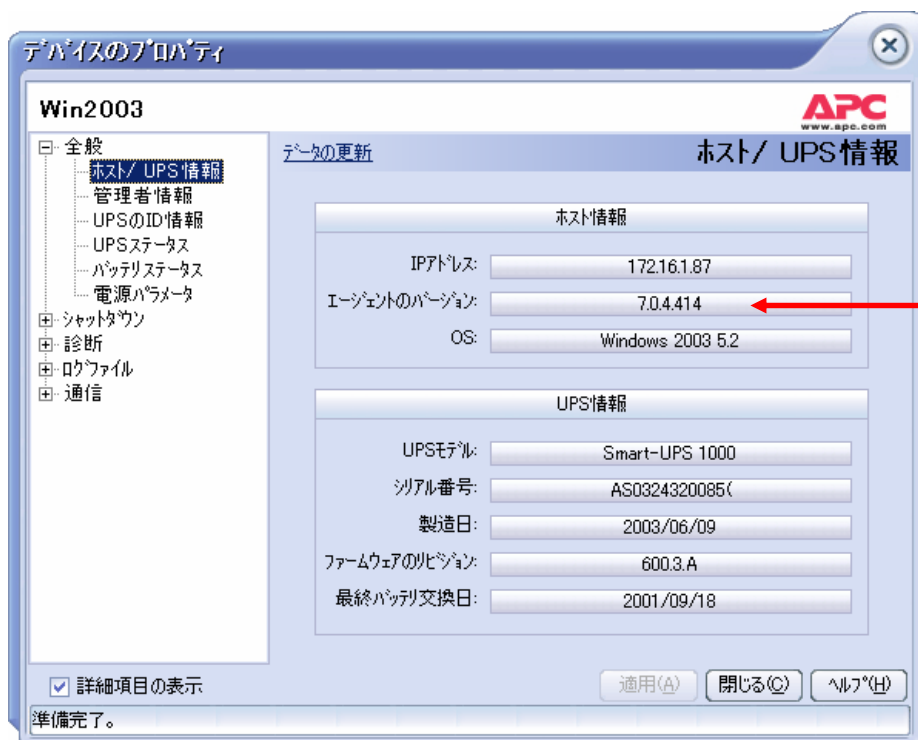
PowerChute Business Edition コンソールを起動し、メインメニューの「ヘルプ」→「バージョン情報」を起動してください。以下の赤丸で囲まれている情報を「障害調査依頼票」の該当個所にそれぞれ記録してください。



PowerChute Business Edition
コンソールのバージョン情報
を障害調査依頼票の該当個所
に記入

PowerChute Business Edition
サーバのバージョン情報を
障害調査依頼票の該当個所
に記入

次に、障害が発生したサーバ（マルチサーバ構成をしている場合、マルチサーバを構成しているサーバすべて）のエージェントの情報を確認します。PowerChute Business Edition コンソールで対象サーバを選択し、右クリックして「プロパティ」を選択して「デバイスのプロパティ」ウィンドウを表示させてください。「全般」→「ホスト/UPS 情報」を選択して、以下の矢印で示された情報を「障害調査依頼票」に記録してください。



PowerChute Business Edition
エージェントのバージョン
情報を障害調査依頼票の該
当個所に記入

<参考>

WebUI から PowerChute Business Edition エージェントのバージョン情報を確認することはできませんが、PowerChute Business Edition サーバおよび PowerChute Business Edition コンソールのバージョン情報は確認できませんので注意してください。

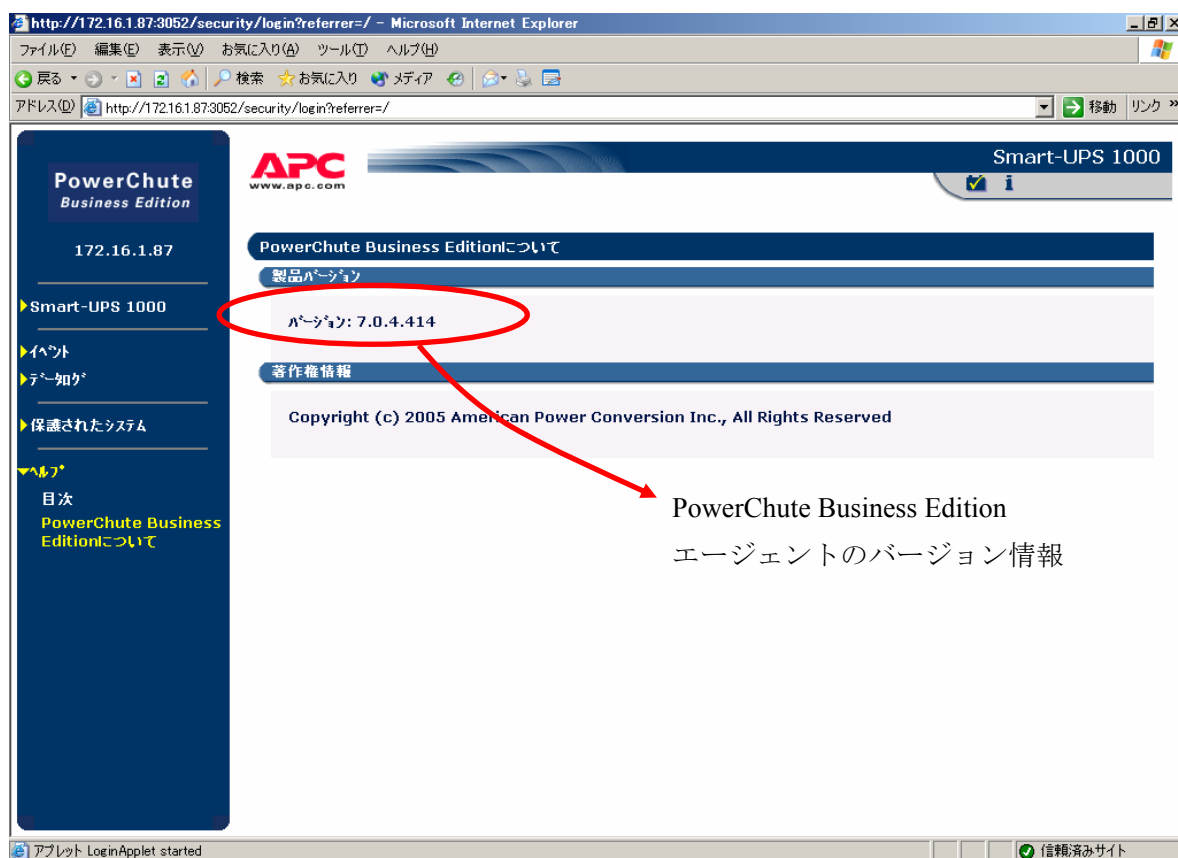
【PowerChute Business Edition エージェントのバージョン情報を WebUI にて確認する方法】

WebUI を使用して PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバに接続し、PowerChute Business Edition エージェントのバージョン情報を確認します。

(「ヘルプ」 → 「PowerChute Business Edition について」 を選択します。)

接続方法：ブラウザを起動し下記 URL を入力してください。

<http://172.16.1.87:3052> (エージェントがインストールされているサーバの IP アドレス:3052)



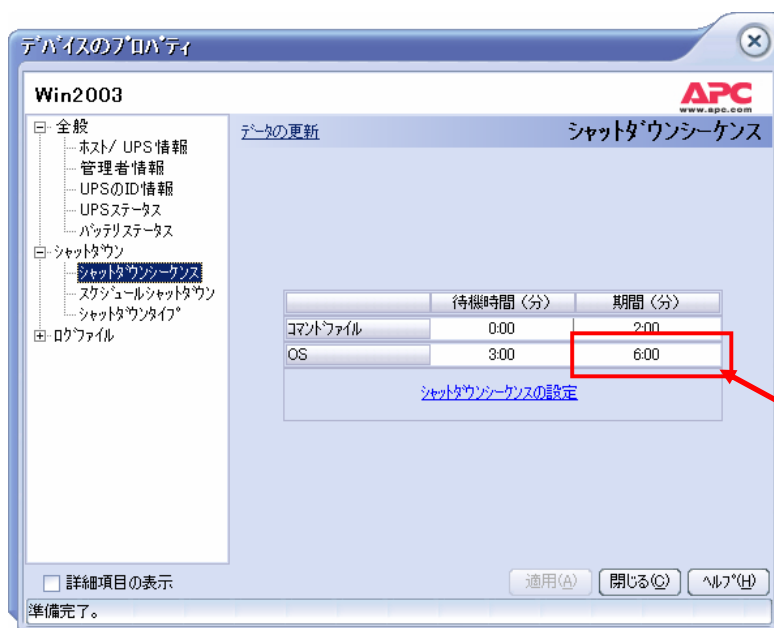
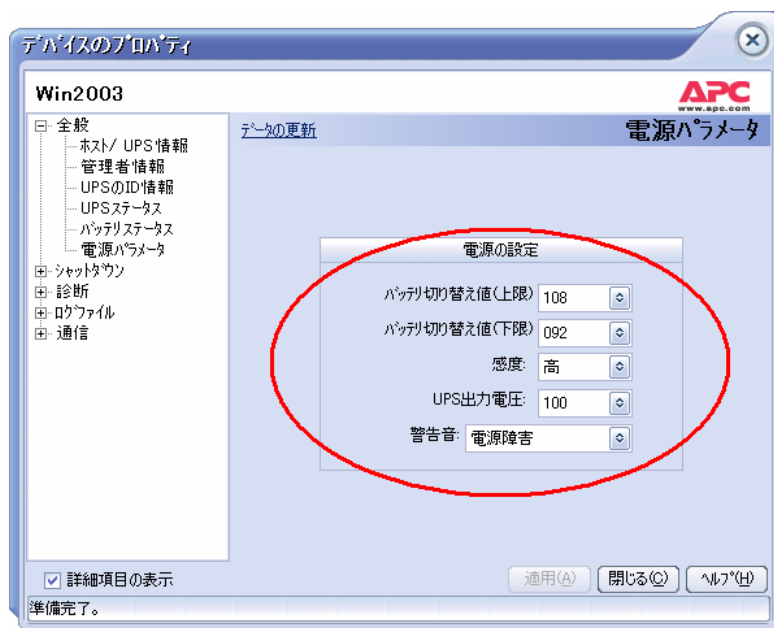
(4) UPS の設定値の確認

UPS の設定値（「バッテリー切り替え値（上限）」、「バッテリー切り替え値（下限）」、「感度」、「OS シャットダウン期間」、「電源回復時の UPS 再起動」）を確認します。

これらの情報は Smart-UPS 側の RAM に保持される情報のため、PowerChute Business Edition ログに記載されません。下記手順により各設定値を確認し、「15.2 障害調査依頼票」に記載してください。

① PowerChute Business Edition コンソールでの確認

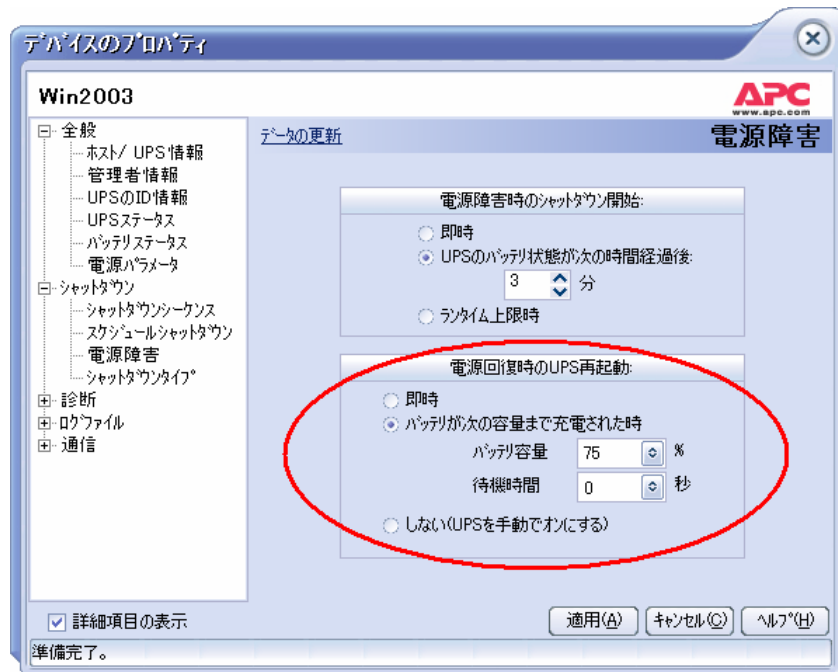
PowerChute Business Edition コンソールを起動し「デバイスのプロパティ」画面で各パラメータを調べてください。（ツリーの「全般」→「電源パラメータ」および「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」を選択します。「電源パラメータ」を表示するには「詳細項目の表示」にチェックを入れてください。）



OS シャット
ダウン期間

次に、ツリーの「シャットダウン」→「電源障害」を選択します。

以下に示されている、「電源回復時のUPS再起動」の設定内容を障害調査票に記入してください



“即時”または“バッテリーが次の容量まで充電された時”を選択している場合は、障害調査票内の「OSの再起動を有効にする」の欄に「はい」と記入してください。

“しない (UPSを手動でオンにする)”を選択している場合は、「OSの再起動を有効にする」の欄に「いいえ」と記入してください。

② WebUI での確認

WebUI で PowerChute Business Edition エージェントがインストールされているサーバに接続して以下の各パラメータを確認し、「障害調査依頼票」に記録してください。

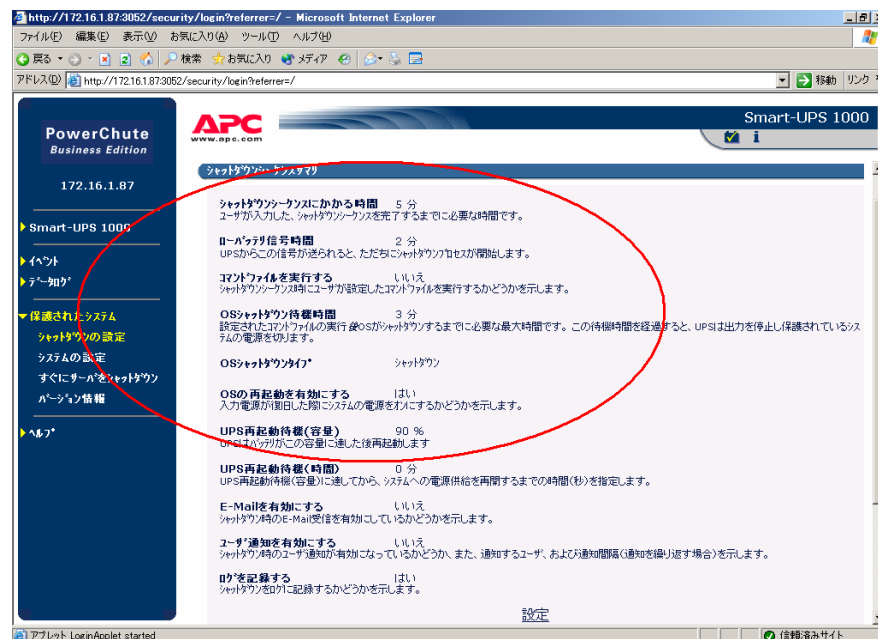
接続方法：ブラウザを起動し下記 URL を入力してください。

<http://エージェントがインストールされているサーバのIPアドレス:3052>

「UPS 種類」 → 「設定」を選択します。



「保護されたシステム」 → 「シャットダウンの設定」を選択します。



(5) 拡張オプション機器の情報

以下に示している拡張オプション機器を使用している場合は、その製品も「障害調査依頼票」に記入してください。

- ・ SNMP カード
- ・ UPS インタフェース拡張ボード
- ・ マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)

※ 「UPS インタフェース拡張ボード」または「マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)」を使用されている場合、使用しているモード、およびディップスイッチの設定値についての情報も記入してください。

(6) 「障害調査依頼票」に記載されているその他の情報を収集し、記入してください。

1 5. 2 障害調査依頼票

「1 5. 1. 5 確認事項」にて確認した内容を、下記の該当個所に記入してください。

《環境情報》

◆ソフトウェア情報◆

○ 製品

- PowerChute Business Edition バージョン () 型番 (ULM)
- PowerChute Business Edition エージェント バージョン ()
 - PowerChute Business Edition サーバ バージョン ()
 - PowerChute Business Edition コンソール バージョン ()

○ その他の製品

- ネットワークプロトコル ※全て記入してください
(例) TCP/IP、NetBIOS プロトコル (LANManager)

○ PowerChute Business Edition の設定値

- バッテリー切り替え値 (上限) () VAC
バッテリー切り替え値 (下限) () VAC
感度 ()
ローバッテリー信号時間 () 分
OS シャットダウン期間 () 秒
UPS 再起動待機 (時間) () 秒
UPS 再起動待機 (容量) () %
電源回復時の UPS 再起動 ()

※注意

「OS シャットダウン期間」は WebUI では「OS シャットダウン待機時間」と表現されています。

○ PowerChute Business Edition で使用しているユーザ名、パスワード

- ユーザ名 ()
パスワード ()

◆ハードウェア情報◆

○ UPS

Smart-UPS () 型番 (MN)

・接続形態 : シリアル接続

・シグナリングタイプ : スマート シンプル

・通信ケーブル型番 ()

※『UPS インタフェース拡張ボード』または『マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)』を使用している場合は、必ず通信ケーブル型番を記入してください。

・拡張オプション機器 :

SNMP カード MN 型番 ()

UPS インタフェース拡張ボード MN 型番 ()

マルチサーバ接続 BOX(Share UPS) MN 型番 ()

※『UPS インタフェース拡張ボード』または『マルチサーバ接続 BOX(Share UPS)』を使用している場合、以下のモード設定についての情報も記入してください。また、その際にディップスイッチの各設定値も記入してください。

コンファームモード

ローバッテリーモード

タイマーモード

ディップスイッチの各設定値 ()

○ サーバ本体機種 ※OS(SP 含む)も含めて全て記入してください

・機種

本体装置 ()

BIOS : AC-LINK の設定値 ()

・OS

Windows : () ※2000、XP、Server 2003 など

ServicePack ()

○ その他関連ハードウェア (MN 型番も記載してください。)

《構成図》

各サーバに接続しているケーブルの型番も明記してください。

《お問い合わせ内容》

《添付ログファイルの有無》

有 無